

新設する大学の情報

基 本 計 画								
事 項	記 入 欄						備 考	
計 画 の 区 分	短期大学の設置							
フ リ ガ ナ 設 置 者	ガッコウホウジン ミウラガクエン 学校法人 三浦学園							
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	アリアケキョウイクゲイジュツタンキダイガク 有明教育芸術短期大学 (Ariake Junior College of Education and Art)							
大 学 本 部 の 位 置	東京都江東区有明二丁目1番216							
大 学 の 目 的	<p>本学は、豊かな人間性と国際社会に即応できる独創性を備え、すぐれた教育能力や芸術教養を身につけた人材を育成し、人々の生活の充実と教育や芸術の発展に寄与することを目的とする。また本学は、人類の教育と芸術という二つの遺産を尊重し、わが国や外国の教育や芸術を育んだ知と技の伝統に学び、教育や芸術が人間の生活に関わる実際とその理想を探求することを使命とする。</p>							
新 設 学 部 等 の 目 的	<p>子ども教育学科においては、子ども理解を基本とした教育研究を拠り所とする、表現コミュニケーション能力とセラピーマインドを身につけた幼児教育者の育成を目的とする。</p> <p>芸術教養学科においては、我が国の伝統芸術に重点を置きつつ、音楽・舞踊・演劇を中心とした芸術に関する教養を学生に身に付けさせ、地域社会と連携しつつ芸術文化の普及に貢献する人材の養成を目的とする。</p>							
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 員 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	開 設 時 期 及 び 開 設 年 次	所 在 地
	子ども教育学科 Course of Childhood Education	3	100	—	300	短期大学士 (幼児教育)	平成21年4月 第1年次	東京都江東区有明 二丁目1番216
	芸術教養学科 Course of Arts and Communication	2	90	—	180	短期大学士 (芸術教養)	平成21年4月 第1年次	
	音楽コース Class of Music							
	舞踊コース Class of Dance							
演劇コース Class of Theatre								
	計		190	—	480			
同 一 設 置 者 内 に お け る 変 更 状 況 (定員の移行、 名称の変更等)	該当なし							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	子ども教育学科	39 科目	38 科目	10 科目	87 科目	106 単位			
	芸術教養学科	32 科目	38 科目	50 科目	120 科目	73 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	子ども教育学科	4人 (4)	3人 (2)	7人 (3)	0人 (0)	14人 (9)	1人 (1)	37 (18)
		芸術教養学科	7人 (7)	1人 (1)	3人 (3)	0人 (0)	11人 (11)	3人 (3)	39 (32)
		計	11人 (11)	4人 (3)	10人 (6)	0人 (0)	25人 (20)	4人 (4)	76 (50)
	既設		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
		計	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	合計		11人 (11)	4人 (3)	10人 (6)	0人 (0)	25人 (20)	4人 (4)	76 (50)
	教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任	計			
事務職員		13人 (13)	0人 (0)	13人 (13)					
技術職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
図書館専門職員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
その他の職員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
計		15 (15)	0 (0)	15 (15)					
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	5,119.67 m ²	- m ²	- m ²	5,119.67 m ²				
	運動場用地	2,130.00 m ²	- m ²	- m ²	2,130.00 m ²				
	小計	7,249.67 m ²	- m ²	- m ²	7,249.67 m ²				
	その他	174.30 m ²	- m ²	- m ²	174.30 m ²				
	合計	7,423.97 m ²	- m ²	- m ²	7,423.97 m ²				
		内訳							
	自己所有	借用							
	- m ²	7,423.97 m ² 使用保証期間 (30 年)							
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	5,943.43 m ² (5,943.43 m ²)	- m ² (- m ²)	- m ² (- m ²)	5,943.43 m ² (5,943.43 m ²)					
		内訳							
		自己所有	借用						
	5,943.43 m ²	- m ² 使用保証期間 (- 年)							
校地校舎が借用の場合の経常経費の保有状況		576,590 千円							
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	11 室	6 室	18 室	1 室 (補助職員 1 人)	0 室 (補助職員 0人)				

※授業を担当する学長を含む。

※共用する学校名等
・日本音楽学校
・収容定員 (50名)
・基準面積 (290 m²)
(ただし、平成21年度限りで廃止)

専任教員研究室		新設学部等の名称				室 数			※芸術教養学科の1名は学長室を兼ねる。	
		子ども教育学科				14 室				
		芸術教養学科				10 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	※大学全体での 共用分図書 5,600冊 [0]		
	子ども教育学科	6,974 [200] (6,381 [99])	50 [5] (33 [0])	—	395 (245)	700 (660)	—			
	芸術教養学科	3,791 [500] (2,548 [200])	90 [35] (49 [20])	—	180 (24)	430 (400)	—			
	計	10,765 [700] (8,929 [299])	140 [40] (82 [20])	—	575 (269)	1,130 (1,060)	—			
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			※体育館はトレーニングルームとダンス演習室を兼ねる。	
		272 m ²		87		20,000				
体育館 (トレーニング・ルーム)		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				—		
		157.62 m ²		運動場(多目的)						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	※学生納付金は上から、 子ども教育学科 芸術教養学科	
		教員1人当り研究費等	220千円	250千円	図書購入費	6,300千円	3,000千円	2,500千円		
		共同研究費等	500千円	1,000千円	設備購入費	220,500千円	5,000千円	3,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,390千円	890千円	890千円	— 千円	— 千円	— 千円			
	1,695千円	1,095千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		—							
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	該当なし		年	人	年次人	人		倍		
附属施設の概要		<p>○名称：学校法人三浦学園 日本音楽学校附属幼稚園 目的：①短期大学の実験的な教育研究を試みる ②地域の幼児教育への貢献を担う ③短期大学の教育実習生の指導を行う 所在地：東京都品川区豊町2-16-12 設置年月：昭和24年4月 規模等：土地 1,093m²、建物 619m²</p> <p>○名称：学校法人三浦学園 日本音楽学校 (平成21年度限り廃止予定) 目的：幼稚園教諭及び保育士を養成し、並びにレクリエーション・インストラクター、児童厚生員資格の付与。 所在地：東京都品川区豊町2-16-12 設置年月：明治36年4月 規模等：土地 5,591m²、建物 1,890m² 入学定員(収容定員)：保育士・幼稚園教員コース 50名(100名) ※平成21年4月学則改正により保育士コースを廃止。</p>								

教 育 課 程 等 の 概 要														
(子ども教育学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎 教育 科目	人間と世界	世界と日本国憲法	1後	2			○							
		児童文学	1前	2			○					1		
		民俗と芸能	1前	2			○							
		比較文化A（日本とヨーロッパ）	1前	2			○							
		比較文化B（日本とアジア）	1前	2			○				1			
		教育人間学	2前	2			○			1				
		芸術人間学	2前	2			○							
		小計（7科目）	—	2	12	0	—	—	—	1	1	1	0	0
		世界の言葉	英語	1前後	2			○						
			ドイツ語	2前後	2			○						
			フランス語	2前後	2			○						
			イタリア語	2前後	2			○						
			中国語	2前後	2			○						
		小計（5科目）	—	2	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0
		心と体の健康	芸術セラピー	1後	2			○		1				
		運動と健康	1前後	2			○	○	1		1			
	小計（2科目）	—	4	0	0	—	—	—	2	0	1	0	0	
	キャリア	学習と表現の技法	1・2・3通年	3				○	4	3	7	0	0	
	小計（1科目）	—	3	0	0	—	—	—	4	3	7	0	0	
	基礎教育科目（15科目）（計）		—	11	20	0	—	—	4	3	7	0	0	
専門 教育 科目	子ども理解	子ども理解の方法	3前	2			○							
		発達心理学	2前	2			○			1				
		子どもの保健	1前後	4			○							
		子どもの栄養	2前	2				○						
		子どもの精神保健	2後	2			○							
		発達と障害	2後	2		2	○			1				
		子どもの生活習慣	1後	2			○							
		子ども観の歴史	1後	2			○			1				
		人権と子ども	2後	2			○			1				
		小計（9科目）	—	12	8	0	—	—	—	3	0	0	0	0
		子ども教育の基礎理論	教職入門	2前	2			○						
			教育の理念と歴史	1前	2			○			1			
			教育の心理	1前	2			○			1			
			教育の組織と運営	3後	2			○						
			保育原理Ⅰ（理念）	1前	2			○			1			
			保育原理Ⅱ（課程と方法）	1後	2			○			1			
			社会福祉	2前	2			○						
			子どもの福祉	1前	2			○						
			子どもの養護	1後	2			○						
			子どもの保健実習	2前	1				○					
			家族援助論	2後	2			○				1		
			社会福祉援助技術	3前	2				○					
		小計（12科目）	—	23	0	0	—	—	—	2	1	1	0	0
		子ども教育の内容と方法	乳児保育	1前	2				○					
		障害児保育	2前	2				○			1			
		養護内容	2前	2				○						
		教育方法Ⅰ（理論と実践）	1前	2			○			1				
		教育方法Ⅱ（情報機器の操作）	1後	2				○						
		保育内容総論	2後	2				○		1				
		保育内容（言葉）	1前	2				○			1			
		保育内容（環境）	2前	2				○						
		保育内容（人間関係）	1前	2				○						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	保育内容（健康）	1後	2				○											
	保育内容（表現A 音楽とダンス）	1後	1				○						1					
	保育内容（表現B ドラマと空間造形）	1後	1				○					1						
	教育相談	3後	2			○				1								
	小計（13科目）	—	24	0	0	—	—	—	2	2	3	0	0					
	音楽Ⅰ（理論と基礎実技）	1前後	2				○							1				
	音楽Ⅱ（器楽）	2前後	2				○						2					
	図画工作	2前後	2				○				1							
	体育Ⅰ（幼児）	2前後	2				○											
	国語（書写を含む）	2後		2		○				1								
	算数	2前		2		○												
	生活	2前		2		○												
	飼育栽培	2前		2			○											
	体育Ⅱ（スポーツとレクリエーション）	3前		2			○							1				
	総合演習	3前	2				○							2				
	小計（10科目）	—	10	10	0	—	—	—	1	1	5	0	0					
	事前事後の指導（保育所・施設）	3通年	1					○							3			
	事前事後の指導（幼稚園）	2通年	1						○						1			
保育実習（保育所）Ⅰ	3前	2						○						3				
保育実習（施設）Ⅰ	3前	2						○				1						
保育実習（保育所）Ⅱ	3後		2					○						3				
保育実習（施設）Ⅲ	3後		2					○				1						
教育実習（幼稚園）	2前後	4						○						1				
小計（7科目）	—	10	4	0	—	—	—	0	1	3	0	0						
卒業研究	3通年	2					○			4	3	7	0	0				
小計（1科目）	—	2	0	0	—	—	—	4	3	7	0	0						
専門教育科目（52科目）（計）			—	81	22	0	—	—	4	3	7	0	0					
自由科目	道徳性の教育	2前			2	○				1								
	特別活動の指導	2後			2	○							1					
	生活指導	2後			2	○												
	社会	2後			2	○												
	理科	2後			2	○												
	家庭	2前			2	○												
	音楽Ⅲ（応用）	3前後			2		○						1					
	国語科指導法	3前			2		○											
	社会科指導法	2後			2		○											
	算数科指導法	3前			2		○											
	理科指導法	2後			2		○											
	生活科指導法	3前			2		○											
	家庭科指導法	3前			2		○											
	音楽科指導法	3後			2		○											
	図画工作科指導法	3後			2		○				1							
	体育科指導法	3後			2		○			1								
	事前事後の指導（小学校）	3通年			1			○			1							
	教育実習（小学校）	3前			2			○			1							
小計（18科目）	—	0	0	35	—	—	—	2	1	2	0	0						
レクリエーション（理論）	3前			2	○								1					
レクリエーション（実技）	3前後			2			○						1					
小計（2科目）	—	0	0	4	—	—	—	0	0	1	0	0						
自由科目（20科目）（計）			—	0	0	39	—	—	2	1	3	0	0					
合計(87科目)			—	92	42	39	—	—	4	3	7	0	0					
学位又は称号	短期大学士（幼児教育）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係												
卒業要件及び履修方法						授業期間等												
基礎教育科目の必修科目及び選択必修科目から17単位、専門教育科目の必修科目及び選択必修科目から87単位以上、他学科から2単位以上を修得し、106単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間））						1 学年の学期区分			2 学期									
						1 学期の授業期間			15 週									
						1 時限の授業時間			90 分									

教育課程等の概要																
(芸術教養学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	人間と世界	世界と日本国憲法	1後	2			○									
		児童文学	1前		2		○									
		民俗と芸能	1前		2		○									
		比較文化A(日本とヨーロッパ)	1前		2		○									
		比較文化B(日本とアジア)	1前		2		○									
		教育人間学	2前		2		○									
		芸術人間学	2前		2		○									
		小計(7科目)	—	2	12	0	—	—	—	1	0	0	0	0		
	世界の言葉	英語	1前後	2					○							
		ドイツ語	2前後		2				○							
		フランス語	2前後		2				○							
		イタリア語	2前後		2				○							
		中国語	2前後		2				○							
		小計(5科目)	—	2	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0		
	心と体の健康	芸術セラピー	1後	2			○									
運動と健康		1前後	2			○		○								
小計(2科目)		—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0			
ゼミナール	学習と表現の技法	1・2通年	2					○		5	1	3				
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	5	1	3	0	0			
	基礎教育科目(15科目)(計)		—	10	20	0	—	—	6	1	3	0	0			
芸術教養学科共通科目	原論	日本芸術史概説	1前後	4			○			1		2				
		芸術社会学	1前		2		○									
		芸術心理学	1前		2		○									
		芸術教育学	1前		2		○									
		地域文化政策論	1前		2		○									
		文化施設運営論	1前		2		○									
		小計(6科目)	—	4	10	0	—	—	—	1	0	2	0	0		
	表現演習	芸術とコンピュータ・リテラシー	1前	2					○							
		上演空間と美術	1前		1				○							
		上演空間と光	1前		1				○							
		上演空間と音	1前		1				○							
		舞台監督と制作者の仕事	1前		1				○							
		実践音楽入門	1前		1				○		1					
		実践舞踊入門	1前		1				○			1				
		実践演劇入門	1前		1				○							
総合表現演習	1前	2					○		1							
	小計(9科目)	—	4	7	0	—	—	—	1	1	1	0	0			
	学科共通科目(15科目)(計)		—	8	17	0	—	—	2	1	3	0	0			
音楽コース専門科目	原論	音楽人類学	2後	2			○					1				
		芸術鑑賞論	2後	2			○			1						
		西洋音楽史	1後		2		○					1				
		アジア音楽史	1後		2		○									
		音楽療法	2前	2			○									
		地域音楽文化制作論	2前	2			○			1						
		小計(6科目)	—	8	4	0	—	—	—	2	0	1	0	0		
	表現演習	フィールドワーク基礎Ⅰ(音楽資料調査法)	1後	1					○				1			
		フィールドワーク基礎Ⅱ(採譜法)	2前	1					○				1			
		シアターピース演習	2前	2					○		1					
小計(3科目)		—	4	0	0	—	—	—	1	0	1	0	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
音楽コース専門科目	実技	声楽基礎A (日本音楽)	1後2前	2					○							
		声楽基礎B (西洋音楽)	1後2前	2					○							
		作曲A (日本音楽)	2前	1					○	1						
		作曲B (西洋音楽)	2前	1					○	1						
		作曲C (現代作品語法)	2後	1					○	1						
		ピアノ	1後2前	2					○							
		弦楽器A (ギター)	1後		1				○							
		弦楽器B (箏)	1後		1				○							
		弦楽器C (三味線)	1後		1				○	1						
		管楽器A (フルート)	1後		1				○							
		管楽器B (クラリネット)	1後		1				○							
		管楽器C (尺八)	1後		1				○							
		管楽器D (横笛)	1後		1				○							
		声楽A (日本のうた)	2前		1				○							
		声楽B (ドイツ歌曲・イタリア歌曲)	2前		1				○							
		合奏A (和楽器)	1後		1				○	1		1				
		合奏B (西洋楽器・教育楽器)	2前		1				○							
		合奏C (ガムラン)	1後		1				○							
		合奏D (打楽器)	1後		1				○							
		指揮法	2前	2					○	1						
		音楽劇創作実習Ⅰ	2前	1					○	3		1				
		音楽劇創作実習Ⅱ	2後	1					○	3		1				
小計 (22科目)	—	13	13	0			—	3	0	1	0	0				
卒業研究	2通年	3					○	3		1						
小計 (1科目)	—	3	0	0			—	3	0	1	0	0				
音楽コース専門科目 (32科目) (計)		—	28	17	0			—	3	0	1	0	0			
舞踊コース専門科目	原論	舞踊運動学	1後	2				○								
		舞踊学原論	2前	2				○	1							
		舞踊史概論 (西洋舞踊史)	1後	2				○								
		運動心理学	2前	2				○								
		比較舞踊論	2後	2				○								
	小計 (5科目)	—	10	0	0			—	1	0	0	0	0			
	表現演習	舞踊上演演習Ⅰ (日本舞踊)	1後	2					○	1						
		舞踊上演演習Ⅰ (西洋)	1後	2					○			1				
		ダンスセラピー	2前	2					○							
		舞踊と音楽	2前	2					○	2						
		舞踊教育論演習	2前	2					○			1				
		舞踊上演演習Ⅱ (日本舞踊)	2前		2				○							
		舞踊上演演習Ⅲ (歌舞伎舞踊)	2後		2				○							
		舞踊上演演習Ⅱ (西洋)	2前		2				○	1						
		舞踊上演演習Ⅲ (西洋)	2後		2				○	1						
	小計 (9科目)	—	10	8	0			—	3	0	1	0	0			
	実技	日本舞踊 実技Ⅰ	1後	1					○							
		ダンス・コンテンポラリーⅠ (基礎)	1後	1					○	1						
		ダンス・クラシックⅠ (基礎)	1後	1					○							
		歌舞伎舞踊 実技Ⅰ	1後	1					○							
		舞踊実習Ⅰ (創作舞踊1)	1後		1				○							
		舞踊実習Ⅱ (創作舞踊2)	2前		1				○							
舞踊実習Ⅲ (舞踊構成)		2後		1				○	1							
舞踊実習Ⅰ (インプロヴィゼーション)		1後		1				○	1							
舞踊実習Ⅱ (スケッチ)		2前		1				○			1					
舞踊実習Ⅲ (構成法)		2後		1				○	1							
日本舞踊 実技Ⅱ		2前		1				○	1							
歌舞伎舞踊 実技Ⅱ		2前		1				○	1							
ダンス・コンテンポラリーⅡ (応用)		2前		1				○	1							
ダンス・クラシックⅡ (応用)		2前		1				○	1							
小計 (14科目)	—	4	10	0			—	2	0	1	0	0				
卒業研究	2通年	3					○	2		1						
小計 (1科目)	—	3	0	0			—	2	0	1	0	0				
舞踊コース専門科目 (29科目) (計)		—	27	18	0			—	3	0	1	0	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
演劇コース 専門科目	原論	日本演劇作品講読Ⅰ	1後	2			○										
	西洋演劇作品講読Ⅰ	1後	2			○											
	日本演劇作品講読Ⅱ	2前	2			○											
	西洋演劇作品講読Ⅱ	2前	2			○											
	演出論	1後		2			○										
	演技論	1後		2			○				1						
	演劇空間の歴史	2前	2				○										
	小計(7科目)	—	10	4	0		—			1	0	1	0	0			
	表現演習	せりふ術Ⅰ	1後	2				○									
	能狂言の演技論	2後	2					○									
	ドラマツルギー(分析法)	2前		2				○									
	ドラマセラピー	2前		2				○									
	演出論演習	2前		2				○									
	演技論演習	2前		2				○			1						
	ステージマネジメント	2後		1				○									
	プロデュースイング	2後		1				○									
	小計(8科目)	—	4	10	0		—			0	0	1	0	0			
	実技	発声法	1後	1					○								
	メイクアップ(日本伝統演劇の化粧と現代の化粧)	2後	1						○		1						
	せりふ術Ⅱ	2前	1						○		1						
身体訓練A(ムーブメント)	1後	1						○			1						
身体訓練B(日本舞踊)	2前	1						○		1							
身体訓練C(立ち回りなど)	2前	1						○		1							
演技Ⅰ(初級・歌舞伎)	1後	1						○		1							
演技Ⅱ(初級・現代劇)	1後	1						○			1						
演技Ⅲ(歌舞伎・ミュージカル)	2前	1						○		1	1						
演技Ⅳ(上級・現代劇)	2前	1						○			1						
演技Ⅴ(能狂言)	2前	1						○									
演技Ⅵ(演技総合)	2後		1					○			1						
演技Ⅶ(上演)	2後		1					○				1					
小計(13科目)	—	11	2	0		—			1	1	2	0	0				
卒業研究	2通年	3						○		1	1	1					
小計(1科目)	—	3	0	0		—			1	1	1	0	0				
演劇コース専門科目(29科目)(計)			—	28	16	0		—		2	1	2	0	0			
合計(120科目)				101	88	0				7	1	3	0	0			
学位又は称号	短期大学士(芸術教養)	学位又は学科の分野			美術関係、音楽関係、体育関係												
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
基礎教育科目の必修科目及び選択必修科目から16単位、学科共通科目の必修科目及び選択必修科目から19単位、各コースに開設された専門科目の必修科目及び選択必修科目から36単位以上、他学科から2単位以上を修得し、73単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			90分								

教員の氏名等							
(子ども教育学科)							
専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
専	教授 (副学長)	ハラ ソウスケ 原 聡介 (平成21年4月)	修士 (教育学)	教育人間学	2	2	日本音楽学校 教学担当顧問 (平成19年7月)
				子ども観の歴史	2	1	
				人権と子ども	2	1	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 教授 (平成21年4月)
				道徳性の教育	2	1	
				学習と表現の技法	3	1	
				卒業研究	2	2	
専	教授 (学科長)	アベ マミコ 阿部 真美子 (平成21年4月)	修士 (教育学)	学習と表現の技法	3	1	山梨県立大学 人間学部 教授 学部長, 評議員 (平成17年4月)
				保育原理Ⅰ(理念)	2	2	
				保育原理Ⅱ(課程と方法)	2	2	
				保育内容総論	2	2	
				教育方法Ⅰ(理論と実践)	2	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 教授 (平成21年4月)
				子ども理解の方法	2	2	
				卒業研究	2	2	
専	教授 (図書館長)	ウジモリ ヒデツグ 氏森 英亜 (平成21年4月)	博士 (教育学)	学習と表現の技法	3	1	目白大学人間社会学部 人間福祉学科 同大学大学院 心理学研究科 教授 (平成14年4月)
				教育の心理	2	2	
				発達と障害	2	1	
				教育相談	2	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 教授 (平成21年4月)
				卒業研究	2	2	
				芸術セラピー	2	1	
専	教授	フジイ ケイチ 藤井 喜一 (平成21年4月)	教育学士	運動と健康	2	10	非常勤講師 東京未来大学 こども心理学部 (平成20年4月) 千葉敬愛大学国際学部 (平成19年4月)
				学習と表現の技法	3	1	
				体育Ⅰ(幼児)	2	4	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 教授 (平成21年4月)
				卒業研究	2	2	
				体育科指導法	2	1	
専	准教授	ヒグラシ トモコ 日暮 トモ子 (平成21年4月)	修士 (教育学)	比較文化B(日本とアジア)	2	1	文部科学省生涯学習 政策局調査企画課 専門職 (平成16年4月)
				学習と表現の技法	3	1	
				教育の理念と歴史	2	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 准教授 (平成21年4月)
				教職入門	2	2	
				卒業研究	2	2	

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
専	准教授	オガモ シゲオ 小嶋 成夫 (平成21年4月)	教育学士	学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成20年4月)
				保育内容(表現Bドラマと空間造形)	1	2	
				図画工作	2	6	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 准教授 (平成21年4月)
				図画工作科指導法	2	1	
				事前事後の指導(小学校)	1	1	
				教育実習(小学校)	2	1	
				卒業研究	2	2	
専	准教授	キネムチ ヒロミ 杵鞭 広美 (平成22年4月)	博士 (教育学)	学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成20年4月)
				障害児保育	2	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 准教授 (平成22年4月)
				保育実習(施設)Ⅰ	2	1	
				保育実習(施設)Ⅲ	2	1	
				卒業研究	2	2	
兼任	講師	キネムチ ヒロミ 杵鞭 広美 (平成21年4月)		学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成20年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
専	講師	ミサワ ユミコ 三澤 裕見子 (平成21年4月)	修士 (文学)	児童文学	2	1	日本音楽学校 専任講師 (昭和60年4月)
				学習と表現の技法	3	1	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 講師 (平成21年4月)
				保育内容(言葉)	2	2	
				国語(書写を含む)	2	1	
				卒業研究	2	2	
専	講師	モロイ ヤスコ 諸井 泰子 (平成21年4月)	学士 (音楽)	学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成7年4月)
				音楽Ⅰ(理論と基礎実技)	2	2	
				音楽Ⅱ(器楽)	2	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 講師 (平成21年4月)
				事前事後の指導(保育所・施設)	1	2	
				保育実習(保育所)Ⅰ	2	1	
				保育実習(保育所)Ⅱ	2	1	
				卒業研究	2	2	
専	講師	ナミキ マリコ 並木 真理子 (平成21年4月)	教育学士	学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成16年4月)
				事前事後の指導(幼稚園)	1	4	
				教育実習(幼稚園)	4	1	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 講師 (平成21年4月)
				卒業研究	2	2	
				事前事後の指導(保育所・施設)	1	2	
				保育実習(保育所)Ⅰ	2	1	
				保育実習(保育所)Ⅱ	2	1	

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
専	講師	ムツロ ワカ 陸路 和佳 (平成22年4月)	修士 (芸術学)	学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成6年4月)
				保育内容(表現A 音楽とダンス)	1	2	
				音楽Ⅱ(器楽)	2	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 講師 (平成22年4月)
				音楽Ⅲ(応用)	2	2	
卒業研究	2	2					
兼任	講師	ムツロ ワカ 陸路 和佳 (平成21年4月)		学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成6年4月)
				保育内容(表現A 音楽とダンス)	1	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
専	講師	スギモト シン 杉本 信 (平成22年4月)	修士 (教育学)	運動と健康	2	6	日本音楽学校 専任講師 (平成14年4月)
				体育Ⅱ(スポーツとレクリエーション)	2	1	
				学習と表現の技法	3	1	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 講師 (平成22年4月)
				総合演習	2	1	
				レクリエーション(理論)	2	1	
				レクリエーション(実技)	2	2	
卒業研究	2	2					
兼任	講師	スギモト シン 杉本 信 (平成21年4月)		運動と健康	2	6	日本音楽学校 専任講師 (平成14年4月)
				学習と表現の技法	3	1	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
専	講師	ヤマモト ナオキ 山本 直樹 (平成22年4月)	修士 (教育学)	学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成14年4月)
				保育内容(表現B ドラマと空間造形)	1	2	
				特別活動の指導	2	1	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 講師 (平成22年4月)
				総合演習	2	1	
卒業研究	2	2					
兼任	講師	ヤマモト ナオキ 山本 直樹 (平成21年4月)		学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成14年4月)
				保育内容(表現B ドラマと空間造形)	1	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
専	講師	トミオカ マユコ 富岡 麻由子 (平成22年4月)	修士 (教育学)	学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成16年4月)
				家族援助論	2	2	
				事前事後の指導(保育所・施設)	1	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 講師 (平成22年4月)
				保育実習(保育所)Ⅰ	2	1	
				保育実習(保育所)Ⅱ	2	1	
卒業研究	2	2					
兼任	講師	トミオカ マユコ 富岡 麻由子 (平成21年4月)		学習と表現の技法	3	1	日本音楽学校 専任講師 (平成16年4月)
							有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開校後の職 (就任年月)
兼任	教授	コバヤシ シロウ 小林 志郎 (平成21年4月)	教育学士	芸術人間学	2	2	日本音楽学校 校長 (平成13年4月)
							有明教育芸術短期大学 学長 (平成21年4月)
兼任	講師	カサハラ メグミ 笠原 恵美 (通称)前原恵美 (平成21年4月)	修士 (音楽)	音楽Ⅱ(器楽)	2	2	非常勤講師 玉川大学文学部 昭和音楽大学 (平成11年4月) 聖心女子大学教育学科 (平成18年4月)
							有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 講師 (平成21年4月)
兼任	講師	コバヤシ コウイチ 小林 康一 (平成21年4月)	法学修士	世界と日本国憲法	2	4	非常勤講師 日本音楽学校(平成3年4月) 大妻女子大学(平成8年4月) 明治大学短期大学 (平成10年4月) 東京理科大学 (平成18年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども養育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤマサキ ケイコ 山崎 敬子 (平成21年4月)	修士 (文学)	民俗と芸能	2	1	株式会社レゾナンス 顧客満足度調査部 主任 (平成19年11月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	モリ リョウコ 森 涼子 (平成21年4月)	修士 (文学)	比較文化A(日本とヨーロッパ)	2	1	非常勤講師 日本大学(平成16年4月) 慶應義塾大学(平成16年9月)
				ドイツ語	2	4	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤツシロ ハナコ 八代 華子 (平成21年4月)	修士 (文学)	英語	2	10	白百合女子大学 児童文化研究センター 非常勤助手 (平成20年2月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	オシバ ヤスジ 押場 靖志 (平成22年4月)	国際学 修士	イタリア語	2	4	非常勤講師 法政大学工学部 学習院大学 (平成8年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	リン ミンジェ 林 敏潔 (平成22年4月)	修士 (教育学)	中国語	2	4	非常勤講師 明海大学(平成14年4月) 上智大学(平成15年4月) 慶應義塾大学(平成15年4月) 早稲田大学(平成16年4月) 立正大学(平成17年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	ニシカワ ナオコ 西川 直子 (平成21年4月)	修士 (Art Therapy) Univ. of Derby UK	芸術セラピー	2	3	医療法人直志会 メンタルホーステーションきらり (平成20年5月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ニシヤマ カツヒロ 西山 勝弘 (平成21年4月)	歯学博士	子どもの保健 子どもの保健実習	4 1	4 3	非常勤講師 日本音楽学校 (平成12年4月) 神奈川歯科大学 附属歯科技師専門学校 (平成17年9月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	オクシマ ミチコ 奥島 美智子 (平成22年4月)	家政学 修士	子どもの栄養	2	3	非常勤講師 日本音楽学校 (平成8年4月) 八王子栄養専門学校 (平成10年4月) 昭和学院短期大学 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	イワモト ケイコ 岩本 圭子 (平成22年4月)	修士 (教育学)	子どもの精神保健	2	2	日本音楽学校 非常勤講師 (平成17年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	イトウ ノリコ 伊藤 野里子 (平成21年4月)	修士 (教育学)	子どもの生活習慣 家庭 家庭科指導法	2 2 2	1 1 1	帝京平成大学 非常勤講師 (平成20年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ミヤワキ フミエ 宮脇 文恵 (平成21年4月)	修士 (社会福祉 学)	社会福祉 子どもの福祉	2 2	2 2	長崎純心大学人文学部 准教授 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	イノウエ ヒトシ 井上 一志 (平成21年4月)	社会学士	子どもの養護 養護内容	2 2	2 2	日本音楽学校 非常勤講師 (平成13年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ホソノ イチロウ 細野 一郎 (平成21年4月)	文学士	保育内容 (人間関係)	2	2	目白大学短期大学部 子ども学科 教授 (平成15年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	スズキ コトコ 鈴木 琴子 (平成21年4月)	保健学 修士	保育内容 (健康)	2	2	東京学芸大学教育学部 講師 (平成17年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
		オオタ レイコ 太田 礼子	家政学				日本音楽学校 非常勤講師 (平成11年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	フリガナ 氏名 <平成21年4月>	修士	乳児保育	2	2	有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤマモト ヒロノブ 山本 博信 <平成21年4月>	教育学士	教育方法Ⅱ (情報機器の操作)	2	2	自由が丘産能短期大学 能率科 専任講師 (平成16年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	フクイ ノブユキ 福井 延幸 <平成22年4月>	教育学 修士	社会 社会科指導法	2 2	1 1	目白学園 中学校高等学校 教諭 (平成8年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	タキザワ キヨシ 滝沢 清 <平成21年4月>	教育学 修士	算数 算数科指導法 教育方法Ⅱ (情報機器の操作)	2 2 2	1 1 1	東京学芸大学 准教授 (平成9年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	イワモト ヌタカ 岩本 泰 <平成22年4月>	博士 (教育学)	理科 理科指導法 保育内容 (環境)	2 2 2	1 1 2	非常勤講師 東京学芸大学 (平成18年10月) 東京農工大学 湘南工科大学附属高等学校 麻布大学 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ヤマザキ サナエ 山崎 早苗 <平成22年4月>	修士 (教育学)	生活 生活科指導法 飼育栽培	2 2 2	1 1 1	千葉市立高洲第二小学校 教諭 (平成17年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	マツイ ハルミ 松井 晴美 <平成21年4月>	修士 (教育学)	音楽Ⅰ (理論と基礎実技) 音楽Ⅲ (応用) 音楽科指導法	2 2 2	2 2 1	非常勤講師 鎌倉女子大学(平成12年4月) 日本音楽学校(平成14年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤマダ マミコ 山田 麻美子 <平成21年4月>	学士 (音楽)	音楽Ⅰ (理論と基礎実技)	2	2	日本音楽学校 非常勤講師 (平成10年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ニシワキ チカ 西脇 千花 <平成22年4月>	学士 (音楽)	音楽Ⅱ (器楽) 音楽Ⅲ (応用)	2 2	2 2	非常勤講師 洗足学園音楽大学 (平成14年4月) 日本音楽学校 (平成16年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ツノダ レナ 角田 玲奈 <平成22年4月>	学士 (音楽)	音楽Ⅱ (器楽) 音楽Ⅲ (応用)	2 2	2 2	日本音楽学校 非常勤講師 (平成16年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開校後の職 (就任年月)
兼任	講師	ウチダ ナオコ 内田 なおこ (平成22年4月)	芸術学 修士	音楽Ⅱ (器楽) 音楽Ⅲ (応用)	2 2	2 2	非常勤講師 日本音楽学校(昭和54年4月) 立正大学(昭和59年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	タヤマ ノリコ 田山 紀子 (平成22年4月)	芸術学士	音楽Ⅱ (器楽) 音楽Ⅲ (応用)	2 2	2 2	日本音楽学校 非常勤講師 (平成3年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ナカムラ ミドリ 中村 みどり (平成22年4月)	芸術学士	音楽Ⅱ (器楽) 音楽Ⅲ (応用)	2 2	2 2	非常勤講師 横浜女子短期大学 (昭和55年4月) 日本音楽学校 (平成3年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	スガワラ ヨシタカ 菅原 義孝 (平成23年4月)	修士 (体育学)	レクリエーション(理論) レクリエーション(実技)	2 2	1 2	日本音楽学校 非常勤講師 (平成17年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成23年4月)
兼任	講師	ナリタ ミエコ 成田 美恵子 (平成23年4月)	修士 (社会福祉 学)	社会福祉援助技術	2	2	日本音楽学校 非常勤講師 (昭和58年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成23年4月)
兼任	講師	オリカタ ノゾミ 折方 のぞみ (旧姓)井上のぞみ (平成22年4月)	学術修士	フランス語	2	4	非常勤講師 立教大学(平成18年4月) 岩手大学(平成18年10月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	イウメ ユミコ 井梅 由美子 (平成22年4月)	人文科学 修士	発達心理学	2	2	非常勤講師 相模女子大学 (平成15年9月) 青山学院女子短期大学 (平成19年9月) 非常勤臨床心理士 崎山小児科(平成17年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ウシオ ナオユキ 牛尾 直行 (平成23年4月)	修士 (教育学)	教育の組織と運営	2	2	順天堂大学 スポーツ健康科学部 准教授 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成23年4月)
兼任	講師	ハダ コウイチ 羽田 紘一 (平成22年4月)	教育学士	生活指導	2	1	目白大学人間学部 子ども学科 教授 (平成20年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	ヨネヤ シゲノリ 米谷 茂則 〈平成23年4月〉	博士 (教育学)	国語科指導法	2	1	明治大学文学部 兼任講師 (平成14年4月) 放送大学教養学部 客員准教授 (平成15年6月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成23年4月)
兼任	講師	ホンマ クミコ 本間 玖美子 〈平成22年4月〉	教育学士	体育Ⅰ(幼児)	2	4	目白大学人間学部 子ども学科 教授 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ナガドウ マストモ 長堂 益丈 〈平成21年4月〉	修士 (体育学)	運動と健康 体育Ⅰ(幼児)	2 2	4 4	非常勤講師 学校法人リリー文化学園 保育福祉専門学校 (平成18年5月) 近畿大学豊岡短期大学 通信教育部 (平成18年5月) 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 非常勤講師 (平成21年4月)

教員の氏名等							
(芸術教養学科)							
専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
専	教授	コバヤシ シロウ 小林 志郎 〈平成21年4月〉	教育学士	演劇空間の歴史	2	1	日本音楽学校 校長 (平成13年4月)
				芸術人間学	2	2	有明教育芸術短期大学 学長 (平成21年4月)
				日本芸術史概説	4	1	
専	教授 (学科長)	モテギ キヨコ 茂手木 潔子 〈平成21年4月〉	修士 (芸術学)	実践音楽入門	2	1	上越教育大学 学校教育学部 教授 (平成8年2月)
				総合表現演習	2	1	
				地域音楽文化制作論	2	1	
				合奏A(和楽器)	1	1	
				音楽劇創作実習Ⅰ	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 教授 (平成21年4月)
				音楽劇創作実習Ⅱ	1	1	
				学習と表現の技法	2	1	
				舞踊と音楽	2	1	
卒業研究	3	2					
専	教授	ムタグチ テルクニ 牟田口 照國 (通称)杵屋勝国 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	作曲A(日本音楽)	1	1	長唄三味線演奏家
				弦楽器C(三味線)	1	1	
				音楽劇創作実習Ⅰ	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 教授 (平成21年4月)
				音楽劇創作実習Ⅱ	1	1	
				学習と表現の技法	2	1	
				卒業研究	3	2	
専	教授	モリモト ユキマサ 森本 恭正 (通称)Yuki Morimoto 〈平成21年4月〉	一	芸術鑑賞論	2	1	作曲家・指揮者
				シアターピース演習	2	1	
				作曲B(西洋音楽)	1	1	
				作曲C(現代作品語法)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 教授 (平成21年4月)
				指揮法	2	1	
				音楽劇創作実習Ⅰ	1	1	
				音楽劇創作実習Ⅱ	1	1	
				学習と表現の技法	2	1	
卒業研究	3	2					
専	教授	シバザキ テルコ 柴崎 照子 (通称) 花柳寿南海 〈平成21年4月〉	一	舞踊上演演習Ⅰ(日本舞踊)	2	1	日本舞踊家
				舞踊実習Ⅲ(舞踊構成)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 教授 (平成21年4月)
				日本舞踊 実技Ⅱ	1	1	
				歌舞伎舞踊 実技Ⅱ	1	1	
				卒業研究	3	2	

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
専	教授	ツジモト サナエ 辻元 早苗 〈平成21年4月〉	修士 (文学)	舞踊学原論	2	1	清和大学 短期大学部 教授 (平成13年4月)
				舞踊と音楽	2	1	
				舞踊上演演習Ⅱ(西洋)	2	1	
				舞踊上演演習Ⅲ(西洋)	2	1	
				ダンス・コンテンポラリーⅠ(基礎)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 教授 (平成21年4月)
				舞踊実習Ⅰ(インプロヴィゼーション)	1	1	
				舞踊実習Ⅲ(構成法)	1	1	
				ダンス・コンテンポラリーⅡ(応用)	1	1	
				学習と表現の技法	2	1	
卒業研究	3	2					
専	教授	シバザキ リョウタ 柴崎 良太 (通称)花柳翫一 〈平成21年4月〉	一	メーキャップ(日本伝統演劇の化粧と現代の化粧)	1	1	日本舞踊家
				身体訓練B(日本舞踊)	1	1	
				身体訓練C(立ち回りなど)	1	1	
				演技Ⅰ(初級・歌舞伎)	1	1	
				演技Ⅲ(歌舞伎・ミュージカル)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 教授 (平成21年4月)
				学習と表現の技法	2	1	
				せりふ術Ⅱ	1	1	
				卒業研究	3	2	
専	准教授	ジェイスン・アンソニー・ アーカリー Jason Anthony Arcari 〈平成21年4月〉	Ph. D. in DRAMA UK 博士 (演劇)	実践演劇入門	1	1	ローズ・ ブラフォード大学 ヨーロッパ演劇 芸術学科 准教授 (平成11年7月)
				演技Ⅱ(初級・現代劇)	1	1	
				演技Ⅳ(上級・現代劇)	1	1	
				演技Ⅵ(演技総合)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 准教授 (平成21年4月)
				学習と表現の技法	2	1	
				演技Ⅲ(歌舞伎・ミュージカル)	1	1	
				卒業研究	3	2	
専	講師	カサハラ メグミ 笠原 恵美 (通称)前原恵美 〈平成21年4月〉	修士 (音楽)	日本芸術史概説	4	1	非常勤講師 玉川大学文学部 昭和音楽大学 (平成11年4月) 聖心女子大学教育学科 (平成18年4月)
				音楽人類学	2	1	
				西洋音楽史	2	1	
				フィールドワーク基礎Ⅰ(音楽資料調査法)	1	1	
				フィールドワーク基礎Ⅱ(採譜法)	1	1	
				合奏A(和楽器)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 講師 (平成21年4月)
				音楽劇創作実習Ⅰ	1	1	
				音楽劇創作実習Ⅱ	1	1	
				学習と表現の技法	2	1	
				卒業研究	3	2	

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)				
							開設後の職 (就任年月)				
専	講師	シオザキ ミヅホ 塩崎 みづほ (旧姓) 穂田みづほ 〈平成21年4月〉	修士 (教育学)	実践舞踊入門	1	1	日本音楽学校 専任講師 (平成14年4月)				
				総合表現演習	2	1					
				舞踊上演演習Ⅰ(西洋)	2	1					
								舞踊教育論演習	2	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 講師 (平成21年4月)
							舞踊実習Ⅱ(スケッチ)	1	1		
							身体訓練A(ムーブメント)	1	1		
							学習と表現の技法	2	1		
			卒業研究	3	2						
専	講師	ナカノ シゲキ 中野 成樹 〈平成21年4月〉	修士 (芸術学)	日本芸術史概説	4	1	日本大学芸術学部 演劇学科 非常勤講師 (平成19年4月)				
				演技論	2	1					
				演技論演習	2	1					
							演技Ⅶ(上演)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 講師 (平成21年4月)	
							学習と表現の技法	2	1		
							卒業研究	3	2		
兼任	教授	ハラ ソウスケ 原 聡介 〈平成21年4月〉	修士 (教育学)	教育人間学	2	2	日本音楽学校 教学担当顧問 (平成19年7月)				
							有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 教授 (平成21年4月)				
兼任	准教授	ヒグラシ トモコ 日暮 トモ子 〈平成21年4月〉	修士 (教育学)	比較文化B(日本とアジア)	2	1	文部科学省生涯学習 政策局調査企画課 専門職 (平成16年4月)				
							有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 准教授 (平成21年4月)				
兼任	講師	ミサワ ユミコ 三澤 裕見子 〈平成21年4月〉	修士 (文学)	児童文学	2	1	日本音楽学校 専任講師 (昭和60年4月)				
							有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 講師 (平成21年4月)				
兼任	教授	フジイ ケイチ 藤井 喜一 〈平成21年4月〉	教育学士	運動と健康	2	10	非常勤講師 東京未来大学 こども心理学部 (平成20年4月) 千葉敬愛大学国際学部 (平成19年4月)				
							有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 教授 (平成21年4月)				
兼任	講師	キネムチ ヒロミ 杵鞭 広美 〈平成21年4月〉	博士 (教育学)	芸術心理学	2	1	日本音楽学校 専任講師 (平20年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)				
兼任	講師	スギモト シン 杉本 信 〈平成22年4月〉	修士 (教育学)	運動と健康	2	6	日本音楽学校 専任講師 (平成14年4月)				
				運動心理学	2	1	有明教育芸術短期大学 子ども教育科 講師 (平成22年4月)				
兼任		スギモト シン 杉本 信 〈平成21年4月〉		運動と健康	2	6	日本音楽学校 専任講師 (平成14年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)				

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	コバヤシ コウイチ 小林 康一 〈平成21年4月〉	法学修士	世界と日本国憲法	2	4	非常勤講師 日本音楽学校(平成3年4月) 大妻女子大学(平成8年4月) 明治大学短期大学 (平成10年4月) 東京理科大学 (平成18年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤマサキ ケイコ 山崎 敬子 〈平成21年4月〉	修士 (文学)	民俗と芸能	2	1	株式会社レゾナンス 顧客満足度調査部 主任 (平成19年11月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	モリ リョウコ 森 涼子 〈平成21年4月〉	修士 (文学)	比較文化A(日本とヨーロッパ) ドイツ語	2 2	1 4	非常勤講師 日本大学(平成16年4月) 慶應義塾大学(平成16年9月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤツシロ ハナコ 八代 華子 〈平成21年4月〉	修士 (文学)	英語	2	10	白百合女子大学 児童文化研究センター 非常勤助手 (平成20年2月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	オシバ ヤスジ 押場 靖志 〈平成22年4月〉	国際学修士	イタリア語	2	4	非常勤講師 法政大学工学部 学習院大学 (平成8年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	リン ミンジェ 林 敏潔 〈平成22年4月〉	修士 (教育学)	中国語	2	4	非常勤講師 明海大学(平成14年4月) 上智大学(平成15年4月) 慶應義塾大学(平成15年4月) 早稲田大学(平成16年4月) 立正大学(平成17年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	オリカタ ノゾミ 折方 のぞみ (旧姓)井上のぞみ 〈平成22年4月〉	学術修士	フランス語	2	4	非常勤講師 立教大学(平成18年4月) 岩手大学(平成18年10月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ニシカワ ナオコ 西川 直子 〈平成21年4月〉	修士 (Art Therapy) Univ. of Derby UK	芸術セラピー	2	3	医療法人直志会 メンタルポートステーションきらり (平成20年5月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ナガシマ アカネ 永島 茜 〈平成21年4月〉	修士 (音楽学)	芸術社会学	2	1	武庫川女子大学音楽部 非常勤講師 (平成19年9月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	ミズタ アキラ 水田 徹 〈平成21年4月〉	博士 (文学)	芸術教育学	2	1	財団法人和文華館 専務理事・館長 (平成11年4月) 東京学芸大学 名誉教授 (平成11年5月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヒラノ ヒデトシ 平野 英俊 〈平成21年4月〉	学士 (文学)	日本芸術史概説	4	1	文部科学省 文化財分科会専門委員 (独) 日本芸術文化振興会 評価委員 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	コシカワ テツロウ 越川 徹郎 〈平成21年4月〉	修士 (教育学)	芸術とコンピュータ・リテラシー	2	3	日本音楽学校 非常勤講師 (平成14年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ナカゴシ ツカサ 中越 司 〈平成21年4月〉	—	上演空間と美術	1	1	装置家 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	キタキザキ タカシ 北寄崎 嵩 〈平成21年4月〉	学士 (文学)	上演空間と光	1	1	(株) ステージ・プランニング KATSUMI 取締役 日本大学芸術学部 日本大学大学院 非常勤講師 (平成16年) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	タカハン カイチ 高橋 嘉市 〈平成21年4月〉	—	上演空間と音	1	1	日本大学芸術学部 非常勤講師 (平成10年4月) (特) 国立劇場 技術部副部長兼舞台課長 (平成18年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	タダシ ヨシアキ 正 嘉昭 〈平成21年4月〉	学士 (文学)	総合表現演習	2	1	東放学園教育顧問 東放学園高等専修学校 教員 (平成17年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	キン アグン 金 亜軍 〈平成21年4月〉	—	アジア音楽史	2	1	中国揚琴演奏家 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ナカノメ マスミ 中目 ますみ 〈平成22年4月〉	学士 (音楽)	音楽療法	2	1	日本音楽学校 非常勤講師 (平成18年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	タケザワ エツコ 竹澤 悦子 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	声楽基礎A (日本音楽) 声楽A (日本のうた) 弦楽器B (箏)	2 1 1	2 1 1	非常勤講師 福島大学教育学部 (平成8年4月) 上越大学芸術系 (平成15年4月) 岐阜大学教育学部 (平成16年4月) 金城学園大学 (平成19年4月) 沢井箏曲院 師範 (平成17年3月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	クロイツァー スズコ クロイツァー 涼子 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	声楽基礎B (西洋音楽) 声楽B (ドイツ歌曲・イタリア歌曲)	2 1	2 1	Belton音楽院 学院長 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	シオタカ カズユキ 塩高 和之 〈平成21年4月〉	—	弦楽器A (ギター)	1	1	琵琶演奏家 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	サイトウ ミツハル 斎藤 光晴 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	管楽器A (フルート)	1	1	玉川学園中学部 講師 日本体育大学 非常勤講師 (平成18年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ニシザワ ハルヨ 西澤 春代 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	管楽器B (クラリネット)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ゼンヨウジ ケイスケ 善養寺 恵介 〈平成21年4月〉	修士 (音楽)	管楽器C (尺八)	1	1	尺八演奏家 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ウチダ トオル 内田 徹 (通称) 福原徹 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	管楽器D (横笛)	1	1	NHK文化センター 講師 (昭和60年4月) 東京芸術大学 非常勤講師 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ミナガワ コウイチ 皆川 厚一 〈平成21年4月〉	芸術学 修士	合奏C (ガムラン)	1	1	神田外語大学 国際言語文化学科 准教授 (平成20年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ナガオ ミツヒロ 長尾 光弘 (通称) 藤舎呂英 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	合奏D (打楽器)	1	1	邦楽演奏家 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤマムラ キョウコ 山村 喬子 〈平成22年4月〉	修士 (教育学)	合奏B (西洋楽器・教育楽器)	1	1	東京学芸大学附属竹早中学校 非常勤講師 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	ニシワキ チカ 西脇 千花 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	ピアノ	2	2	非常勤講師 洗足学園音楽大学 (平成14年4月) 日本音楽学校 (平成16年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ツノダ レナ 角田 玲奈 〈平成21年4月〉	学士 (音楽)	ピアノ	2	2	日本音楽学校 非常勤講師 (平成16年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	アマノ カツヒロ 天野 勝弘 〈平成21年4月〉	修士 (体育学)	舞踊運動学	2	1	関東学園大学 准教授 (平成3年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤマノ ハクダイ 山野 博大 〈平成21年4月〉	学士 (法学)	舞踊史概論 (西洋舞踊史)	2	1	舞踊評論家 (昭和32年) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ヤジマ マスミ 矢島 ますみ 〈平成22年4月〉	修士 (教育学) (経営情報学)	比較舞踊論	2	1	明海大学経済学部 准教授 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ホロイワ ナオミ 襲岩 ナオミ 〈平成21年4月〉	修士 (国際学)	芸術セラピー ダンスセラピー	2 2	2 1	大東文化大学 外国学部日本語学科 非常勤講師 (平成10年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	シンド ミホ 宍戸 美穂 (通称) 花柳秀衛 〈平成21年4月〉	学士 (芸術学)	舞踊上演演習Ⅱ (日本舞踊) 舞踊上演演習Ⅲ (歌舞伎舞踊) 歌舞伎舞踊 実技Ⅰ	2 2 1	1 1 1	日本舞踊家 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	カトウ クミコ 加藤 久美子 〈平成21年4月〉	—	ダンス・クラシックⅠ (基礎) ダンス・クラシックⅡ (応用)	1 1	1 1	加藤久美子 バレエスタジオ 主宰 (平成13年) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ミヤジ ヒロエ 宮地 洋江 (通称) 花柳笹公 〈平成21年4月〉	学士 (芸術学)	日本舞踊 実技Ⅰ 舞踊実習Ⅱ (創作舞踊2) 舞踊実習Ⅰ (創作舞踊1)	1 1 1	1 1 1	日本舞踊家 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ナカガワ トシヒロ 中川 俊宏 〈平成21年4月〉	修士 (文学)	日本演劇作品講読Ⅰ 日本演劇作品講読Ⅱ	2 2	1 1	武蔵野音楽大学 教授 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	ナカジマ ヒロアキ 中島 裕昭 〈平成21年4月〉	修士 (文学)	西洋演劇作品講読Ⅰ 西洋演劇作品講読Ⅱ	2 2	1 1	東京学芸大学教育学部 教授 (平成19年5月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	ナカムラ タロウ 中村 太郎 〈平成21年4月〉	MA Performance Art UK (上演芸術)	演出論	2	1	シルク・ドゥ・ ソレイユ・インク (平成19年11月)
				演出論演習	2	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	イシイ レイコ 石井 麗子 〈平成21年4月〉	学士 (文学)	せりふ術Ⅰ	2	1	劇団文学座 座員 (平成6年4月)
				せりふ術Ⅱ	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	コダマ マコト 児玉 信 〈平成22年4月〉	学士 (文学)	能狂言の演技論	2	1	非常勤講師 日本大学芸術学部 実践女子大学文学部 (平成13年4月) 石川県音楽文化振興事業団 (県立音楽堂) 邦楽プロデューサー (平成13年7月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	クマガイ ヤスヒロ 熊谷 保宏 〈平成22年4月〉	修士 (文学)	ドラマツルギー (分析法)	2	1	日本大学芸術学部 准教授 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	シラガ ヒサヨシ 白神 久吉 〈平成21年4月〉	教育学士	舞台監督と制作者の仕事	1	1	財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場 舞台管理担当課長 (平成20年4月)
				ステージマネジメント	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	トミサワ マサユキ 富澤 正幸 〈平成22年4月〉	学士 (文学)	プロデュースイング	1	1	武蔵野美術大学造形学部 教授 (平成18年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ゼンチク ジュウロウ 善竹 十郎 〈平成21年4月〉	学士 (経済)	発声法	1	1	大蔵流東京善竹家当主 重要無形文化財総合 指定保持者 日本能楽会会員 桐朋学園大学短大部 演劇科講師
				演技Ⅴ (能狂言)	1	1	有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	クサカ トシヤ 草加 叔也 〈平成21年4月〉	工学修士	地域文化政策論	2	1	空間創造研究所 代表取締役 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)
兼任	講師	カワスミ ヨウコ 河角 曜子 (旧姓)村田曜子 〈平成21年4月〉	修士 (教育学)	文化施設運営論	2	1	財団法人 江東区地域振興会 ティアラこうとう 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)

専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 〈就任(予定)年月〉	保有 学位等	担当授業科目の名称	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)
							開設後の職 (就任年月)
兼任	講師	イグチ マサコ 井口 雅子 〈平成22年4月〉	MA in Theatre	ドラマセラピー	2	1	東京YMCA医療福祉専門学校 非常勤講師 (平成19年4月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成22年4月)
兼任	講師	ナガドウ マストモ 長堂 益丈 〈平成21年4月〉	修士 (体育学)	運動と健康	2	4	非常勤講師 リリー保育福祉専門学校 (平成18年5月) 近畿大学 豊岡短期大学通信教育部 (平成18年5月) 有明教育芸術短期大学 芸術教養学科 非常勤講師 (平成21年4月)

ア 設置の趣旨及び必要性

(a) 教育研究上の理念、目的

有明教育芸術短期大学（以下「本学」という。）は、子ども教育及び芸術教養の二つの分野を教育研究の対象とし、両分野において人々の生活の質の向上を支援する人材の養成を図ろうとするものである。

まず、子ども教育については、修業年限3年の短期大学の課程として「子ども教育学科」を設け、新たな時代に相応しい幼児教育者を養成することを計画した。少子高齢化の時代背景の中で家族関係や世代間関係の急速な変化に伴い、幼児教育はこれまでになく困難な状況を迎えており、新しい社会的支援を必要としている。本学は、設置者である学校法人三浦学園（注）が長年にわたり取り組んで来た幼児教育（幼稚園教諭及び保育士の養成）の伝統を生かしつつ、幼児教育に対する高度化・複雑化する今日の社会的要請に積極的に応えようとするものである。なお、修業年限を3年としたのは、幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格を取得するための単位数の修得を卒業要件としたことによっている。それぞれの要件とされる単位数の合算から重なる部分を除いた89単位に本学が独自の理念に沿って加えた単位を合計すると106単位となり、修業年限3年が相当であると判断した。

また、芸術教養については、同じく当法人における明治以来の音楽教育の伝統を生かしながら、身体表現芸術である音楽・舞踊・演劇を中心に西洋とともに特に日本の伝統的な表現芸術に関する教養の修得をめざす、修業年限2年の「芸術教養学科」を構想した。人間生活の質の向上に資する芸術の意義を学び、その基礎に立ってこれらの芸術分野に関する実技及び表現手法を身につけて自らの生活に生かすとともに、さらに社会的活動としてこれら芸術分野の普及に貢献する人材を養成する。

これら2つの学科は、本学の教育研究上の目的として冒頭に掲げた、教育及び芸術を通じて人々の生活の質の向上を支援する人材を養成する上で、相互にそれぞれの利点を生かし得るものであり、その意味においても両学科を併置することは意義あるものと考えられる。

（注）日本音楽学校（専門学校）から有明教育芸術短期大学への転換の経緯について

本学は、実質的に学校法人三浦学園が設置する「日本音楽学校」（専門学校）における教育の成果を発展的に継承することになる。日本音楽学校は明治36年、「音楽遊戯協会」の名の下に我が国初の私立音楽学校として創設され、以来100年余の歴史を持つ。戦後、昭和28年に文部省指定の中学校音楽教諭養成機関（平成6年廃止）、更に昭和29年、同じく文部省指定の幼稚園教諭養成機関となり、芸術性の高い教育者の育成に力を尽くしてきたところであるが、このたび短期大学の設置を機にこれを廃止する。専門学校から短期大学への転換は、上記の理念の実現がその基本的理由であるとともに、昨今の進学動向の急激な変化に対する対応もその現実的理由となっている。

いわゆる大学全入時代を迎えて、大学進学に関わる志願動向の変化に対応しつつ、三浦学園の資産を受け継ぎ発展させていくために、子ども教育学科及び芸術教養学科の2学科による短期大学を設置することを計画した。計画に当たって、短期大学の学科系統別の志願動向調査（日本私立学校振興・共済事業団）等のほか、従来から日本音楽学校と推薦指定校として提携関係にあった高等学校から伝えられた生徒の志望動向状況を参考とした。さらに、多くの生徒を受け入れてきた近隣の私立高校7校（日本音楽高等学校・東京実業高等学校・田園調布学園高等部・蒲田女子高等学校・立正高等学校・文教大学附属高等学校・大森学園高等学校・白鳳女子高等学校）の生徒に対するアンケートを行った。それによれば、幼児教育者の養成課程として466名中379名（82%）が修業年限2年より3年の課程を評価するとしており、「表現コミュニケーション」尊重の教育に高い評価（90%）があった。また、希望者には小学校教諭2種免許状の取得が可能であることは魅力である（87%）という答えがあった。さらに芸術教育学科（仮称）の設置に関心がある（54%）とし、音楽だけでなく、舞踊・演劇と合わせた学科構成についても高い評価（78%）があった。

(b) 2つの学科において養成する人材像

子ども教育学科及び芸術教養学科において養成する人材像は以下のとおりである。

【資料・別表第1】

I 子ども教育学科

今日、少子高齢化の時代背景の中で家族関係や世代間関係が困難な状況を迎え、子育ての在り方が問い直されるとともに、より多くの社会的支援が求められるに至っている。そこには、幼児教育者の確保という量的要請とともに、子どもをめぐる新たな課題に対応するための質的要請が存在する。それに応え、本学は、とりわけ子どもの心と生活を理解する力、豊かな感性と表現力、さらに保護者や地域の人々、幼児教育に携わる他の専門職の人々と交流・連携する力を育成することを重視した教育を行う。

それらを適切に身に付けさせる手段として、子ども教育学科においては、音楽、運動、造形、ドラマ、言葉などに関わる豊かな表現コミュニケーション能力を重点的に育成することとする。

これにより、今日求められる質の高い幼児教育者の養成（具体的には幼稚園教諭及び保育士の養成）を実現し得るものとする。卒業後は、大部分が幼稚園、保育所等の幼児教育関連施設及び乳児院をはじめ乳幼児福祉関連施設の業務に就くことになる。

II 芸術教養学科

国際化の進展に伴い、西洋芸術のみならず各民族固有の芸術に対する認識が高まっ

ているが、とりわけ我が国の伝統芸術にあっては、その価値が見直されつつあるにもかかわらず、国民各層への普及は必ずしも十分と言えない状況にある（注）。

そうした中で、芸術教養学科においては、我が国の伝統芸術に重点を置きつつ、音楽・舞踊・演劇を中心とした東西の芸術に関する教養を身に付けさせ、地域社会と連携しつつ芸術文化の普及に貢献する人材の養成を図ろうとするものである。

本学科で養うべき芸術に関する教養は、大きくは、人間生活の質の向上に資する芸術の意義について学ぶ理論的側面と、音楽・舞踊・演劇の分野の実技を習得する技能的側面によって成る。理論的側面は、人間学をはじめ、芸術に関する歴史的、社会的、心理的、教育的知見を得るための科目、また、地域社会の中で芸術文化を普及していく活動に参加する意味を学ぶ科目によって培われる。これらの科目を基礎教育科目、学科共通科目及び各コースの原論科目として配置した。技能的側面は、文化の違いによって、また、表現形式や手段・媒体の違いによって多岐にわたっており、それに対して一人の学生が2年間で学ぶことのできる内容は極めて限られている。学生は上記3分野から1分野（コース）を選び、さらにその中からある限られた範囲の技法を身につけていくが、そのことをいわば軸として逆に芸術の理論的意味の理解を深めていくことになる。本学科では、学生が自己の学習の範囲を軸として芸術教養の質を高めていけるようにする狙いから教育課程を編成した。

（注）平成11年施行の学習指導要領に日本伝統音楽の指導が取り入れられたことなども踏まえれば、このことは重要な政策課題と考える。

この学科は芸術家の育成ではなく芸術教養を身に付けた人材の育成を基本的な狙いとするものである。卒業後の進路としては、自主公演、貸館公演などを行っている公共・民間のホール等施設のスタッフがある。これら施設の上演プログラムは、西洋、日本、古典、伝統芸能、現代など、多岐に渡ることが多く、幅広い分野の知識を持つ人材が管理・企画・運営などの分野で求められている。当学科の卒業生は、概論及び演習・実技等の教育課程を通じて修得した、東西の、及び古典や現代の、幅広い芸術に関する知識があり、求められている人材として合致する。また、文化関係各種広報誌等の編集や、関連芸術分野の技能教員（ダンス講師、音楽講師など）をはじめ、芸術文化に直接・間接に関わる職業が想定されるところである。

本学では、両学科ともそれぞれに相応しい就職への取り組みとして、就職課で、就職ガイダンスを開き、学生の就職への意欲的取り組みを促し、また、企業訪問を精力的に行い、就職先を開拓し、確保に努めていくものとする。就職活動が安定するまで当面の間4年を目処に、教員を含め、全学一丸となって、就職支援活動に取り組む学内体制を整えて臨むことで、学内の一致を得ている。

イ 学科の特色

本学に設置予定の「子ども教育学科」及び「芸術教養学科」は、教育及び芸術を通じて人々の生活の質の向上を支援する人材の養成を図るとの目的の下、その実現のため、当法人がこれまで幼児教育・音楽教育の分野で培ってきた伝統を生かしつつ、「子ども教育学科」にあつては豊かな表現コミュニケーション能力を修得した幼児教育者の養成を、また、「芸術教養学科」にあつては地域社会と連携しつつ芸術文化の普及に貢献する人材の養成を、それぞれ図ろうとするものであることは、既に述べた。

これらを前提としつつ、この2つの学科におけるそれぞれの人材養成の目的をより効果的に達成するため、以下のような教育研究上の特色を持たせることとしている。

(a) 両学科における教育研究の相互補完

本学の2つの学科においては、幼児教育と芸術教養を結び付ける教育研究上の試みを実践することとしている。

一方において幼児教育の質を芸術的教養によって支えることの意義を、他方において芸術的教養を人々の生活の中に根付かせるための教育の営み（とりわけ幼児期から芸術に親しむ環境づくり）が大きな効果を持つことの意義を、それぞれ認め合い、それらを尊重しつつ教育実践を進める考えである。

その具体例としては、第1に、両学科共通の基礎教育科目や芸術教養学科の専門科目として開設する「芸術セラピー」関連科目などにおいてその構想を実現することとしている。今、多くの子どもたちの心は病んでいると言われるが、様々な対処方法が試みられる中で、本学が重点とする身体表現芸術の領域（音楽・舞踊・演劇）と教育心理学やカウンセリングの知見を結び付け、新しい視点から幼児教育の課題を探究することとする。

第2に、1年次における全学共通の基礎教育科目のうち、「児童文学／民俗と芸能」及び「教育人間学／芸術人間学」のそれぞれ2つの科目の組み合わせの中から1科目を選択させることとし、前者の科目を子ども教育学科の、後者の科目を芸術教養学科の、それぞれ専門科目に対応した基礎教育科目と想定しつつも、学生の興味関心に応じて学習の幅を広げていけるようにした。両学科の教育研究上の長所を相互に活用するねらいからである。

第3に、他学科の以下に示した専門科目のうちから1科目2単位以上を選択履修させ、それを卒業要件に含めることとし、相互の教育課程の関連を深めるようにした。

子ども教育学科の科目

発達心理学、子ども観の歴史、教育の心理、社会福祉、子どもの福祉、障害児保育、保育内容（表現A 音楽とダンス）、保育内容（表現B ドラマと空間造形）、教育相談、生活指導、体育Ⅱ（スポーツとレクリエーション）、レクリエーション（理論）、レクリエーション（実技）

芸術教養学科の科目

音楽コース	音楽人類学、芸術鑑賞論、音楽療法、弦楽器 C（三味線）、 合奏 A（和楽器）
舞踊コース	舞踊運動学、舞踊学原論、舞踊上演演習 I（日本舞踊）、 舞踊上演演習 I（西洋）、ダンスセラピー
演劇コース	日本演劇作品講読 I・II、西洋演劇作品講読 I・II、 演劇空間の歴史、ドラマツルギー（分析法）、ドラマセラピー

(b) 地域社会との連携の強化

本学はまた、地域社会との連携を密にし、地域の人々の生活上の要求に対応した教育研究をめざしている。

東京都は現在臨海副都心構想を展開中であるが、本学はその有明地区に立地する。設置申請に先立って、東京都江東区の有明地区の住民代表の方々に、本学の教育研究上の理念・目的について説明し、賛同を得たところであり、今後の緊密な連携に大きな可能性を見出したところである。

本学と地域とをつなぐ接点の一つは、開発に伴う住民の増加により幼児教育に対するニーズが著しく高まり、そのことへの対応が困難になっているという、この有明地区固有の問題への対応である。一方で学生の実習の機会を頂きながら、他方で公開講座及び子育て支援事業（注）等を通じて、幼児教育に関する本学の教育研究能力を積極的に提供するという相互の利点が、両者の連携を支える礎となるものと考えられる。

（注）子育て支援事業とは、後述（ケの（b）のⅡ）するところの子ども教育実践総合センターの業務として行う「親子サロン」を指す。遊び等を通じて約20組の親子の育児ケアを実践し、学生に育児体験の機会を与えながら地域の子育て支援を図ろうとするものであり、週に2、3回開設する。

二つ目の接点は、将来において本学の基本的な資産となるべき伝統芸術に関する教育研究の成果を地域に積極的に提供する活動である。本学のホール（注）を用いて教員自身あるいはその指導する学生の演技・演奏を地域に公開し、地域の人々の文化的要求に積極的に応えたい。

（注）音楽・舞踊・演劇の公演目的に活用できる空間構造を備えた、入場者数400人の施設である。（キの（b）に後述する。）

ウ 大学及び学科の名称

(a) 短期大学の名称

本学の名称は、「有明教育芸術短期大学」(Ariake Junior College of Education and Art)とする。

「有明」は東京都江東区の有明地区に立地することから、その地名に因むとともに、将来的展望を表現する意味を取った。「教育芸術」は本学の教育研究の内容が教育と芸術に関わることから、併記する形とした。

(b) 学科の名称

幼児教育の課程は「子ども教育学科」(Course of Childhood Education)と称し、授与する学位は「短期大学士(幼児教育)」である。幼児教育者(幼稚園教諭及び保育士)の養成を主たる目的としつつ、希望者には小学校教諭2種免許状や子どもの発達を支援する関連資格であるレクリエーション・インストラクター資格を得させようとするものであり、教育研究の対象が子どもの教育に関する領域であることを端的に示した。

芸術教養の課程は「芸術教養学科」(Course of Arts and Communication) (注)と称し、授与する学位は「短期大学士(芸術教養)」である。学科の名称は、芸術に関する広い教養を修得し、地域社会と連携しつつ芸術文化の普及に貢献する人材を養成する目的に沿うものである。

(注) 英文名称について

本学の芸術教養学科の英文表記は、①教育目的にあった英文にする、②外国人が見て教育内容が理解できる英文にする、③同じ名称が同じ目的で使われている先例があること、を命名基準とした。先例は以下である。

School of Arts and Communication (Pacific Lutheran University WA/USA)

* 大学説明より抜粋

「School of Arts and Communication は、コミュニティの人々の生活の質の向上に寄与し、芸術が地域社会や文化において果たす強力な役割を学生に理解させることを教育のミッションとする」

この説明は、本学科の教育研究の目的に合致するものである。

その他の先例は、以下である。

Arts and Communication Department (Orange County Community College/USA)

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

上記教育研究上の理念を実現するため、本学の教育課程を以下のように[両学科共通の基礎教育科目]及び[学科ごとの専門科目]によって編成する。なお、両学科の教育課程の詳細は文末に【資料・別表第2】としてまとめた。

(a) 両学科共通の基礎教育科目

教育・芸術を通じて人々の生活の質の向上を支援する人材を養成するという目的を踏まえつつ、その人材の資質能力を支える人間性・社会性を養い、かつ、専門教育科目の履修に必要な基礎学力を適切に修得させるため、1年次の基礎教育科目においては「人間と世界」「世界の言葉」「心と体の健康」「クラスセミナー」の4区分によって科目群を構成するものとする。

「人間と世界」

世界の広がりの中で人間生活を総合的に観察する能力を養うとともに、両学科の学生がそれぞれの専門分野の関心に重ね合わせながらこの科目を選び、民俗文化についての理解を深めるとともに、人間学的思考の大切さを学ぶことができるようにする。

「世界の言葉」

社会の国際化の進展に対応し、外国語コミュニケーション能力を養う。英語を必修とするほか、それぞれの専門分野に関連する言語を選択して学ぶことができるようにする。

「心と体の健康」

心身の健康について学ぶ科目群である。うち、「芸術セラピー」は、いわば芸術と人間の「生」を結び付ける試みであり、本学教育の特色の一つである。芸術セラピーが現代に生きる子どもたちの心の健康を守り、発達を促す有効な手法であり、更には人々の生きる意欲を支える機能を持ち得ることを理解させる。

「クラスセミナー」

学生の一人ひとりと教員が個別に関わって、入学から卒業までの学習過程を支援しようとするものである。大学における学習方法の指導から始まり、修得した学習成果を自らのものとして再構成し自立的に表現する力を得られるよう適切に指導する。

(b) 学科ごとの専門科目

I 子ども教育学科の専門教育科目

子ども教育学科の専門教育科目を、「子ども理解」「子ども教育の基礎理論」「子ども教育の内容と方法」「教科の基礎」「実習」「卒業研究」の6区分の科目群によって構成する。

この科目群の構成は、幼児教育を担当する一般的資質能力の育成を基礎に置くとともに、とりわけ、本学科において養成すべき人材像に関わって述べたように、子どもの心と生活を理解する力、豊かな感性と表現力、保護者や地域の人々、幼児教育に携わる他の専門職の人々との交流・連携の力を育成する観点に基づくものである。

「子ども理解」

幼児教育者にとって何よりもまず大事なことは、教育の対象である子どもがどのように発達し、生活していくのか、また、そこにはどのような困難があるのか、それらを深く理解することである。子どもの生理的・心理的な状況とともに、家族や地域社会の中で子どもが置かれている状況を理解させる。

「子ども教育の基礎理論」

幼児教育等の基本的な理論を学ぶ科目群。幼児教育等に関する理念、子どもを取り巻く環境の整備と教育的働きかけの在り方について、基礎的理解を深めさせる。

「子ども教育の内容と方法」

幼稚園教育要領等を踏まえ、教育内容とその方法を理解させるための科目群。保育内容の総論及び各論をはじめ、乳児や障害を持つ子どもに対する教育内容・方法の特論的科目を配置する。

「教科の基礎」

指導内容・方法に関する知識・技能（上記「子ども教育の内容と方法」に関連するような、いわば指導法的な領域に係るもの）の背景をなす、健康、環境、言葉、表現等に関する教科専門的な知識・技能を授ける。うち、身体表現教科としての音楽と体育を重視し、科目を複層的に配置する。

「実習」

実習（幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格を取得するための実習）は、事前事後の指導並びに教育実習及び保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲによって行う。

指導計画の詳細は後述（ケ（b））のとおりであるが、学生が直接乳幼児や児童と接する機会を可能な限り多くし、その体験をもとに理論的学習を深化できるようにする。そのため、幼稚園及び保育所に出かけ、園の職員の指導の下に子どもとのふれあいの機会を持たせるなどの事前指導を行い、現場体験と理論学習のいわば往復により実践的な効果を上げるようにする。また、事後指導において、体験の反省評価を促し、適切な助言指導を行う。

「卒業研究」

3年の課程の成果を総括するため、卒業研究を課す。研究方法は学生それぞれによって異なるが、主として論文、創作、演技表現等の形式が考えられる。自発的なテーマ設定に基づいて研究を進め、担当教員の指導により、総合的な課題解決能力を修得させる。

II 芸術教養学科の専門科目

芸術教養学科の専門科目を「学科共通科目」と3つのコースごとの「コース専門科目」に分け、各コース科目をそれぞれ「原論」「表現演習」「実技」「卒業研究」の4区分の科目群によって構成する。一般的・基礎的な内容とコースごとの領域に特化したより専門的な内容とを関連をもって学習できるよう適切に科目配置を行っている。

いずれのコースを選択する場合においても、学科における教育研究の目標である地域社会と連携しつつ芸術文化の普及に貢献する人材の養成を適切に図るべく、各授業科目の内容を構成する。

1 学科共通科目

芸術教養学科の学科共通科目を、芸術理解に関する基礎理論を修得させる科目群、音楽・舞踊・演劇の初級の理論・技法を修得させる科目群及び3分野に共通する舞台演出・制作などの技法を修得させる科目群により構成する。

この学科共通科目においては、将来広く芸術文化の普及に貢献できるよう、芸術の社会的役割や機能について理解を深めさせるとともに、学生に自分の得意分野と必ずしも得意としない分野の授業科目を合わせて履修させ、多様な芸術経験をさせることとする。

2 コース専門科目

1年次前期終了時に、音楽・舞踊・演劇の3分野の1つを選び、その分野に即したコースごとの科目の履修を軸としながら芸術教養の力を高めていけるようにする。各芸術領域における理論面と技能面の学習を授け、自らの力で表現する能力を育てようとするものである。

「原論」

音楽・舞踊・演劇の3分野の学問的基礎を学び、次の段階で表現技術の修得に進むための科目群である。

「表現演習」

各コースの表現・制作に必要とされる基本的な知識・技能を修得させるため、3コースがそれぞれ独自の演習科目を設定する。

演習では、与えられたテーマを処理するだけの受動的学習態度でなく、テーマをクリアした上で、新たな課題を探求する姿勢を重視する。

「実技」

現代の芸術分野と日本の伝統的な芸術分野との双方に対応した実技科目を設定する。これらは、得意分野に相当する必修科目と、得意分野と関連させて、コース内又はコースを超えて履修する選択科目から構成される。授業ではそれぞれの学生の技能水準に適合した実技指導を行い、得意分野について愛着と自信を獲得できるよう指導する。

「卒業研究」

2年の課程の成果を総括するため、卒業研究を課す。研究方法は学生それぞれによって異なるが、論文及び実技による作品発表の両方の審査に合格しなければならない。地域社会と連携しつついかに芸術文化の普及に貢献するかという基本的な問題意識の下、自発的なテーマ設定に基づいて研究を進め、担当教員の指導により、総合的な課題解決能力を修得させる。

オ 教員組織の考え方及び特色

(a) 子ども教育学科

教育学、保育学、心理学等の領域で、大学、学会等において指導的役割を果たしてきた専任教員を中心に置き、教育課程の基本となる科目群「子ども理解」「子ども教育の基礎理論」「子ども教育の内容と方法」の主たる部分の担当とする。

さらに、「教科の基礎」「実習」などの実践的領域では、幼児教育の現場で豊かな実践経験を有する専任教員及び非常勤教員を配置し、理論と実践を結ぶ指導体制を整える。

なお、子ども教育学科の専任教員の多くは、大学院修士課程修了等の学歴を持ち、研究面での発展が見込まれるとともに、日本音楽学校での教育実践において優れた実績を有している。

(b) 芸術教養学科

日本の伝統芸術に係る高度の専門技能と豊かな指導実績のある教員と、現代芸術の分野で活躍しかつ教育経験が豊富な教員を配置する。その上で更に、伝統芸術と現代芸術を比較し、両者についての基本的考え方や表現技法の差異を講ずる教員を配置する。

[音楽コース]

3人の教授と1人の講師で構成する。3人の教授は、日本伝統音楽、現代音楽、両者の間を調整する音楽学の教員を配置する。各教員は、互いの教育分野を補完し、理論と実技、伝統と現代の授業内容を均衡の取れたものとする。

[舞踊コース]

日本舞踊の授業では、古来伝承されてきた正しい基礎・基本的な技能を教授する。また、現代舞踊の授業では、初歩的な表現理論・技法を授けるとともに、舞踊の楽しさや魅力を体験させる。

このため、豊富な指導経験と舞台経験を有する専任教員を、日本舞踊の分野と現代舞踊の分野に教授各1名、舞踊理論に講師1名、それぞれ配置する。

[演劇コース]

演劇コースでは、演劇そのものに加え、音楽、舞踊等に関する学習も求められる。

日本の伝統演劇である歌舞伎の学習では、歌舞伎舞踊や長唄などの基本的な素養を修得させる必要がある。また、現代演劇の学習では、初歩的な演技・演出論の修得とともに、世界の多様な演劇文化についての理解を深めさせることが必要である。

このため、演劇コースでは教授1名（伝統演劇と歌舞伎舞踊）、准教授1名（現代演劇）、講師1名（演出実践）を年齢の偏りがないよう配置する。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(a) 履修指導

[新入生合宿指導]

入学時の新学期授業開始前に、学外において履修要領を中心に新入生合宿指導を行う。参加者は、新入生全員、教員全員、教務・学生・厚生課担当職員及び上級生リーダー約10人（開設2年目以降）であり、大学の教育方針の説明、履修指導、学生と教職員との関係づくりなどを内容とし、2泊3日の日程で実施する。

[クラスセミナー]

クラスセミナーを必修とし、クラス担任が担当する。そこでは、入学から卒業までの履修の過程に応じた個別指導を行う。大学における学習の基礎技法の指導、進路指導等を含む。

(b) 通常授業を充実させるための工夫

通常授業では、提出を義務付けた課題を与え、単位制度の形骸化を防ぐ。また、そのことと連動させながら、各授業の開始時または終了時にミニッツ・ペーパー（注）を課し、授業の疑問点や質問に教員が答えることによって、授業への参加意欲を高める。

（注）学生と教師のコミュニケーション用アンケート用紙。すべての授業で毎時間実施する。日本音楽学校における実践では、学生に授業のポイントを書かせている。

(c) 少人数授業

[語学]

語学（英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語）は実技科目と同じ扱いとし、1クラスを40人に抑える。入学時と2年次に共通語学試験を行い、レベルに応じて40人ずつの語学クラスを編成する。

[その他の少人数授業]

コンピュータ関係の授業、造形美術の授業、調理実習などの授業も40人編成で行う。その他の授業でも受講者数をできるだけ少なくして、丁寧な指導をめざす。最大70人規模とし、多くは40人以下の規模とする。

(d) 卒業に必要な単位数

卒業に必要な総単位数は、子ども教育学科（3年制）にあつては106単位、芸術教養学科（2年制）にあつては73単位である。科目区分に応じた内訳は別記【資料・別表第2】のとおりである。

※ 入学から卒業までの履修の形態を、子ども教育学科（3モデル）、芸術教養学科（1モデル）に分けて【資料・別表第3】として掲載した。また、芸術教養学科の学生が1年次前期終了時にコースを選択し、1年次後期からコース専門科目を学習する過程を略図【資料・別表第3の3】にまとめた。

I 子ども教育学科

子ども教育学科にあつては、幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格の取得に必要な単位修得が卒業要件に含まれる。

履修の形態は、

- 1 基本のモデル（卒業要件として幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の取得）
- 2 基本のモデル + 小学校教諭2種免許状
- 3 基本のモデル + 小学校教諭2種免許状 + レクリエーション・インストラクター資格

の3種類がある。

II 芸術教養学科

芸術教養学科にあつては、35単位の基礎教育科目と学科共通科目を学びつつ各自の得意分野を確定し、学習の焦点を音楽・舞踊・演劇のいずれかのコースに合わせる。

コース選択は、1年次のクラスセミナーにおいて指導教員が面接指導をし、1年次前期終了までに各自の進むコースを決定する。

コース選択にあたり、基本的には、教員の指導を受け、学生が自らの判断で決定する。コース決定に問題を抱えている学生に対しては、コース選択のための面接（指導）は複数回行い、入学時の成績、前期試験の成績（及びGPA）に基づき教員の総合的判断を示し指導を行う。教員の指導は「クラスセミナー」（表現と学習の技法）の時間を活用して行う。共同指導が必要な場合は、音楽、舞踊、演劇の各コースの教授が3人1組となって面談し、指導する。

【資料・別表第6】

キ 施設、設備の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

校地は、東京都市計画事業有明北土地区画整理事業により整備された、臨海副都心有明北地区に位置し、隣接地には「かえつ有明中学・高等学校」があり、さらに今後、「東京有明医療大学（仮称：平成21年4月開学予定）」や区立学校の建設が予定されている文教地区となっている。

同地区は、りんかい線「東雲駅」から約680m、新交通ゆりかもめ「有明テニスの森駅」から800mといずれも徒歩圏内であり、周辺の幹線道路網も整備されバスの便も豊富にあるなど、通学の交通環境に恵まれている。

校地の周辺環境は、高層の住宅団地が建設されつつあるが、基本的には静穏な住宅地域であり、教育、勉学に相応しい環境を有している。また、本学の整備計画においては敷地の境界沿いに緑地帯を設け緑のネットワークの形成に寄与するなど、地域に融合した緑あふれるキャンパスを創造していく計画である。

[運動場]

運動場は、校舎と同一敷地内にあり、高低差のあった地形を平地化して面積 2,130 m²をとり、これは校地全体の約3割を占める広さである。一面を芝生で覆われた運動公園の概観とし、固定的な運動用設備は設置せず、体育実技、舞踊表現など、各々で必要に応じた用具を搬出入し利用する。

[学生の休息等のための空地]

学生の休息その他の利用のための空地の整備については、屋内 1 階に学生ラウンジとして 70 人～80 人の学生が休憩に集える場所を確保、また、1 階には教室サイズの学生控室を用意し、学生の自由時間の居場所として、パソコン使用など多様な利用が可能なスペースとして提供をする。

屋外では、道路から校舎へのアプローチとしてのプラザのエリアと、V字型に配置された講義棟の中間に設けられたエリア、すなわちピロティ越しに広がる野外ステージのある中庭一帯は通常は学生の憩いの広場である。野外ステージで上演が行われる場合は階段状のスペースは観客席として、円形のエリアは舞台として利用される。

なお、この劇場はオープンなスペースであることから、地域住民との交流の場（例えば盆踊りや神楽・お囃子などの伝承芸術の発表の場）としても活用する。

[体育館等]

短期大学設置基準に「原則として体育館を備える」とあることを踏まえて、体育館として、面積 157. 62 m²、高さ 3. 8 mの室内空間（トレーニング室兼ダンス演習室）

を用意した。体育館を使用する授業は、体育に関する授業（基礎教育科目 1 科目及び子ども教育学科専門教育科目 2 科目、自由科目 1 科目）とダンスに関する授業（芸術教養学科舞踊コース専門科目 4 科目）である。

やや狭小であることから、体育関連の授業（注 1）は、安全に配慮し、クラスサイズを 20 人とし実施する。また屋内で行うことが可能な体操、器械運動を中心に設定しており、十分に実施可能である。【資料・別表第 4】

屋外で行う授業に関しては、運動場でできる範囲の内容を設定した。バレーボール、ランニング、アルティメットなどを、屋外運動場を使って実施できる。

学生の課外活動としてのテニス、サッカー、野球など、本学の運動場の範囲でできない種類の運動については、公共運動施設を利用して行うことを推進していく。

ダンス関連の授業（注 2）は最大 30 人規模であり、また特に器械等の用具も備えないため、十分に実施可能である。

（注 1） 基礎教育科目の「運動と健康」では、体育館において、体操、器械運動を中心に授業を行う。アルティメット（フリスビーを使った競技の 1 種）については、運動場で行う。講義は、屋内で行う。

子ども教育学科専門教育科目の「体育 I（幼児）」では、体育館において体操や器械運動を中心に授業を行う。簡単なボールを扱う活動は、運動場で行う。

同じく「体育 II（スポーツとレクリエーション）」では、運動場での活動を中心とする。内容としては、ハードル走、持久走、ハンドベースボール、バレーボールを中心に行う。雨天の際は、屋内で講義を行う。

同じく「体育科指導法」では、体育館において体操や器械運動、表現運動を指導することを想定した模擬授業を中心に行う。講義は、屋内で行う。以上いずれも、20 人規模の授業であり、収容可能である。

（注 2） ダンスに関する授業は、芸術教養学科 舞踊コースの授業で以下である。

「ダンス・コンテンポラリー I（基礎）」（必修科目）

「ダンス・コンテンポラリー II（応用）」（選択科目）

「ダンス・クラシック I（基礎）」（必修科目）

「ダンス・クラシック II（応用）」（選択科目）

いずれも 30 人規模の授業で、収容可能である。

[学生ラウンジ等]

学生のためのフリーエリアとして、校舎内に飲食ができる学生ラウンジを用意している。給湯設備、電子レンジ、冷蔵庫などを用意し、ライト・ミールなどの利用ができるようにする。また、昼食時の前後の時間を中心に、売店で昼食の弁当類や

軽飲食物、その他の販売を行う。購買部では学校生活に必要な文房具、教材、学習に必要な消耗品類の販売を行い、学生の利便を図ることとする。

(b) 校舎等施設の整備計画

[教員研究室]

教員研究室は、専任教員に各1室を用意している。また、助手用の共同研究室1室と非常勤講師用ワーキング・ルーム1室を確保している。

[両学科共通の教育施設]

両学科共通の、体育施設、講義室、パソコン教室、調理室、実習・実技室、ホール、ダンス練習室、美術室などについては、科目数、学生数等から計算して十分な面積の学習空間を確保している。

[子ども教育学科の施設]

子ども教育学科は、子どもたちの生きる喜びを育む、音楽、運動、造形、ドラマ、言葉などに関わる豊かな表現コミュニケーション能力の育成を重視している。

このような観点から、音楽関係の施設として、ミュージック・ラボラトリー（20台の電子ピアノを完備した教室）を2室用意したほか、ピアノ個人練習用のレッスン室が8部屋、和洋の楽器のレッスンを受けられる音楽レッスン室を5部屋設けている。また、音楽演習室、邦楽・日舞演習室、楽器庫で、楽器の維持・管理ができるようにした。

美術用教室は十分なスペースを持ち、50人の学生を収容できる。電動教具のための配電、水周りの整備、騒音対策、衛生環境に配慮した実技教室となっている。

このほかに保育の実習を行う教室や調理の実習を行なう教室は静寂で清潔な環境を保持可能な3階にまとめた。

ユニークな施設として、子育て支援活動の拠点となる「親子サロン」のためのスペースを確保した。約33㎡のスペースを持ち、キャンパスの一番入口に近い位置にある。

[芸術教養学科の施設]

芸術教養学科の各コースの授業形態は、講義・演習・実技に区分される。講義室は基本的に子ども教育学科と共有で、学科占有の講義室という性格を持たない。

しかし、演習・実習室としては、学科やコースの授業内容や方法に応じて以下のような特色ある施設を用意した。

舞踊コースの洋舞授業のためのリハーサル室、演劇授業のためのリハーサル室が

用意されている。

また、日本舞踊の授業に使う専用稽古場（63㎡）を2階に設けた。またこの稽古場と一体化している邦楽練習室（63㎡）を設け、邦楽と日本舞踊が合同で授業・練習できるよう工夫した。

音楽レッスン室をやや広めに設計し、洋楽器や邦楽器の練習ができるよう配慮している。ピアノ、フルート、ヴァイオリン、箏、三味線、太鼓、鼓、横笛などの楽器の授業・練習のための空間である。

本学の教育研究上不可欠な施設は、ホールである。典型的なアリーナ・シアターあるいはスラスト・ステージの構造を持ち、音楽・舞踊・演劇の多目的な使用に耐え得る空間構造を有している。音楽演奏の空間として残響時間1.6秒（±0.2）を想定した。また舞踊や演劇の上演では、どの席からも出演者の顔が見えるよう最大限の客席傾斜と客席配置に配慮した。入場可能者数は400人である。

[施工・完成予定その他]

建設工事は平成20年（2008年）4月に着工し、竣工は平成21年（2009年）2月の予定である。

なお、短期大学設置に伴って平成21年度に募集停止を行う日本音楽学校（修業年限2年の保育士・幼稚園教諭養成専門学校、定員50人）と短期大学とは校舎を一部共有する。日本音楽学校の平成20年度入学者（定員50人）のための専有面積を確保し、分別された授業計画を用意している。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

I 図書等の整備

子ども教育学科及び芸術教養学科に共通する領域の図書と各学科に対応する図書の整備をした。

1 和書

本学の前身の日本音楽学校がもともと音楽教員と幼児教育者の養成所であったことから、音楽と幼児教育に関する書籍は種類・量ともに充実している。幼児教育関係では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、保育原理、保育内容、保育史、指導計画、実習等関係の各種書籍のほか、文学書、児童文学書、絵本の種類も豊富であり、全集の形で揃っているものも多数ある。また、最近の社会的動向に応じ、とりわけ心理学と福祉に関する参考図書は、近年充実を図っており、心理学では、基礎心理学、発達心理学、精神分析、基礎用語集などの書籍を整備している。福祉に関する

ものでは、障害者、児童福祉、社会福祉などの分野の参考図書が網羅されつつある。新たに 1200 冊程度の収書を行う。

芸術教養関係では、音楽の分野で、楽譜、作曲法、理論、音楽史、伝記、音楽教育、童謡、唱歌等に関するものが幅広く収蔵されているが、残念なことに教育課程の基本となる舞踊、演劇、芸術学などの専門分野に関する書籍が 300 冊程度と種類・量ともに十分でないことから、舞踊と演劇の歴史、作品解説、評論、創作理論関係の書籍や DVD を収集中である。今後も引き続きこれらの領域における書籍を充実させる。新たに 300 冊程度の収書を行う。

以上合わせて、和書の現在数は約 13,000 冊であるが、新たに 1,500 冊程度の図書を収書する予定である。(発注中)

2 洋書

日本音楽学校には 10,000 点近くの洋書の所蔵があるが、年鑑、辞典類、書誌等の総記関係、哲学、心理学、歴史、文学等の人文科学関係、及び政治、経済、教育、風俗習慣を含む社会科学関係など、そのうち本学の図書として備えるべきものは約 200 冊である。しかし、多くは 1960 年前後の出版となっており、最近の刊行物を整備する必要があると認められるので、このたび洋書 300 冊程度(うち芸術関係 200 冊)の追加収書を行う計画である(発注中)。

3 雑誌

幼児教育と教育に関するもの、心理学に関するもの、芸術に関するものが数点収められているが、短期大学教育に対応するものをこのたび新しく整備する必要がある。

学術雑誌を中心に、一般 5 種類程度、子ども教育学科関係 10 種類程度、芸術教養学科関係 60 種類程度を定期購読する計画である。和雑誌 65 種類程度、洋雑誌 20 種類程度となる。

II デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画

本学の教育研究の中心テーマに関わるものとして、下記の分野のデータベース化を検討中である。具体的には、教員の無形の芸術表現成果を記録し、デジタル化して保存する計画であり、データベース化の完了は平成 24 年を予定している。

- ・日本舞踊 (デジタル映像 DVD)
- ・長唄 (CD 及びデジタル映像 DVD)
- ・狂言 (デジタル映像 DVD)
- ・日本の祭り・子どもの遊びと音楽 (CD 及びデジタル映像 DVD)

Ⅲ 閲覧室、席数、レファレンス・ルームなど

本学図書館では、書籍の閲覧席数を90席（全学生数の約20%）用意しているが、そのうちの半数はコンピュータを活用するための最低限の設備を付置している。したがって、各自の閲覧席においてコンピュータでDVD教材やビデオクリップなどを用いた授業の予習・復習ができる。

Ⅳ 他の大学図書館等の協力について

子ども教育に関する教育研究及び音楽・舞踊・演劇に関する教育研究について、それらを実施している大学・学部・学科とのデータベースの連携を推進する予定である。特にビデオクリップ、卒業論文、卒業研究作品（演奏、舞踊作品、演劇作品など）などのリンク化を図る。現在、大学・短期大学の図書館の相互利用のためのコンソーシアムの組織化が進められているが、本学設置の場合、それへの参加を申し出る予定である。

ク 入学者選抜の概要

(a) 養成する人材像や教育課程との関連

I 子ども教育学科

本学科が養成する幼児教育者に求められる基本的な資質として、人間の能力、子どもを理解する能力、教職的教養、教科指導力、協調性を掲げ、それに対応する教育課程を編成した。その上で、先に学科の教育研究の目標として掲げたように、とりわけ豊かな表現コミュニケーション能力を修得した幼児教育者の養成に努力する。

本学在学中にこれら資質能力を備えた人材を養成するため、そのいわば「候補生」となる受験者には、履修能力を持つ学力の基礎の上に、次のような視点を重視して入学試験を課すこととする。

- ・強い表現意欲を持った学生
- ・自分の考えを的確に伝えることができる学生
- ・自己と他者の長所を認めようとする姿勢を持った学生
- ・協調して活動に取り組むことができる学生

II 芸術教養学科

本学科においては、音楽・舞踊・演劇の3領域に係る芸術的教養を修得させ、地域社会と連携しつつ芸術文化の普及に貢献する人材の養成を図ろうとするものである。このため、本学としてもとより一定の芸術的技法の修得に意を用いるが、それとともに、芸術的共感を支える感性や、人々に働きかけ交流するソーシャル・スキルを重視した教育を施すこととする。

西洋又は日本の芸術の一方に対して不得手意識を入学当初抱く学生も存在すると思われるが、それを乗り越え、東西の芸術について広く学ぶ本学独自のカリキュラムに挑戦する意欲を持つ学生を迎え入れ、養成する。

(b) 選抜方法及び選抜体制について

I 選抜方法

1 基本的な選抜方法

基本的な選抜方法は、アドミッション・オフィスによる入学試験、一般入学試験、学校推薦入学試験、パフォーマンス・キャリア評価入学試験による。うち、パフォーマンス・キャリア評価入学試験は芸術教養学科のみで実施する。

(1) アドミッション・オフィスによる試験

それぞれの学科の教育目標を十分に理解し、カリキュラムを履修し得る資質を有する学生を選抜するため、アドミッション・オフィスによる入学試験を導入し、面接、スピーチ、実技を実施する。入学定員の3割程度とする。

なお、子ども教育学科のアドミッション・オフィスは、学科長、子ども教育実践総合センター長、教員3名、事務員2名、附属幼稚園または保育所の教員又は職員で構成する。また、芸術教養学科のアドミッション・オフィスは、学科長、コース長3名、教員3名、事務員2名で構成する。

(2) 一般入学試験

子ども教育学科の一般入学試験の試験科目は、小論文、国語及び面接とし、入学定員の4割程度の合格を予定する。

芸術教養学科の一般入学試験の試験科目は、小論文、芸術教養科目、実技、面接とし、入学定員の4割程度とする。

(3) 学校推薦入学試験

子ども教育学科の推薦入学試験は、小論文、実技及び面接により行い、入学定員の3割程度の合格を予定する。

芸術教養学科の推薦入学試験は、書類審査、実技、面接を行い、入学定員の3割程度とする。

(4) パフォーマンス・キャリア評価入学試験

芸術教養学科では、パフォーマンス・キャリア評価入学試験を行う。

音楽・舞踊・演劇の各コースの分野で優れた経験や実力があると認められた学生については、技能を優先した特別の入学試験を行う。複数メンバーによるパフォーマンスの場合も受験生個人の実績を評価する。入学試験は、面接、スピーチ、実技を実施する。合格者はアドミッション・オフィスによる試験の入学者に含まれる。

2 センター試験の利用

センター試験を利用した入学者選抜については、少人数ながら特別枠を設けることとする。導入は平成22年度以降とする。

3 社会人、留学生、帰国生徒の受入れ

社会人及び帰国生徒の受入れは、両学科とも若干名とする。

社会人については、大学入学資格を持つ者のうち、2年以上の有職経験者、子育て

経験のある者、伝統芸能に関係する学習又は業務の経験のいずれかを有する者を対象とする。社会人枠を設定し、受入れを開始するのは平成22年度以降とする。

留学生の受入れは当面行わない。

帰国生徒の受入れについては、平成22年度以降とする。入学希望者に簡単な予備学習プログラムを示し、そのプログラムを終了したものから若干名入学を認める。

II 選抜体制

本学に入試委員会を設置する。委員会は学科長及び教授、准教授で組織する。委員会が合格候補者を選抜し、教授会において合格者を最終決定する。

芸術教養学科は一括して90人の入学生を受入れ、1年次前期終了後、学生の希望と学力・技能から判断して各コースへの選択を決定する。入学試験からコースに進むプロセスを略図にまとめた。【資料・別表第6】

ケ 資格取得

(a) 学生が取得可能な資格

学生が取得可能な資格は、下表の通りである。

学科	取得可能な資格	授与主体	取得要件等
子ども教育学科	幼稚園教諭 2 種免許状	東京都 教育委員会	卒業に必要な単位を修得することにより取得可能
	保育士資格	国家資格	卒業に必要な単位を修得することにより取得可能
	小学校教諭 2 種免許状	東京都 教育委員会	希望者が卒業要件のほかに所定の単位を修得することにより取得可能
	レクリエーション・インストラクター資格	民間資格 (財団法人 日本レクリエーション協会)	希望者が卒業要件のほかに所定の単位を修得することにより取得可能

(b) 実習の具体的計画

子ども教育学科の実習の具体的計画は以下のとおりとする。

I 実習先の確保の状況

1 教員免許状取得のための教育実習

(1) 幼稚園教諭 2 種免許状関係

教育実習先の幼稚園は十分に確保されている。

具体的には、日本音楽学校がこれまで実習を依頼してきた東京都、神奈川県及び埼玉県下の私立幼稚園に、平成 19 年 1 1 月、短期大学設置を構想中であることを告げ、設置が許可された場合、平成 21 年以降も教育実習を引き受け願いたい旨の依頼をし、申請時点で 127 園の受入れ承諾書をいただいている。

このほか、公立幼稚園における教育実習に関しては、東京都教育委員会から東京都公立学校教育実習実施承諾に基づいて実習先を申請する。

(2) 小学校教諭 2 種免許状関係

小学校における教育実習に関しては、上記公立幼稚園における教育実習の場合と同様、東京都教育委員会から東京都公立学校教育実習実施承諾に基づいて実習先を申請する。

2 保育士資格取得のための保育実習（保育所・施設）

保育実習（保育所・施設）の実習先を確保するため、上記幼稚園における教育実習の場合と同様、日本音楽学校がこれまで実習を依頼してきた東京都、神奈川県、埼玉県下の各保育所・施設に、平成19年11月、短期大学設置を構想中であることを告げ、設置が許可された場合、平成21年以降も実習を引き受け願いたい旨の依頼をし、申請時点で489園の保育所・施設の受入れ承諾書をいただいている。

II 実習水準の確保の方策

子ども教育学科は幼稚園教諭と保育士の養成を基本的な任務とし、加えて小学校2種免許状取得が可能なことから、幼稚園教育実習、保育実習(保育所・施設)、及び小学校教育実習の実習水準の確保のため、以下の実習指導体制、実習計画をもってその方策とする。

1 指導体制

幼稚園教育実習、保育実習(保育所・施設)、及び小学校教育実習の指導は大学側教員(実習科目担当教員・巡回指導担当教員)の指導と実習園(校)の教職員が連携して指導する体制を整え、実習指導の充実を図る。これを強化、支援する学内の組織として実習委員会と子ども教育実践総合センター(以下、実践総合センター)を設置する。

(1) 実習科目担当教員による指導

「事前・事後の指導」において、実習の意義・目的、実習日誌の書き方・記録のとり方、指導案の立案と作成などを指導する。さらに巡回指導担当教員と連携し、実習に関する諸問題に対応する。

(2) 巡回指導担当教員による指導

実習園(校)を訪れて実習先の指導者とともに学生を指導する。指導内容、学生への対応、実習先の情報等を巡回記録として実践総合センターに提出する。実践総合センターはこれを実習に関する教育研究データとして蓄積する。また巡回指導担当教員は可能な限り同一の学生の幼稚園教育実習、保育実習(保育所・施設)、及び小学校教育実習の巡回指導を担当し、指導する。

(3) 実習園(校)教職員による指導

実習園(校)の教職員は、本学の実習指導の方針に基づいて実習指導計画を立て、クラス・学級への配属、部分実習・責任実習の指導、研究授業の指導等を行う。また巡回指導担当教員とともに学生を指導する。

(4) 実習委員会と子ども教育実践総合センターの設置

実習の質を確保するため、特に、学生に対する事前・事後指導など学内の指導体制の強化、実習に関する教育研究データの蓄積、実習園（校）や教育委員会などとの対外連携のためのシステムづくりを重視し、関係教員の協同による実習指導を支援する学内組織として、協議機関である実習委員会及び、実務機関である子ども教育実践総合センターを設ける。

(参考) 子ども教育実践総合センターについて

子ども教育実践総合センターは、実習水準を確保するための実践的な役割を担うものであり、その主な業務は以下のとおりである。

1 実習の企画実施の管理に関すること

- ・実習計画を立案して実習委員会に提案すること。
- ・実習計画に基づいて関係教員の役割・分担を調整すること。
- ・関係教員の協力を得ながら実習の事前・事後指導を実施すること。
- ・進行状況に絶えず留意し、問題があれば関係教員とともに解決を図ること。
- ・各年度及び個別のプログラムの計画書及び報告資料を作成すること。

2 実習の内容・水準に関すること

- ・実習のカリキュラム・教材の開発を推進する母体となること。
- ・実習に関わるすべての教員に対し、実習を指導する教員としての自覚と指導力向上のためのFDを推進すること。

3 子育て支援事業に関すること

- ・本学独自の取組みである「親子サロン」（注）を運営し、学生に実践の機会を与えること。
（注）遊び等を通じて約20組の親子の育児ケアを実践し、地域の子育て支援を図ろうとするもの。週2、3回開設する予定。サロンには学生もボランティアとして参加可能であり、授業の空き時間や放課後に子どもたちとふれあう機会を設けることにより（特に実習参加前）、実習水準の向上を図る。

2 幼稚園教育実習の計画

(1) 実習時期と内容

幼稚園教育実習は2年次前期に2週間、後期に2週間行い、前期2週間を「観察・参加実習」、後期2週間を「本実習」と位置付けて段階的に実習内容を向上させる指導を行う。

(2) 観察・参加実習について

前期2週間の実習は「観察・参加実習」と位置付け、幼児の年齢による発達の差異、保育者の動きを観察して記録し、指導案作成の前段階が学習できるよう指導する。実習後には本実習に向けた研究課題をまとめたレポートを課す。

(3) 本実習について

後期2週間の実習は「本実習」と位置づけ、より実践的な幼児との関わりと保育者の実際を学習するために、部分実習指導案、責任実習指導案の立案・実践、および研究課題に取り組むことができるよう指導する。実習後には研究課題をまとめたレポートを課す。

3 保育実習（保育所・施設）の計画

(1) 保育実習について

保育実習には保育実習Ⅰ（保育所・施設）、保育実習Ⅱ（保育所）、保育実習Ⅲ（施設）があり、それぞれの実習計画と内容は以下のとおりである。

(2) 実習時期と内容

保育実習Ⅰ（保育所・施設）は3年次前期に保育所で12日間及び児童福祉施設等で12日間の実習を行う。事前指導では実際の保育の場に赴く体験的学習を取り入れ、乳幼児との関わりを通して保育士の仕事、施設の役割等の実際を観察して理解を深めることができるよう指導する。さらに3年次後期の保育実習Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）では児童福祉施設、社会福祉施設の職務に対する理解を深めるため、研究課題をもって臨むことができるよう指導する。

(3) 保育実習Ⅰ(保育所)

保育所における12日間の実習では乳幼児の発達の差異、特に乳児（0、1、2歳児）の発達段階と保育者の動きを観察して記録し、保育者の補助を行いながら保育の実際が学習できるよう指導する。実習後は研究課題をまとめたレポートを課す。

(4) 保育実習Ⅰ(施設)

居住型児童福祉施設において12日間の実習を行い、施設の機能と役割、乳幼児・児童の理解、職員の役割を観察して記録し、職員の補助を行いながら保育の実際が学習できるよう指導する。実習後は研究課題をまとめたレポートを課す。

(5) 保育実習Ⅱ(保育所)

より実践的な乳幼児との関わりと保育者としての実際を学習するために、デイリープログラムにおける部分実習指導案、責任実習指導案の立案・実践、及

び研究課題に取り組むことができるよう指導する。

(6) 保育実習Ⅲ(施設)

より実践的な乳幼児・児童との関わりと職員としての実際を学習するために、個々の乳幼児・児童への理解を深め、職員としての職務の実際、及び研究課題に取り組むことができるよう指導する。

4 小学校教育実習の計画

(1) 小学校教育実習について

小学校教育実習は、卒業要件外で学生が希望により小学校教諭2種免許状取得のために選択して履修する科目である。現在の幼児教育は小学校との連携による教育が推進される方向にあることも踏まえ、学生が双方の教育の現場で幼児と児童の発達、教育への理解をもつことは重要である。小学校教育実習の実施に当たって、2年次に経験した幼稚園教育実習との関連に注意を向けさせ、幼児期から児童期への教育の過程について、理解を深めるようにする。

(2) 実習時期と内容

小学校教育実習は3年次前期に2週間行い、教育の現場において学校教育の目標、学級経営の実際、児童の実態を観察して記録し、学習指導案の立案と実践を通して児童の理解、教職員としての自覚を育成できるよう指導する。教育の現場をより深く理解するために、事前指導において小学校に赴いて授業参観を行い実習に備える。

Ⅲ 実習先との連携対策

実習の円滑な実施のため、実習先と以下のように連携を図ることとする。

1 実習先への十分な事前説明

実習科目担当教員と実践総合センターは、実習依頼先の幼稚園園長、保育所を含む児童福祉施設・社会福祉施設等の施設長、小学校校長に実習を依頼するに際し、本学の実習の実施概要等を明記して説明する。主な説明内容は以下のとおりとする。

- ・本学の幼稚園教育実習、保育実習（保育所・施設）、小学校教育実習の目的
- ・実習園（校）における指導内容と達成目標
- ・評価項目と方法
- ・スケジュール（オリエンテーション、実習期間等）
- ・提出書類（実習要綱、学生調書、評価表、健康診断書、細菌検査結果証明書等）
- ・大学側担当教員（実習科目担当教員、巡回指導担当教員）との連絡等

2 問題が生じた場合の対応方策の事前確認

実習前または実習中に、学生の実習に臨む姿勢や資質能力に問題があると判断された場合に備え、事前に実習先と以下の対応方策を確認する。

(1) 事前確認の方法

大学側担当教員等（実習科目担当教員、巡回指導担当教員、及び実践総合センター）は、対応方策を実習の実施概要等に明記して説明する。

(2) 事前確認の内容

- ・ 大学への連絡方法
- ・ 対応する担当教員
- ・ 学生への対応内容と報告の方法

(3) 大学側の担当教員の対応方策

- ・ 実習科目担当教員又は巡回指導担当教員は当該学生に速やかに個別指導を行う。
- ・ 実習科目担当教員又は巡回指導担当教員は個別指導の結果を踏まえ、その内容と実習の継続又は実習の中止等の判断を実習園(校)の長へ報告する。

3 巡回指導によるサポート

巡回指導は以下の目的、巡回指導担当教員、方法によって行い、学生の実習をサポートする。

(1) 巡回指導によるサポートの目的

各実習に定めた実習期間中、巡回指導担当教員は学生の実習が円滑に行われるよう巡回して指導を行う。また実習園(校)の実習指導担当教職員と面会して指導内容等話し合い、指導に関する相互理解を深める。

(2) 巡回指導を担当する教員

- 子ども教育学科の専任教員が担当する。【資料・別表第7の1】
- ・ 学科長、実践総合センター長、専任教員

(3) 巡回指導によるサポートの方法と内容

- ・ 巡回指導担当教員は指導を担当する学生と実習開始までに面接し、巡回指導について説明する。

- ・巡回指導担当教員は実習園(校)において学生の実習の様子を観察し、適切な指導を行う。
 - ・学生の質問・疑問などに対応し、実習中の問題の早期発見と解決に努める。
 - ・巡回指導担当教員は実習先の実習指導担当教職員と面談し、指導内容、報告事項等の確認を行う。
 - ・実習に臨む姿勢や資質能力に問題があると思われる学生に対しては、巡回指導担当教員又は実践総合センター所員がさらに複数回巡回指導を行うこととする。さらに、学生が実習を継続することが不可能と思われる場合は、実習科目担当教員と実践総合センター長の判断で実習を中止させ、大学で個別の指導を行うこととする。
- なお、巡回指導計画は後述する。

4 学内外の関係者から成る実習評価協議会の開催

年に1回、実習評価協議会を開催する。

同協議会は、本学の実習指導についての評価・検討を行い、改善する目的で、実習園(校)の実習指導担当教職員を招聘して行う。本学からは子ども教育学科の全教員が参加する。

同協議会では次のような評価・検討・改善項目を自ら設定し、具体的な改善方策を明らかにする。

- ・学生の実習へ取り組む姿勢や職業への自覚、教育者及び保育者としての資質に関することについて。
- ・実習指導及び巡回指導の内容・方法等について。
- ・実習の目標・評価等について。
- ・実習実施に関する事項(日程・提出書類・連絡方法等)について。

IV 事前・事後における指導計画

実習の事前・事後指導のための授業科目を開設し、主としてその科目の学習を通じ、以下のような内容を学ぶこととする。

1 事前指導

(1) 幼稚園教育実習事前指導の概要

幼稚園教育実習に先立ち、実習の意義・目的を明確にしてその心構え、幼児の理解、保育内容・方法の理解、保育技能・技術の実践方法、実習日誌や指導案の立案、模擬保育を実施して実習の事前指導とする。

(2) 幼稚園教育実習事前指導の内容

- ・幼稚園教育実習の意義・目的について
- ・幼稚園における教育方針、職務理解、クラス運営の理解と心構え
- ・幼児理解、保育方法の理解、指導案の立案と作成
- ・保育技能（援助、環境設定、幼児指導など）、保育技術（運動、音楽、製作指導の方法、教材等の知識）について
- ・実習日誌の記入と記録のとり方
- ・年齢別の模擬保育

(3) 保育実習 I (保育所・施設)事前指導の概要

保育実習に先立ち、実習の意義・目的を明確にしてその心構え、児童福祉施設等の機能と役割の理解、乳幼児の理解、保育内容・方法の理解、保育技能・技術の実践方法、実習日誌や指導案の立案、模擬保育を実施して実習の事前指導とする。また実際の保育現場に赴き、乳幼児との関わりをとおして職員の仕事、施設の役割を観察する体験的学習を取り入れる。

(4) 保育実習 I (保育所・施設)事前指導の内容

- ・保育実習の意義・目的と実習の心構えについて
- ・保育所の役割と保育指針、保育士の職務について
- ・乳幼児、特に乳児（0、1、2歳児）の発達の差異の理解
- ・保育技能(援助、環境設定など)、保育技術(絵本の読み聞かせ、製作指導など)について
- ・デイリー・プログラムの理解と指導案の立案・作成
- ・実習日誌の記入と記録のとり方
- ・児童福祉施設等の概要(種類と役割)と保育士の役割について
- ・模擬保育

(5) 小学校教育実習事前指導の概要

小学校教育実習に先立ち、実習の意義・目的を明確にしてその心構え、児童の理解、教育方法、教材の理解、実習日誌や学習指導案の立案・作成を実施して実習の事前指導とする。また実際の小学校の現場に赴いて授業参観を行い実習に備える。

(6) 小学校教育実習事前指導の内容

- ・小学校教育実習の意義・目的について
- ・児童理解と児童の発達段階、児童と家庭、児童と友人関係について
- ・生活指導、学級、学年経営、教科、教材について
- ・学習指導案の立案と作成

- ・実習日誌の記入と記録のとり方

2 事後指導

(1) 幼稚園教育実習事後指導の内容

- ・実習体験についてのレポートを作成して発表の機会を設け、学生同士で評価できるよう指導する。
- ・自己の実習を評価し、成果と反省、新たな学習目標を設定できるよう指導する。

(2) 保育実習Ⅰ(保育所・施設)事後指導の内容

- ・実習体験についてのレポートを作成して発表の機会を設け、学生同士で評価できるよう指導する。
- ・自己の実習を評価し、成果と反省、新たな学習目標を設定し、保育実習Ⅱ(保育所)、保育実習Ⅲ(施設)へ向けての目標と研究課題を明確にできるよう指導する。

(3) 小学校教育実習事後指導の内容

- ・実習体験についてのレポートを作成して発表の機会を設け、学生同士で評価できるよう指導する。
- ・小グループによるディスカッションを行い、それに基づいて全員で協議し、各自の新たな学習目標を明確にできるよう指導する。

V 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

1 実習を担当する教員等の配置

実習を担当する教員等は次の通り配置される。

(1) 「事前・事後の指導」の担当教員

幼稚園教育実習、保育実習（保育所・施設）、小学校教育実習の事前・事後指導の授業を担当する実習科目担当教員の配置。

- ・幼稚園教育実習 1人
- ・保育実習（保育所・施設） 2人
- ・小学校教育実習 2人

(2) 巡回指導の担当教員

幼稚園教育実習、保育実習（保育所・施設）、小学校教育実習の実習中の指導を担当する巡回指導担当教員（専任教員13人）の配置。【資料・別表第7の1】

- ・学科長 1人
- ・子ども教育実践総合センター長 1人
- ・専任教員 11人（含：実習科目担当教員5人）

(3) 実習委員会

学内における実習の協議機関である実習委員会の配置。

- ・子ども教育学科長 1人
- ・子ども教育実践総合センター長 1人
- ・実習科目担当教員 5人

(4) 子ども教育実践総合センター

実習の企画実施の管理、実習の内容・水準に関する支援、実習依頼・配当、大学側と実習先との連絡・連携、実習に必要な書類の準備・作成等を支援する実践総合センターの所員の配置。【資料・別表第7の2】

- ・子ども教育実践総合センター長（本学教員） 1人
- ・子ども教育実践総合センター所員（本学教員） 3人
- ・子ども教育実践総合センター所員（本学助手及び嘱託・非常勤） 4人

2 巡回指導計画

(1) 年間巡回指導担当数の策定

巡回指導の充実及び水準の確保を図るため、1人の巡回指導担当教員が年間に担当する実習園（校）の平均を22園から24園とする。

これは幼稚園、保育所、施設、小学校の「実習受入れ承諾書」に記載された実習生受入れ数の平均が1実習園（校）あたり2人であることから、この数を基本として巡回指導の回数を策定した。【資料・別表第7の1】

(2) 巡回指導の回数

巡回指導担当教員は各実習に定めた実習期間中に2回の巡回を行うよう設定する。

- ・幼稚園教育実習

実習	実習時期と期間	巡回の回数
観察・参加実習	2年次前期 2週間	1週間に1回 計2回

本実習	2年次後期 2週間	1週間に1回 計2回
-----	-----------	------------

・保育実習Ⅰ（保育所・施設）

実習	実習時期と期間	巡回の回数
保育実習Ⅰ（保育所）	3年次前期 12日間	6日間に1回 計2回
保育実習Ⅰ（施設）	3年次前期 12日間	6日間に1回 計2回

・保育実習Ⅱ（保育所）又は保育実習Ⅲ（施設）

実習	実習時期と期間	巡回の回数
保育実習Ⅱ（保育所）	3年次後期 12日間	6日間に1回 計2回
保育実習Ⅲ（施設）	3年次後期 12日間	6日間に1回 計2回

・小学校教育実習

実習	実習時期と期間	巡回の回数
本実習	3年次前期 2週間	1週間に1回 計2回

VI 実習施設における指導者の配置計画

実習先において、学生1人につき1人以上の指導者の配置を依頼する。

VII 成績評価体制及び単位認定方法

実習の成績評価は次の手続きと体制の下で行う。

- ・実践総合センターは、実習生の成績評価のための出欠表、実習先評価、巡回指導担当教員の報告書を付けて実習委員会の成績判定会議に提出する。
- ・成績判定会議では、実践総合センターから提出された成績判定資料に基づいて成績評価並びに単位認定を行う。
- ・学科長は議長を務める。
- ・成績判定会議での判断に基づき、学科長は学生の成績を確定し、合格者には単位を付与する。

実習先による評価表を【別表第7の3】に添付する。

ス 2つ以上の校地において教育を行う場合

「理科」「理科指導法」の授業の一部を品川区豊町2-16-12に所在する日本音楽高等学校（設置者は学校法人三浦学園）にて行う。専任教員1人を同所に置き、施設使用上の責任者とする。当該の授業は、学生の移動に配慮して、土曜日等を実施する。

チ 管理運営

(a) 教授会

教学面における管理運営のために、教授会を置く。

審議事項は、教授会規程に規定するとおりである。その主たるものは、学生の身分に関する事項、教育課程の編成及び実施に関する事項、教育研究の点検評価に関する事項である。

学長、教授、准教授及び専任の講師によって構成し、学長が招集し議長を務める。

開催は毎月1回を原則とし、入学試験等に関わって臨時に開くこともある。

(b) 教授会以外の委員会等

1 教育研究運営会議

教授会とは別に、教育研究運営会議を置き、管理運営に関する指導的責任の所在を明確にするとともに、運営の円滑化を図る。

この会議の議事等は学則に規定するとおりであるが、大学の教育研究面に関する基本の方針を審議し、教授会事項についてはその原案を準備することがその主たる内容である。

2 特別委員会

学長の下に特別委員会として、自己点検・評価委員会及び教職委員会を置く。自己点検・評価委員会は自己点検・評価の、教職委員会は教職課程の、それぞれ統括及び管理運営に当たる。

3 その他委員会

教務関係、学生関係等個別事項に関しての専門委員会として常置委員会（教務委員会、学生・厚生委員会、入試委員会、就職委員会、図書委員会、FD委員会）を置く。

専任の教員はそれらのいずれかに属し、それぞれの運営責任を分担する。

ツ 自己点検・評価

(a) 自己点検・評価の実施

本学学則第4条の規定に従い、教育研究水準の向上を図り、本学が掲げる目的及び使命を達成するため、教育研究、組織運営及び施設・設備の状況について絶えず自ら点検及び評価を行うこととする。

その結果については、それを活用して教育研究の改善に努めるとともに、電子媒体等を用いて社会に公表する。

(b) 実施体制

自己点検・評価のための基幹的組織として、自己点検・評価委員会を置く。その構成は、学長、副学長、図書館長、各学科長、教育部長及び事務局長とし、そのほか、必要に応じて学長が指名する教職員を参加させることができる。

委員会の下部機関として教育、学生、管理の部門に関する専門部会を置く。専門部会は学長が指名する教職員によって構成され、点検・評価のための資料の調査作成を行う。原則としてすべての教職員が何らかの形で点検・評価の活動に参加するようにする。学長は必要に応じて学生を専門委員として委嘱することもある。

(c) 点検・評価項目

点検・評価の項目には、認証評価機関の定める基準を参考にして、本学が掲げる理念、教育研究の内容と方法、学生の受入れ方法、施設・設備の状況、事務組織、財務報告等が含まれる。

(d) 第三者評価・認証評価

学内の自己点検・評価結果を外部に公開する一方、本学が依頼する第三者による第三者評価を行う。教育研究等の総合的な状況について、本学卒業者、地域住民を含む有識者、あるいは他の短期大学機関等の職員による検証を行う。

さらに、法令の定めるところに従い、開学後7年以内のできるだけ早い時期に、認証評価機関による認証評価を受ける。

テ 情報の提供

地域に開かれた大学づくり、保護者に信頼される大学づくりの一環として、以下の情報提供を行う。その際、地域貢献をめざし、広報の中に「地域連携業務」と教務課の業務に「家庭連携業務」を明確に位置づけ、両学科の教育研究についての情報を随時地域住民や保護者に還元することとする。

- ・「教育課程等の概要」及び「シラバス」を含め、教育の実施状況を紹介する。
- ・子ども教育実践総合センターが行う子育て支援事業やその活動を紹介する。
- ・本学主催の芸術鑑賞やワークショップについて案内する。
- ・芸術教育施設の活性化を図る。特に邦楽、日本舞踊、歌舞伎などの日本伝統芸術の発表に関する情報を提供する。
- ・施設管理関係の情報として、施設設備の規模、機能、活用状況及び学校経営上の経理に関する基本的事項の情報も大学の社会的使命を高めるために公開する。

ト 教員の資質の維持向上の方策

(a) FD 委員会の設置

教員の授業の内容・方法の改善を図るための FD 委員会を教授会に設置する。FD 委員会は教員の資質向上のため次のような事項を検討し、実施する。

- ・ 教員と学生の対話や多様な教育交流の在り方を検討し、改善のための方策を講ずる。
- ・ ミニッツ・ペーパーを導入し、授業を通し教員と学生の教育関係を改善してゆく。
- ・ 学期ごとに学生による授業評価と教員相互の授業評価を実施する。
- ・ 第三者による授業評価を実施する。
- ・ 一定期間ごとに卒業生による授業評価を行う。
- ・ 年 2 回外部講師を招聘し、授業研究のための研究会を行う。

(b) 教育力向上のための取組み

教育力を向上するためのプロジェクト・チームを学長の下に組織し、大学全体として以下の活動に取り組む。

- ・ 全ての授業でコンピュータ等を活用した教材の開発研究を推進し、教育力の向上を図る。
- ・ 子ども教育学科の電子紙芝居、絵本の製作、身体表現授業の映像化、飼育栽培の記録の映像化などを学科全体で推進する。
- ・ 芸術教養学科では授業プロセスの映像化、実技授業の視覚化、授業上演作品の記録化を行い、学科全体で授業内容・方法・到達度について評価する。
- ・ 教員の研究成果としての演奏・上演作品を記録し、学内の研究会で上映し、教員相互の研究に活用する。
- ・ その他学内研究紀要の発行、学会・研究会への参加推奨、教員の地域連携事業への参加推進、サバティカル・イヤーの導入など教育力向上のための取組みを進める。

資 料

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 別表第1 | 人材養成の理念（図表） |
| 別表第2 | 教育課程 |
| 別表第3の1 | 履修モデル総合図表 |
| 別表第3の2 | 子ども教育学科 履修モデル |
| 別表第3の3 | 芸術教養学科 履修モデル |
| 別表第4 | 体育館（トレーニング室兼ダンス演習室）の使用シミュレーション図 |
| 別表第5 | 開設初年度及び完成年度の時間割 |
| 別表第6 | 芸術教養学科入学からコース分けへ |
| 別表第7の1 | 教育実習巡回指導担当表 |
| 別表第7の2 | 子ども教育実践総合センター規程（案） |
| 別表第7の3 | 教育実習評価表 |

以 上

有明教育芸術短期大学

が養成する人材

教育・芸術を通じて
人々の生活の質の向上を支援する人材

子ども教育学科

豊かな

表現コミュニケーション

能力を修得した

幼児教育者の養成

芸術教養学科

地域社会

と連携しつつ

芸術文化の普及

に貢献する人材の養成

日本音楽学校における音楽教育・幼児教育の伝統

別表第2 教育課程

(1) 子ども教育学科

	区分	形態	授業科目	必・選	単位	開設学期	
基礎教育科目	人間と世界	講義	世界と日本国憲法	必修	2	1後	
		講義	児童文学	4科目から 1科目 選択・必修	2	1前	
		講義	民俗と芸能				
		講義	比較文化A(日本とヨーロッパ)				
		講義	比較文化B(日本とアジア)				
		講義	教育人間学	2科目から 1科目 選択・必修	2	2前	
		講義	芸術人間学	必修	2	1前後	
	世界の言葉	演習	英語	4科目から 1科目 選択・必修	2	2前後	
		演習	ドイツ語				
		演習	フランス語				
		演習	イタリア語				
		演習	中国語				
	の心と健康 康体	講義	芸術セラピー	必修	2	1後	
		実技・講義	運動と健康	必修	2	1前後	
	ナーセミス クラス	演習	学習と表現の技法	必修	3	1・2・3 通年	
	計					17	
	専門教育科目	子ども理解	講義	子ども理解の方法	必修	2	3前
講義			発達心理学*	必修	2	2前	
講義			子どもの保健	必修	4	1前後	
演習			子どもの栄養	必修	2	2前	
講義			子どもの精神保健	必修	2	2後	
講義			発達と障害	4科目から 1科目 選択・必修	2	2後	
講義			子どもの生活習慣			1後	
講義			子ども観の歴史*			1後	
講義			人権と子ども			2後	
子ども教育の基礎理論		講義	教職入門	必修	2	2前	
		講義	教育の理念と歴史	必修	2	1前	
		講義	教育の心理*	必修	2	1前	
		講義	教育の組織と運営	必修	2	3後	
		講義	保育原理Ⅰ(理念)	必修	2	1前	
		講義	保育原理Ⅱ(課程と方法)	必修	2	1後	
		講義	社会福祉*	必修	2	2前	
		講義	子どもの福祉*	必修	2	1前	
		講義	子どもの養護	必修	2	1後	
		実習	子どもの保健実習	必修	1	2前	
		講義	家族援助論	必修	2	2後	
		演習	社会福祉援助技術	必修	2	3前	
子ども教育の内容と方法		演習	乳児保育	必修	2	1前	
		演習	障害児保育*	必修	2	2前	
		演習	養護内容	必修	2	2前	
		講義	教育方法Ⅰ(理論と実践)	必修	2	1前	
		演習	教育方法Ⅱ(情報機器の操作)	必修	2	1後	
		演習	保育内容総論	必修	2	2後	
		演習	保育内容(言葉)	必修	2	1前	
		演習	保育内容(環境)	必修	2	2前	
		演習	保育内容(人間関係)	必修	2	1前	
演習	保育内容(健康)	必修	2	1後			

区分	形態	授業科目	必・選	単位	開設学期	
専門教育科目	子どもの内容 と方法教育	演習	保育内容(表現A 音楽とダンス)*	必修	1	1後
		演習	保育内容(表現B ドラマと空間造形)*	必修	1	1後
		講義	教育相談*	必修	2	3後
	教科の基礎	演習	音楽Ⅰ(理論と基礎実技)	必修	2	1前後
		演習	音楽Ⅱ(器楽)	必修	2	2前後
		演習	図画工作	必修	2	2前後
		演習	体育Ⅰ(幼児)	必修	2	2前後
		講義	国語(書写を含む)	5科目から 1科目 選択・必修	2	2後
		講義	算数			2前
		講義	生活			2前
		演習	飼育栽培			2前
		演習	体育Ⅱ(スポーツとレクリエーション)*			3前
		演習	総合演習	必修	2	3前
	実習	実習	事前事後の指導(保育所・施設)	必修	1	3通年
		実習	事前事後の指導(幼稚園)	必修	1	2通年
		実習	保育実習(保育所)Ⅰ	必修	2	3前
		実習	保育実習(施設)Ⅰ	必修	2	3前
		実習	保育実習(保育所)Ⅱ	2科目から 1科目 選択・必修	2	3後
		実習	保育実習(施設)Ⅲ			3後
		実習	教育実習(幼稚園)	必修	4	2前後
	演習	卒業研究	必修	2	3通年	
計				87	104	
自由科目	小免関連科目	講義	道徳性の教育	選択	2	2前
		講義	特別活動の指導	選択	2	2後
		講義	生活指導*	選択	2	2後
		講義	社会	選択	2	2後
		講義	理科	選択	2	2後
		講義	家庭	選択	2	2前
		演習	音楽Ⅲ(応用)	選択	2	3前後
		演習	国語科指導法	選択	2	3前
		演習	社会科指導法	選択	2	2後
		演習	算数科指導法	選択	2	3前
		演習	理科指導法	選択	2	2後
		演習	生活科指導法	選択	2	3前
		演習	家庭科指導法	選択	2	3前
		演習	音楽科指導法	選択	2	3後
		演習	図画工作科指導法	選択	2	3後
		演習	体育科指導法	選択	2	3後
		実習	事前事後の指導(小学校)	選択	1	3通年
	実習	教育実習(小学校)	選択	2	3前	
	ダンス・レクリエーション 科目資格関係	講義	レクリエーション(理論)*	選択	2	3前
		実技	レクリエーション(実技)*	選択	2	3前後
計				39		

(2) 芸術教養学科

	区分	形態	授業科目	必・選	単位	開設学期
基礎教育科目	人間と世界	講義	世界と日本国憲法	必修	2	1後
		講義	児童文学	4科目から 1科目 選択・必修	2	1前
		講義	民俗と芸能			
		講義	比較文化A(日本とヨーロッパ)			
		講義	比較文化B(日本とアジア)			
		講義	教育人間学	2科目から 1科目 選択・必修	2	2前
		講義	芸術人間学			
	世界の言葉	演習	英語	必修	2	1前後
		演習	ドイツ語	4科目から 1科目 選択・必修	2	2前後
		演習	フランス語			
		演習	イタリア語			
		演習	中国語			
	の心 健と 康体	講義	芸術セラピー	必修	2	1後
		実技・講義	運動と健康	必修	2	1前後
ナ ー セ ミ ン グ ク ラ ス	演習	学習と表現の技法	必修	2	1・2通年	
計					16	
芸術教養学科 共通科目	原論	講義	日本芸術史概説	必修	4	1前後
		講義	芸術社会学	3科目から 2科目 選択・必修	4	1前
		講義	芸術心理学			
		講義	芸術教育学			
		講義	地域文化政策論	2科目から 1科目 選択・必修	2	1前
		講義	文化施設運営論			
	表現演習	演習	芸術とコンピュータ・リテラシー	必修	2	1前
		演習	上演空間と美術	4科目から 3科目 選択・必修	3	1前
		演習	上演空間と光			
		演習	上演空間と音			
		演習	舞台監督と制作者の仕事	3科目から 2科目 選択・必修	2	1前
		演習	実践音楽入門			
		演習	実践舞踊入門			
演習	実践演劇入門					
演習	総合表現演習	必修	2	1前		
計					19	35

音楽コース						
音楽コース専門科目	原論	講義	音楽人類学*	必修	2	2後
		講義	芸術鑑賞論*	必修	2	2後
		講義	西洋音楽史	2科目から1科目選択・必修	2	1後
		講義	アジア音楽史			1後
		講義	音楽療法*	必修	2	2前
		講義	地域音楽文化制作論	必修	2	2前
	表現演習	演習	フィールドワーク基礎Ⅰ(音楽資料調査法)	必修	1	1後
		演習	フィールドワーク基礎Ⅱ(採譜法)	必修	1	2前
		演習	シアターピース演習	必修	2	2前
	実技	実技	声楽基礎A(日本音楽)	必修	2	1後2前
		実技	声楽基礎B(西洋音楽)	必修	2	1後2前
		実技	作曲A(日本音楽)	必修	1	2前
		実技	作曲B(西洋音楽)	必修	1	2前
		実技	作曲C(現代作品語法)	必修	1	2後
		実技	ピアノ	必修	2	1後2前
		実技	弦楽器A(ギター)	3つの楽器から2つを選択・必修	2	1後
		実技	弦楽器B(箏)			1後
		実技	弦楽器C(三味線)*			1後
		実技	管楽器A(フルート)	4つの楽器から2つを選択・必修	2	1後
		実技	管楽器B(クラリネット)			1後
		実技	管楽器C(尺八)			1後
		実技	管楽器D(横笛)			1後
		実技	声楽A(日本のうた)	2科目から1科目選択・必修	1	2前
		実技	声楽B(ドイツ歌曲・イタリア歌曲)			2前
		実技	合奏A(和楽器)*	ABCDから1つを選択・必修	1	1後
		実技	合奏B(西洋楽器・教育楽器)			2前
		実技	合奏C(ガムラン)			1後
		実技	合奏D(打楽器)			1後
		実技	指揮法	必修	2	2前
		実技	音楽劇創作実習Ⅰ	必修	1	2前
	実技	音楽劇創作実習Ⅱ	必修	1	2後	
	演習	卒業研究	必修	3	2通年	
	計				36	71

*は、他学科の選択履修に開かれている科目

舞踊コース						
舞踊コース専門科目	原論	講義	舞踊運動学*	必修	2	1後
		講義	舞踊学原論*	必修	2	2前
		講義	舞踊史概論(西洋舞踊史)	必修	2	1後
		講義	運動心理学	必修	2	2前
		講義	比較舞踊論	必修	2	2後
	表現演習	演習	舞踊上演演習Ⅰ(日本舞踊)*	必修	2	1後
		演習	舞踊上演演習Ⅰ(西洋)*	必修	2	1後
		演習	ダンスセラピー*	必修	2	2前
		演習	舞踊と音楽	必修	2	2前
		演習	舞踊教育論演習	必修	2	2前
		演習	舞踊上演演習Ⅱ(日本舞踊)	4科目から 2科目 選択・必修	4	2前
		演習	舞踊上演演習Ⅲ(歌舞伎舞踊)			2後
		演習	舞踊上演演習Ⅱ(西洋)			2前
	演習	舞踊上演演習Ⅲ(西洋)	2後			
	実技	実技	日本舞踊 実技Ⅰ	必修	1	1後
		実技	ダンス・コンテンポラリーⅠ(基礎)	必修	1	1後
		実技	ダンス・クラシックⅠ(基礎)	必修	1	1後
		実技	歌舞伎舞踊 実技Ⅰ	必修	1	1後
		実技	舞踊実習Ⅰ(創作舞踊1)	6科目から 3科目 選択・必修	3	1後
		実技	舞踊実習Ⅱ(創作舞踊2)			2前
実技		舞踊実習Ⅲ(舞踊構成)	2後			
実技		舞踊実習Ⅰ(インプロヴィゼーション)	1後			
実技		舞踊実習Ⅱ(スケッチ)	2前			
実技		舞踊実習Ⅲ(構成法)	2後			
実技		日本舞踊 実技Ⅱ	4科目から 2科目 選択・必修	2	2前	
実技		歌舞伎舞踊 実技Ⅱ			2前	
実技		ダンス・コンテンポラリーⅡ(応用)			2前	
実技		ダンス・クラシックⅡ(応用)			2前	
	演習	卒業研究	必修	3	2通年	
計				36	71	

*は、他学科の選択履修に開かれている科目

演劇コース						
演劇コース専門科目	原論	講義	日本演劇作品講読Ⅰ*	必修	2	1後
		講義	西洋演劇作品講読Ⅰ*	必修	2	1後
		講義	日本演劇作品講読Ⅱ*	必修	2	2前
		講義	西洋演劇作品講読Ⅱ*	必修	2	2前
		講義	演出論	2科目から 1科目 選択・必修	2	1後
		講義	演技論			1後
		講義	演劇空間の歴史*	必修	2	2前
	表現演習	演習	せりふ術Ⅰ	必修	2	1後
		演習	能狂言の演技論	必修	2	2後
		演習	ドラマツルギー(分析法)*	2科目から 1科目 選択・必修	2	2前
		演習	ドラマセラピー*			2前
		演習	演出論演習	2科目から 1科目 選択・必修	2	2前
		演習	演技論演習			2前
		演習	ステージマネジメント	2科目から 1科目 選択・必修	1	2後
	演習	プロデュースイング	2後			
	実技	実技	発声法	必修	1	1後
		実技	メイキャップ(日本伝統演劇の化粧と現代の化粧)	必修	1	2後
		実技	せりふ術Ⅱ	必修	1	2前
		実技	身体訓練A(ムーブメント)	必修	1	1後
		実技	身体訓練B(日本舞踊)	必修	1	2前
		実技	身体訓練C(立ち回りなど)	必修	1	2前
		実技	演技Ⅰ(初級・歌舞伎)	必修	1	1後
		実技	演技Ⅱ(初級・現代劇)	必修	1	1後
		実技	演技Ⅲ(歌舞伎・ミュージカル)	必修	1	2前
		実技	演技Ⅳ(上級・現代劇)	必修	1	2前
		実技	演技Ⅴ(能狂言)	必修	1	2前
		実技	演技Ⅵ(演技総合)	2科目から 1科目 選択・必修	1	2後
実技		演技Ⅶ(上演)	2後			
演習	卒業研究	必修	3	2通年		
計				36	71	

*は、他学科の選択履修に開かれている科目

別表第3の1 履修モデル総合図表

How to Finish Your College Course 履修モデル(免許状や資格を積み重ねたい場合)

子ども教育学科

1. 基本
幼稚園教諭&保育士



2. 基本
+小学校教諭

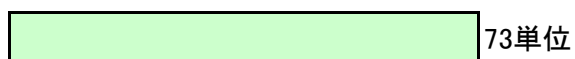


3. 基本
+小学校教諭
+レクリエーションインストラクター



芸術教養学科

1. 基本



別表第3の2 子ども教育学科 履修モデル

子ども教育学科 履修モデル その1 卒業要件のみ

科目名/1年次	単位	科目名/2年次	単位	科目名/3年次	単位
世界と日本国憲法	2	教育人間学 芸術人間学	2		
児童文学/民俗と芸能/ 比較文化A/比較文化B	2				
英語	2	ドイツ語/フランス語 イタリア語/中国語	2		
芸術セラピー	2				
運動と健康	2				
学習と表現の技法	1	学習と表現の技法	1	学習と表現の技法	1
		発達心理学	2	子ども理解の方法	2
子どもの保健	4	子どもの精神保健	2		
		子どもの栄養	2		
子どもの生活習慣 子ども親の歴史		発達と障害 人権と子ども	2		
教育の理念と歴史	2	教職入門	2	教育の組織と運営	2
教育の心理	2				
保育原理Ⅰ(理念)	2				
保育原理Ⅱ(課程と方法)	2				
子どもの福祉	2	社会福祉	2	社会福祉援助技術	2
子どもの養護	2	家族援助論	2		
		子どもの保健実習	1		
保育内容(言葉)	2	保育内容総論	2		
保育内容(人間関係)	2	保育内容(環境)	2		
保育内容(健康)	2				
保育内容(表現A 音楽とダンス)	1				
保育内容(表現B ドラマと造形表現)	1			教育相談	2
教育方法Ⅰ(理論と実践)	2				
教育方法Ⅱ(情報機器の操作)	2				
乳児保育	2	障害児保育	2		
		養護内容	2		
音楽Ⅰ(理論と基礎実技)	2	音楽Ⅱ(器楽)	2	総合演習	2
		図画工作	2		
		体育Ⅰ(幼児)	2		
		国語(書写を含む) /算数/生活/飼育栽培		体育Ⅱ(スポーツとレクリエーション)	2
		事前事後の指導(幼稚園)	1	事前事後の指導(保育所・施設)	1
		教育実習(幼稚園)	4	保育実習(保育所)Ⅰ	2
				保育実習(施設)Ⅰ	2
				保育実習(保育所)Ⅱ 保育実習(施設)Ⅲ	2
				卒業研究	2
		道徳性の教育	(2)		
		特別活動の指導	(2)		
		生活指導	(2)		
				音楽Ⅲ(応用)	
小計 (子どもの生活習慣/ 子ども親の歴史を履修せず)	43	(国語、算数等を履修せず)	39		22
			計		104
				その他/芸術教養学科で 履修する科目	2
			合計		106

単位欄の()は自由科目の単位数

子ども教育学科 履修モデル その2 卒業要件+小学校教諭二種免許状

科目名/1年次	単位	科目名/2年次	単位	科目名/3年次	単位
世界と日本国憲法	2	教育人間学 芸術人間学	2		
児童文学/民俗と芸能/ 比較文化A/比較文化B	2				
英語	2	ドイツ語/フランス語 イタリア語/中国語	2		
芸術セラピー	2				
運動と健康	2				
学習と表現の技法	1	学習と表現の技法	1	学習と表現の技法	1
		発達心理学	2	子ども理解の方法	2
子どもの保健	4	子どもの精神保健	2		
		子どもの栄養	2		
子どもの生活習慣 子ども親の歴史		発達と障害 人権と子ども	2		
教育の理念と歴史	2	教職入門	2	教育の組織と運営	2
教育の心理	2				
保育原理Ⅰ(理念)	2				
保育原理Ⅱ(課程と方法)	2				
子どもの福祉	2	社会福祉	2	社会福祉援助技術	2
子どもの養護	2	家族援助論	2		
		子どもの保健実習	1		
保育内容(言葉)	2	保育内容総論	2		
保育内容(人間関係)	2	保育内容(環境)	2		
保育内容(健康)	2				
保育内容(表現A 音楽とダンス)	1				
保育内容(表現B ドラマと空間造形)	1				
教育方法Ⅰ(理論と実践)	2			教育相談	2
教育方法Ⅱ(情報機器の操作)	2				
乳児保育	2	障害児保育	2		
		養護内容	2		
音楽Ⅰ(理論と基礎実技)	2	音楽Ⅱ(器楽)	2	総合演習	2
		図画工作	2		
		体育Ⅰ(幼児)	2		
		国語(書写を含む) /算数/生活/飼育栽培		体育Ⅱ(スポーツとレクリエーション)	2
		事前事後の指導(幼稚園)	1	事前事後の指導(保育所・施設)	1
		教育実習(幼稚園)	4	保育実習(保育所)Ⅰ	2
				保育実習(施設)Ⅰ	2
				保育実習(保育所)Ⅱ	2
				保育実習(施設)Ⅲ	2
				卒業研究	2
		初等科教科指導法 社会科/理科		国語科/算数科/生活科 家庭科/音楽科 図画工作科/体育科	12
		道徳性の教育	2		
		特別活動の指導	2		
		生活指導	2		
				事前事後の指導(小学校)	1
				教育実習(小学校)	2
		社会/理科/家庭	(2)	音楽Ⅲ(応用)	(2)
小計 (子どもの生活習慣/ 子ども親の歴史を履修せず)	43	(国語、算数等を履修せず/ 初等科教科指導法を履修せず)	45		37
			計		125
				その他/芸術教養学科で 履修する科目	2
			合計		127

単位欄の()は自由科目の単位数

子ども教育学科 履修モデル その3 卒業要件+小学校教諭二種免許状+レクリエーションインストラクター

科目名/1年次	単位	科目名/2年次	単位	科目名/3年次	単位
世界と日本国憲法	2	教育人間学 芸術人間学	2		
児童文学/民俗と芸能/ 比較文化A/比較文化B	2				
英語	2	ドイツ語/フランス語 イタリア語/中国語	2		
芸術セラピー	2				
運動と健康	2				
学習と表現の技法	1	学習と表現の技法	1	学習と表現の技法	1
		発達心理学	2	子ども理解の方法	2
子どもの保健	4	子どもの精神保健	2		
		子どもの栄養	2		
子どもの生活習慣 子ども観の歴史		発達と障害 人権と子ども	2		
教育の理念と歴史	2	教職入門	2	教育の組織と運営	2
教育の心理	2				
保育原理Ⅰ(理念)	2				
保育原理Ⅱ(課程と方法)	2				
子どもの福祉	2	社会福祉	2	社会福祉援助技術	2
子どもの養護	2	家族援助論	2		
		子どもの保健実習	1		
保育内容(言葉)	2	保育内容総論	2		
保育内容(人間関係)	2	保育内容(環境)	2		
保育内容(健康)	2				
保育内容(表現A 音楽とダンス)	1				
保育内容(表現B ドラマと空間造形)	1				
教育方法Ⅰ(理論と実践)	2			教育相談	2
教育方法Ⅱ(情報機器の操作)	2				
乳児保育	2	障害児保育	2		
		養護内容	2		
音楽Ⅰ(理論と基礎実技)	2	音楽Ⅱ(器楽)	2	総合演習	2
		図画工作	2		
		体育Ⅰ(幼児)	2		
		国語(書写を含む) /算数/生活/飼育栽培		体育Ⅱ(スポーツとレクリエーション)	2
		事前事後の指導(幼稚園)	1	事前事後の指導(保育所・施設)	1
		教育実習(幼稚園)	4	保育実習(保育所)Ⅰ	2
				保育実習(施設)Ⅰ	2
				保育実習(保育所)Ⅱ	2
				保育実習(施設)Ⅲ	2
				卒業研究	2
		初等科教科指導法 社会科/理科		国語科/算数科/生活科 家庭科/音楽科 図画工作科/体育科	12
		道徳性の教育	2		
		特別活動の指導	2		
		生活指導	2		
				事前事後の指導(小学校)	1
				教育実習(小学校)	2
		社会/理科/家庭	(2)	音楽Ⅲ(応用)	(2)
				レクリエーション(理論)	2
				レクリエーション(実技)	2
小計 (子どもの生活習慣/ 子ども観の歴史を履修せず)	43	(国語、算数等を履修せず/ 初等科教科指導法を履修せず)	45		41
			計		129
				その他/芸術教養学科で 履修する科目	2
			合計		131

単位欄の()は自由科目の単位数

別表第3の3 芸術教養学科 履修モデル
 芸術教養学科 履修モデル その1 音楽コース

科目名／1年前期	単位	科目名／1年後期	単位	科目名／2年前期	単位	科目名／2年後期	単位
		世界と日本国憲法	2	教育人間学 芸術人間学	2		
児童文学／民俗と芸能／ 比較文化A／比較文化B	2						
英語	1	英語	1	ドイツ語 フランス語 イタリア語 中国語	1	ドイツ語 フランス語 イタリア語 中国語	1
		芸術セラピー	2				
運動と健康	1	運動と健康	1				
学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5
日本芸術史概説	2	日本芸術史概説	2				
芸術社会学 芸術心理学 芸術教育学	4						
地域文化政策論 文化施設運営論	2						
芸術とコンピュータリテラシー	2						
上演空間と美術 上演空間と光 上演空間と音 舞台監督と制作者の仕事	3						
実践音楽入門 実践舞踊入門 実践演劇入門 総合表現演習	2						
		西洋音楽史	2	音楽療法	2	音楽人類学	2
		アジア音楽史	2	地域音楽文化政策論	2	芸術鑑賞論	2
		フィールドワーク基礎Ⅰ	1	フィールドワーク基礎Ⅱ	1		
		ピアノ	1	シアターピース演習	2		
		声楽基礎A(日本音楽)	1	ピアノ	1		
		声楽基礎B(西洋音楽)	1	声楽基礎A(日本音楽)	1		
		弦楽器Aギター 弦楽器B箏 弦楽器C三味線	2	声楽基礎B(西洋音楽)	1		
		管楽器Aフルート 管楽器Bクラリネット 管楽器C尺八 管楽器D横笛	2				
		合奏A和楽器 合奏Cガムラン 合奏D打楽器			1		
				合奏B西洋楽器			
				指揮法	2		
				音楽劇創作実習Ⅰ	1	音楽劇創作実習Ⅱ	1
				声楽A(日本のうた) 声楽B(ドイツ歌曲・イタリア歌曲)	1		
				作曲A(日本音楽)	1	作曲C(現代作品語法)	1
				作曲B(西洋音楽)	1		
				卒業研究	1	卒業研究	2
小計	21.5		18.5又は19.5	合奏を選択せず	20.5		9.5
				計			71
						その他/子ども教育学科 で履修する科目	2
				合計			73

芸術教養学科 履修モデル その2 舞踊コース

科目名／1年前期	単位	科目名／1年後期	単位	科目名／2年前期	単位	科目名／2年後期	単位
		世界と日本国憲法	2	教育人間学 芸術人間学	2		
児童文学／民俗と芸能／ 比較文化A／比較文化B	2						
英語	1	英語	1	ドイツ語 フランス語 イタリア語 中国語	1	ドイツ語 フランス語 イタリア語 中国語	1
運動と健康	1	芸術セラピー 運動と健康	2 1				
学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5
日本芸術史概説	2	日本芸術史概説	2				
芸術社会学 芸術心理学 芸術教育学	4						
地域文化政策論 文化施設運営論	2						
芸術とコンピュータテラシー	2						
上演空間と美術 上演空間と光 上演空間と音 舞台監督と制作者の仕事	3						
実践音楽入門 実践舞踊入門 実践演劇入門	2						
総合表現演習	2						
		舞踊運動学	2	運動心理学	2	比較舞踊論	2
		舞踊史概論(西洋舞踊史)	2	舞踊学原論	2		
		舞踊上演演習Ⅰ(日本舞踊)	2	舞踊上演演習Ⅱ(日本舞踊)	2	舞踊上演演習Ⅲ(歌舞伎舞踊)	2
		舞踊上演演習Ⅰ(西洋)	2	舞踊上演演習Ⅱ(西洋)	2	舞踊上演演習Ⅲ(西洋)	2
				舞踊と音楽	2		
				ダンスセラピー	2		
				舞踊教育論演習	2		
		ダンス・クラシックⅠ(基礎)	1	ダンス・クラシックⅡ(応用)	2		
		歌舞伎舞踊 実技Ⅰ	1	歌舞伎舞踊 実技Ⅱ	2		
		日本舞踊 実技Ⅰ	1	日本舞踊 実技Ⅱ	2		
		ダンス・コンテンポラリーⅠ(基礎)	1	ダンス・コンテンポラリーⅡ(応用)	2		
		舞踊実習Ⅰ(創作舞踊1)	1	舞踊実習Ⅱ(創作舞踊2)	1	舞踊実習Ⅲ(舞踊構成)	1
		舞踊実習Ⅰ(インプロヴィゼーション)	1	舞踊実習Ⅱ(スケッチ)	1	舞踊実習Ⅲ(構成法)	1
				卒業研究	1	卒業研究	2
小計	21.5		21.5		19.5		8.5
					計		71
						その他/子ども教育学科 で履修する科目	2
					合計		73

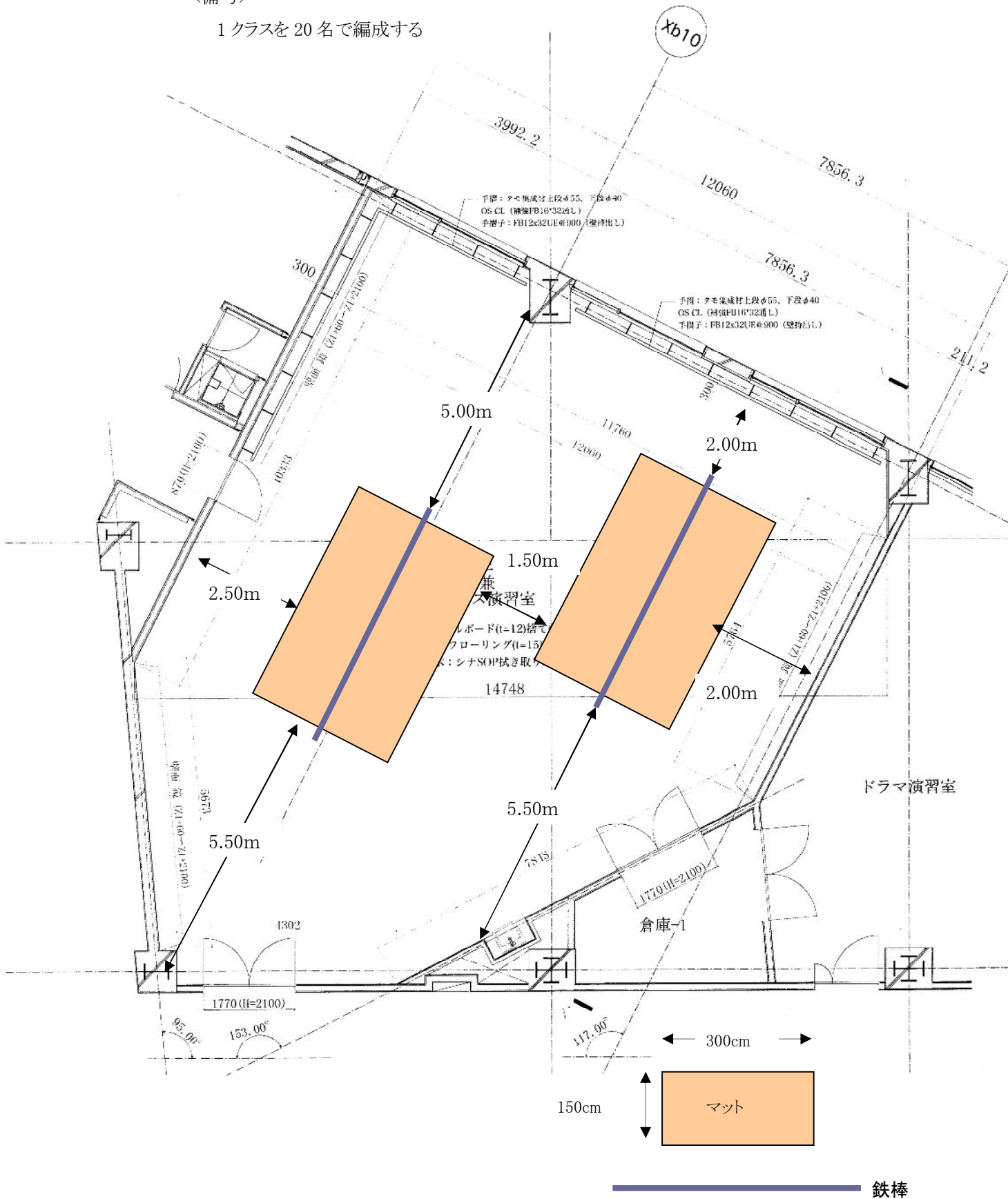
芸術教養学科 履修モデル その3 演劇コース

科目名／1年前期	単位	科目名／1年後期	単位	科目名／2年前期	単位	科目名／2年後期	単位
		世界と日本国憲法	2	教育人間学 芸術人間学	2		
児童文学／民俗と芸能／ 比較文化A／比較文化B	2						
英語	1	英語	1	ドイツ語 フランス語 イタリア語 中国語	1	ドイツ語 フランス語 イタリア語 中国語	1
運動と健康	1	芸術セラピー 運動と健康	2 1				
学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5	学習と表現の技法	0.5
日本芸術史概説	2	日本芸術史概説	2				
芸術社会学 芸術心理学 芸術教育学	4						
地域文化政策論 文化施設運営論	2						
芸術とコンピュータグラフィックス	2						
上演空間と美術 上演空間と光 上演空間と音 舞台監督と制作者の仕事	3						
実践音楽入門 実践舞踊入門 実践演劇入門	2						
総合表現演習	2						
		西洋演劇作品講読Ⅰ	2	西洋演劇作品講読Ⅱ	2		
		日本演劇作品講読Ⅰ	2	日本演劇作品講読Ⅱ	2		
		演出論 演技論	2	演劇空間の歴史	2		
		せりふ術Ⅰ	2	ドラマツルギー(分析法) ドラマセラピー	2	ステージマネジメント プロデュースイング	1
		演技Ⅰ(初級・歌舞伎)	1	演出論演習 演技論演習	2	能狂言の演技論	2
		演技Ⅱ(初級・現代劇)	1	演技Ⅲ(歌舞伎・ミュージカル)	1	演技Ⅵ(演技総合)	1
				演技Ⅳ(上級・現代劇)	1	演技Ⅶ(上演)	
				演技Ⅴ(能狂言)	1	メイキャップ	1
		発声法	1	せりふ術Ⅱ	1		
		身体訓練A(ムーブメント)	1	身体訓練B(日本舞踊)	1		
				身体訓練C(立ち回りなど)	1		
				卒業研究	1	卒業研究	2
小計	21.5		18.5		20.5		10.5
				計			71
						その他/子ども教育学 科で履修する科目	2
				合計			73

(鉄棒運動)

<備考>

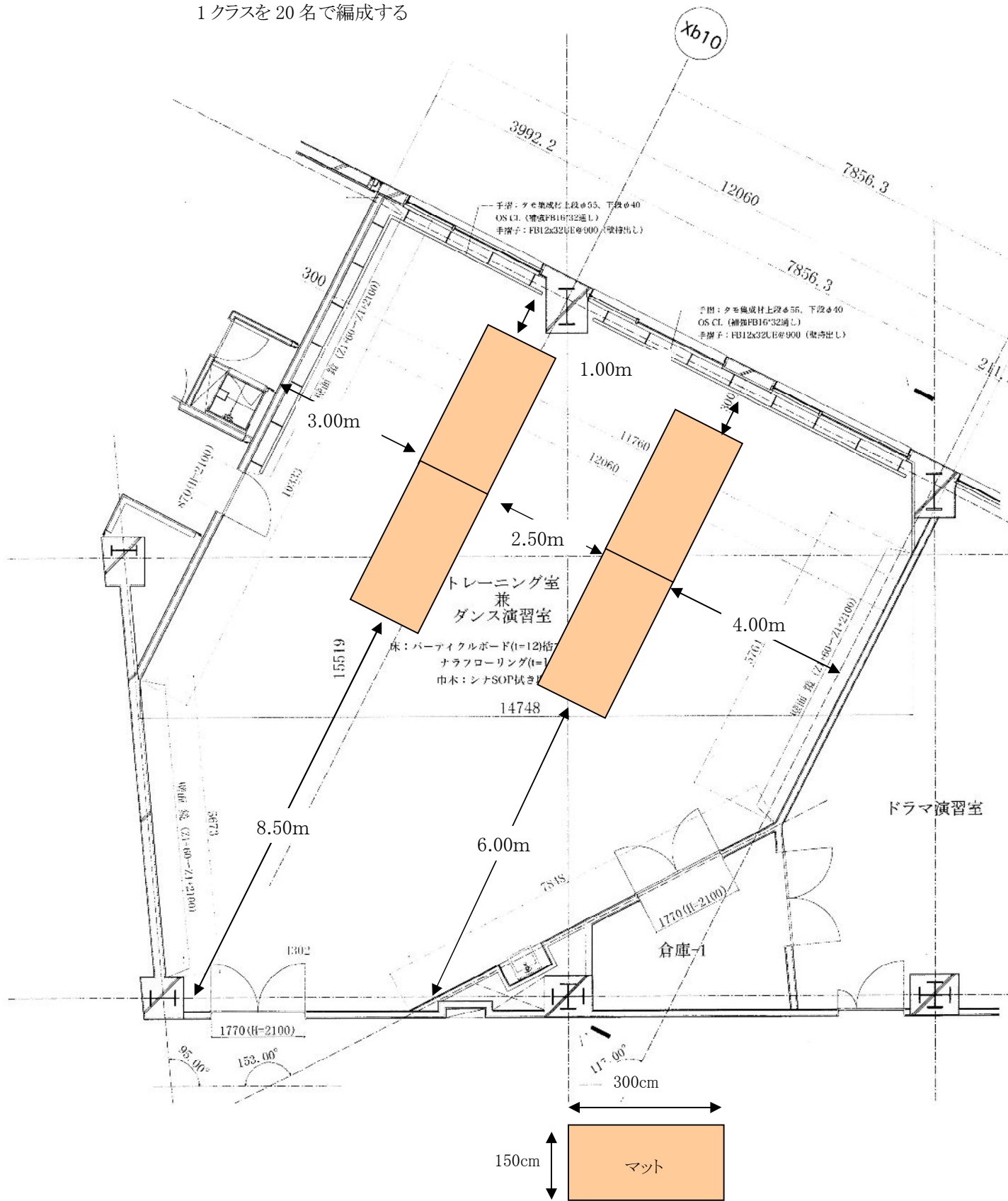
1 クラスを 20 名で編成する



(マット運動)

<備考>

1クラスを20名で編成する



別表第5 時間割(案)

有明教育芸術短期大学 平成23年度 時間割(案) (※本表は変更される場合があります。)

[前期]

		月			火			水			木			金			土		
1	子1A	英語①	八代藤井 杉本	講義室2 トレ室				英語②	八代藤井 杉本	講義室2 トレ室	保育内容(言葉)	三澤	講義室7	英語③	八代藤井 長堂	講義室2 トレ室			
	子1B	運動と健康⑨⑩		講義室1				運動と健康①②		講義室1				運動と健康③④		講義室1			
	子2A	ドイツ語① フランス語① イタリア語① 中国語①	森折方 押場 林	講義室3 講義室4 講義室5 講義室6	ドイツ語② フランス語② イタリア語② 中国語②	森折方 押場 林	講義室3 講義室4 講義室5 講義室6	教育の理念と歴史	日暮	講義室7	図画工作② 体育 I ①②	小鴨藤井 本間	美術室 トレ室 講義室8	事前・事後の指導(幼稚園)	並木	講義室8			
	子2B						飼育栽培	山寄	講義室3										
	子3A				体育Ⅱスポーツとレクリエーション	杉本	トレ室	事前・事後の指導(保育実習)	諸井・富岡	講義室8									
	子3B									講義室9									
	音1				芸術とコンピュータグラフィクス	越川	PC室												
	舞1	英語①	八代藤井 杉本	講義室2 トレ室 講義室1				英語②	八代藤井 杉本	講義室2 トレ室 講義室1	地域文化政策論	草加	講義室1	英語③	八代藤井 長堂	講義室2 トレ室 講義室1			
	演1																		
	音2	ドイツ語① フランス語① イタリア語① 中国語①	森折方 押場 林	講義室3 講義室4 講義室5 講義室6	ドイツ語② フランス語② イタリア語② 中国語②	森折方 押場 林	講義室3 講義室4 講義室5 講義室6					地域音楽文化制作論	茂手木	講義室10	音楽療法	中目	講義室4		
舞2																			
演2											身体訓練C(立ち回りなど)	柴崎(良)	日舞演						
2	子1A	音楽 I	諸井・松井・山田	音楽演				英語④	八代藤井 杉本	講義室2 トレ室 講義室1	保育内容(言葉)	三澤	講義室7	英語⑤	八代藤井 長堂	講義室2 トレ室 講義室1			
	子1B							運動と健康⑤⑥		講義室1				運動と健康⑦⑧		講義室1			
	子2A	音楽Ⅱ(器楽)	諸井・松井・山田	ML・レ室	図画工作① 体育 I ⑤	小鴨藤井 長堂	美術室 トレ室 講義室2	飼育栽培	山寄	講義室3	図画工作③ 体育 I ③④	小鴨藤井 本間	美術室 トレ室 講義室8	事前・事後の指導(幼稚園)	並木	講義室8			
	子2B						教育の理念と歴史	日暮	講義室7										
	子3A	家庭科指導法	伊藤(野)	講義室8				事前・事後の指導(小学校)	小鴨	講義室9	レクリエーション(理論)	杉本・菅原	講義室9						
	子3B	算数科指導法	滝沢	講義室9															
	音1																		
	舞1	日本芸術史概説	笠原平野 中野 小林(志)	講義室1	芸術とコンピュータグラフィクス	越川	PC室	英語④	八代藤井 杉本	講義室2 トレ室 講義室1	文化施設運営論	河角	講義室1	英語⑤	八代藤井 長堂	講義室2 トレ室 講義室1			
	演1																		
	音2	音楽基礎A(日本音楽)	竹澤	日舞演	音楽B(ドイツ歌曲・イタリア歌曲)	クロイツァー	音楽演				音楽基礎B(西洋音楽)	クロイツァー	音楽演						
舞2	ダンス・コンテンポラリーⅡ(応用)	辻元	トレ室	ダンスセラピー	巖	講義室9				舞踊上演演習Ⅱ(日本舞踊)	穴戸	日舞演	運動心理学	杉本	講義室11				
演2	日本演劇作品講読Ⅱ	中川	講義室2	演技Ⅳ(上級・現代劇)	J.アーカリー	ドラマ演							演技Ⅲ(歌舞伎・ミュージカル)	柴崎・J.アーカリー	日舞演 ドラマ演				
3	子1A	児童文学 民俗と芸能 比較文化A 比較文化B	三澤 山崎 森 日暮	講義室1 講義室2 講義室3 講義室7	保育原理Ⅰ(理念)	阿部	講義室1				乳児保育	太田	講義室1	教育の心理	氏森	講義室1			
	子1B										教育方法Ⅰ	阿部	講義室7	子どもの福祉	宮脇	講義室7			
	子2A				体育Ⅰ⑥	長堂	トレ室 講義室2	社会福祉	宮脇	講義室7	道徳性の教育	原	講義室8	障害児保育	杵鞭	講義室8			
	子2B						発達心理学	井梅	講義室1	生活	山寄	講義室9	教職入門	日暮	講義室9				
	子3A	社会福祉援助技術	成田	講義室8				音楽Ⅲ	陸路・西脇・角田・内田・田山・中村・松井	音楽演 ML・レ室									
	子3B	子ども理解の方法	阿部	講義室9															
	音1	児童文学 民俗と芸能 比較文化A 比較文化B	三澤 山崎 森 日暮	講義室1 講義室2 講義室3 講義室7				実践音楽入門	茂手木	講義室4	上演空間と美術	中越	講義室5	舞台監督と制作者の仕事	白神	講義室5			
	舞1				芸術とコンピュータグラフィクス	越川	PC室												
	音2	音楽A(日本のうた)	竹澤	日舞演	フィールドワーク基礎Ⅱ(探訪法)	笠原	講義室4				作曲A(日本音楽)	牟田口	日舞演	シアターピース演習	森本	講義室4			
	舞2	舞踊上演演習Ⅱ(西洋)	辻元	トレ室				舞踊学原論	辻元	講義室5	舞踊と音楽	辻元・茂手木	トレ室 音楽演	舞踊教育論演習	塩崎	トレ室			
演2	西洋演劇作品講読Ⅱ	中島	講義室6	演技論演習	中野	ドラマ演	演技Ⅴ(能狂言)	善竹	日舞演	演出論演習	中村	講義室2	演劇空間の歴史	小林	講義室6				
4	子1A						子どもの保健	西山	講義室1	教育方法Ⅰ	阿部	講義室1	子どもの福祉	宮脇	講義室1				
	子1B				保育原理Ⅰ(理念)	阿部	講義室7	保育内容(人間関係)	細野	講義室7	乳児保育	太田	講義室7	教育の心理	氏森	講義室7			
	子2A				子どもの栄養	奥島	調理室	保育内容(環境)	岩本(泰)	講義室8	発達心理学	井梅	講義室8	教職入門	日暮	講義室8			
	子2B				子どもの保健実習	西山	演習室	養護内容	井上	講義室9	社会福祉	宮脇	講義室9	障害児保育	杵鞭	講義室9			
	子3A	子ども理解の方法	阿部	講義室8							国語科指導法	米谷	講義室10						
	子3B	社会福祉援助技術	成田	講義室9							生活科指導法	山寄	講義室2						
	音1																		
	舞1	総合表現演習	茂手木・塩崎・正他	音演 日舞演 トレ室 ドラマ演 他	芸術社会学	永島	講義室8	実践舞踊入門	塩崎	講義室4	上演空間と光	北寄崎	講義室5	学習と表現の技法	全教員	講義室 2,3,4,5, 6,10,11			
	音2	教育人間学 芸術人間学	原 小林(志)	講義室1 講義室7	卒業研究	全教員	音演 日舞演 トレ室 ドラマ演 他	ピアノ	西脇・角田	音演・ レッスン室	合奏B(西洋楽器・教育楽器)	山村	音楽演						
	演2							舞踊実習Ⅱ(創作舞踊2)	宮地	日舞演	舞踊実習Ⅱ(スケッチ)	塩崎	トレ室						
演2							ドラマツルギー(分析法)	熊谷	講義室6	ドラマセラピー	井口	ドラマ演							
5	子1A						保育内容(人間関係)	細野	講義室1										
	子1B						子どもの保健	西山	講義室7										
	子2A	教育人間学	原	講義室1	子どもの保健実習	西山	演習室	養護内容	井上	講義室8	算数	滝沢	講義室1	学習と表現の技法	全教員	講義室 1,2,3,4, 5,6,7,8, 9,10,11			
	子2B	芸術人間学	小林(志)	講義室7	子どもの栄養	奥島	調理室	保育内容(環境)	岩本(泰)	講義室9	家庭	伊藤(野)	講義室7						
	子3A	レクリエーション(実技)	杉本・菅原	トレ室	卒業研究	全教員	講義室 1,2,3,6, .7				総合演習	杉本 山本(直)	講義室8 講義室9						
	子3B																		
	音1																		
	舞1	芸術教育学	水田	講義室8	芸術心理学	杵鞭	講義室8	実践演劇入門	J.アーカリー	講義室4	上演空間と音	高橋(嘉)	講義室5						
	音2	作曲B(西洋音楽)	森本	音楽演	指揮法	森本	音楽演							音楽劇創作実習Ⅰ	牟田口・森本・茂手木・笠原	音演・幼演			
	舞2				日本舞踊 実技Ⅱ	柴崎(照)	日舞演	ダンス・クラシックⅡ(応用)	加藤	トレ室				歌舞伎舞踊 実技Ⅱ	柴崎(照)	日舞演			
演2	身体訓練B(日本舞踊)	柴崎(良)	日舞演				せりふ術Ⅱ	柴崎(良)・石井	ドラマ演										

①、②、③等はクラス分け

別表第5 時間割(案)

有明教育芸術短期大学 平成23年度 時間割 (案) (※本表は変更される場合があります。)

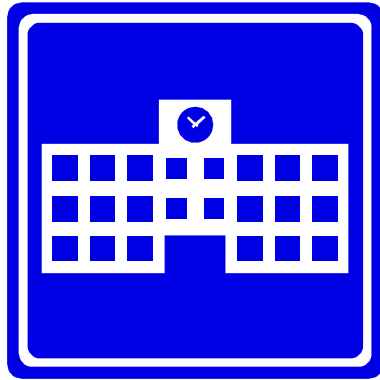
[後期]

		月			火			水			木			金			土		
1	子1A	英語①	八代西川・氏森	講義室2	教育方法II①	山本(博)	PC室	英語②	八代西川・氏森	講義室2	世界と日本国憲法	小林(康)	講義室1	英語③	八代西川・氏森	講義室2			
	子1B	芸術セラピー②	藤井・杉本	講義室1			芸術セラピー③	藤井・杉本	講義室1					芸術セラピー④	藤井・長堂	講義室1			
	子2A	ドイツ語①	森折方	講義室3	図画工作①	小鴨	美術室	事前・事後の指導(幼稚園)①	並木	講義室7	図画工作②	小鴨	美術室	家族援助論	富岡	講義室8			
	子2B	フランス語①	押場	講義室4	体育I⑤	長堂	講義室2				体育I①②	藤井	講義室8	子どもの精神保健	岩本(圭)	講義室9			
	子3A							事前・事後の指導(保育実習)	諸井・富岡	講義室8									
	子3B									講義室9									
	音1	英語①	八代西川・氏森	講義室2	世界と日本国憲法②	小林(康)	講義室1	英語②	八代西川・氏森	講義室2				英語③	八代西川・氏森	講義室2			
	舞1	芸術セラピー②	藤井・杉本	講義室1				芸術セラピー③	藤井・杉本	講義室1				芸術セラピー④	藤井・長堂	講義室1			
	演1	運動と健康⑤⑥		トレ講7				運動と健康⑦⑧		トレ講3				運動と健康⑨⑩		トレ講7			
	音2	ドイツ語①	森折方	講義室3															
舞2	フランス語①	押場	講義室4																
演2	イタリア語①	林	講義室5																
	演2	中国語①	林	講義室6															
2	子1A	音楽I	諸井・松井	音楽演	教育方法II②	滝沢	PC室	英語④	八代西川・氏森	講義室2	世界と日本国憲法	小林(康)	講義室1	英語⑤	八代西川・氏森	講義室2			
	子1B		山田					芸術セラピー⑤	藤井・杉本	講義室1				芸術セラピー①	藤井・長堂	講義室1			
	子2A	ドイツ語②	森折方	講義室3	体育I⑥	長堂	トレ室				図画工作③	小鴨	美術室	子どもの精神保健	岩本(圭)	講義室8			
	子2B	フランス語②	押場	講義室4				事前・事後の指導(幼稚園)②	並木	講義室9	体育I③④	藤井	講義室8	家族援助論	富岡	講義室9			
	子3A				教育相談	氏森	講義室9	事前・事後の指導(小学校)	小鴨	講義室8									
	子3B				教育の組織と運営	牛尾	講義室8												
	音1	アジア音楽史	金	講義室2															
	舞1	舞踊上演演習I(日本舞踊)	柴崎(照)	日舞演	世界と日本国憲法①	小林(康)	講義室1	英語④	八代西川・氏森	講義室2				英語⑤	八代西川・氏森	講義室2			
	演1	せりふ術I	石井	ドラマ演				芸術セラピー⑤	藤井・杉本	トレ講7				運動と健康③④	藤井・長堂	トレ講7			
	音2	ドイツ語②	森折方	講義室3															
舞2	フランス語②	押場	講義室4																
演2	イタリア語②	林	講義室5																
	演2	中国語②	林	講義室6	メーキャップ	柴崎(良)	日舞演												
3	子A				保育内容(健康)	鈴木(琴)	講義室1	子どもの養護	井上	講義室1	子どもの生活習慣	伊藤(野)	講義室7	保育内容(表現A)	陸路	音楽演			
	子B	保育原理II(課程と方法)	阿部	講義室7				子どもの保健	西山	講義室7				保育内容(表現B)	小鴨・山本	美術室			
	子2A	音楽II(器楽)	諸井・陸路・笠原・他	ML・レ室										人権と子ども	原	講義室8			
	子2B				保育内容総論	阿部	講義室9							国語(書写含)	三澤	講義室9			
	子3A	図画工作科指導法	小鴨	美術室				音楽III	陸路・西脇・角田・内田・田山・中村・松井	音楽演	体育科指導法	藤井	トレ室						
	子3B									日舞演									
	音1				合奏A,C,D	茂手木・笠原・皆川・長尾	音演・日舞演・他		笠原平野中野小林(志)	講義室2	ピアノ	西脇・角田	音演・レッスン室	西洋音楽史	笠原	講義室4			
	舞1	ダンス・コンテンポラリーI	辻元	トレ室	舞踊運動学	天野	講義室5	日本芸術史概説		講義室3				舞踊実習I(インプロヴィゼーション)	辻元	トレ室			
	演1	演技I(初級・歌舞伎)	柴崎(良)	日舞演	西洋演劇作品講読I	中島	講義室10			講義室8	日本演劇作品講読I	中川	講義室6	演技II(初級・現代劇)	J.アーカリー	ドラマ演			
	音2	芸術鑑賞論	森本	講義室4															
舞2				舞踊上演演習III(西洋)	辻元	トレ室	比較舞踊論	矢島	講義室5				舞踊実習III(舞踊構成)	柴崎(照)	日舞演				
演2							ステージマネジメント	白神	講義室6	能狂言の演技論	児玉	講義室10							
4	子1A	保育原理II(課程と方法)	阿部	講義室7				子どもの保健	西山	講義室1	子ども観の歴史	原	講義室1						
	子1B				保育内容(健康)	鈴木(琴)	講義室7	子どもの養護	井上	講義室7									
	子2A	発達と障害	氏森	講義室9	保育内容総論	阿部	講義室8	理科指導法	岩本(泰)	講義室8	生活指導	羽田	講義室7						
	子2B							社会科指導法	福井	講義室9									
	子3A	レクリエーション(実技)	杉本・菅原	トレ室							教育の組織と運営	牛尾	講義室8	音楽科指導法	松井	音楽演			
	子3B										教育相談	氏森	講義室9						
	音1	弦楽器A,B,C	塩高・竹澤・牟田口	音楽演	管楽器A,B	齊藤・西澤	ホール・レッスン室	管楽器C,D	善美寺・内田	音楽演・日舞演	声楽基礎A(日本音楽)	竹澤	日舞演						
	舞1	舞踊史概論(西洋舞踊史)	山野	講義室5				ダンス・クラシックI(基礎)	加藤	トレ室									
	演1	演技論	中野	ドラマ演							発声法	善竹	ドラマ演	学習と表現の技法	全教員	講義室1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11			
	音2	作曲C(現代作品語法)	森本	音楽演	卒業研究	全教員	音演・日舞演・トレ室・ドラマ演・他												
舞2	舞踊上演演習III(歌舞伎舞踊)	宍戸	日舞演				プロデュースイング	富澤	講義室6										
演2																			
5	子1A	保育内容(表現B)	小鴨・山本	美術室	教育方法II③	山本(博)	PC室												
	子1B	保育内容(表現A)	陸路	音楽演															
	子2A							理科	岩本(泰)	講義室8	特別活動の指導	山本	講義室9	学習と表現の技法	全教員	講義室1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11			
	子2B							社会	福井	講義室9									
	子3A				卒業研究	全教員	講義室1,2,3,6,7,8,9,10,11												
	子3B																		
	音1				フィールドワーク基礎I	笠原	講義室4	声楽基礎B(西洋音楽)	クロイツァー	音楽演									
	舞1	歌舞伎舞踊実技I	宍戸	日舞演	日本舞踊実技I	宮地	日舞演	舞踊実習I(創作舞踊)	宮地	日舞演				舞踊上演演習I(西洋)	塩崎	トレ室			
	演1				身体訓練A(ムーブメント)	塩崎	トレ室	演出論	中村	講義室6									
	音2	音楽人類学	笠原	講義室4										音楽劇創作実習II	牟田口・森本・茂手木・笠原	音演・日舞演			
舞2	舞踊実習III(構成法)	辻元	トレ室																
演2				演技VI(演技総合)	J.アーカリー	ドラマ演	演技VII(上演)	中野	ドラマ演										

①、②、③等はクラス分け

芸術教養学科 入学からコース分けへ

入学

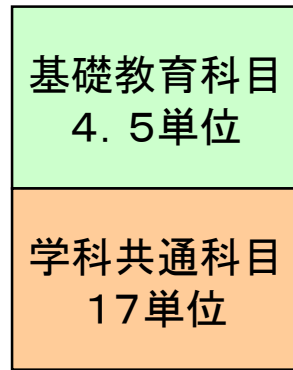


入試内容
(一般入学試験)

小論文
芸術教養科目
面接
実技

音・舞・演から得意
分野を登録し、受験する

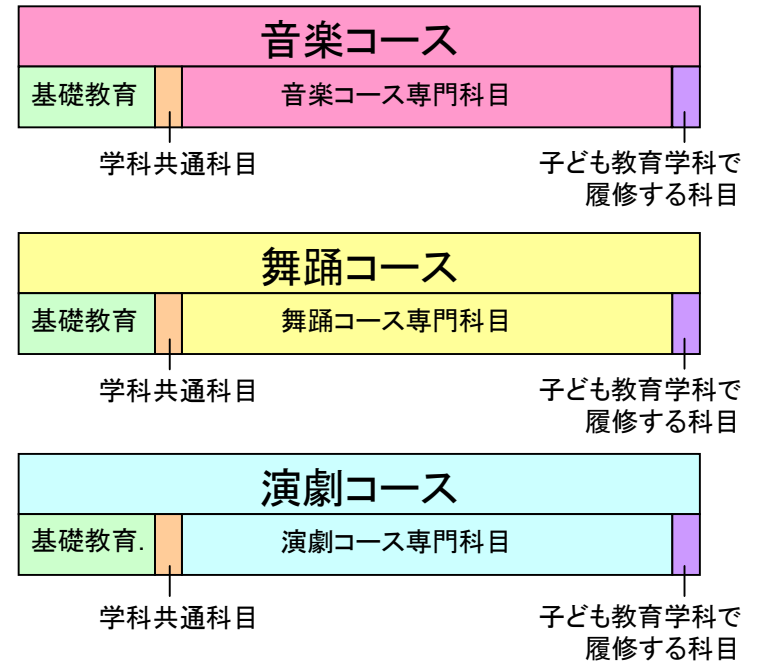
1年次前期
21.5単位



1年次前期クラスセミナー
「学習と表現の技法」で、
コース選択の面接・指導

学生が自らの判断で
コース選択

1年次後期～2年次
51.5単位



基礎教育科目:	11.5単位
学科共通科目:	2単位
コース専門科目:	36単位
子ども教育学科で履修する科目:	2単位

【別表・第7の1】教育実習巡回指導担当表

1. 実習の開設時期と期間

実習の開設時期と期間	必修	幼稚園教育実習	2年 前／後	幼稚園 4週間(前期2週間／後期2週間)
		保育実習Ⅰ(保育所)	3年 前	保育所 12日間
		保育実習Ⅰ(施設)	3年 前	諸施設 12日間
	選択必修(選択)	保育実習Ⅱ(保育所)	3年 後	保育所 12日間(選択必修3年後期／選択3年後期)
		保育実習Ⅲ(施設)	3年 後	諸施設 12日間(選択必修3年後期／選択3年後期)
	選択	小学校教育実習	3年 前	小学校 2週間

2. 学生定員と実習施設(校)配当数、及び実習施設(校)数

- (1) 子ども教育学科 学生定員数 100名
 (2) 1実習園(校)への平均学生配当数 2名
 (3) 実習施設数
 必修 幼稚園 50 保育所 50 施設 50
 選択必修 保育所／施設 50
 選択 保育所／施設 50
 選択 小学校 10

3. 実習巡視指導担当数

実習	必修			選択必修	選択	選択
	幼稚園教育実習	保育実習(保育所)	保育実習(施設)	保育実習Ⅱ/Ⅲ	保育実習Ⅱ/Ⅲ	小学校教育実習
学年	2	2	3	3	3	3
開設時期	前期	後期	前期	前期	後期	後期
教員	巡回指導担当数	巡回指導担当数	巡回指導担当数	巡回指導担当数	巡回指導担当数	巡回指導担当数
教員 1 幼・教育実習担当	5	5	5	4	5	1
教員 2 小・教育実習担当	5	5	4	5	4	3
教員 3	5	5	4	4	4	3
教員 4 保育実習担当	4	4	5	5	5	1
教員 5 保育実習担当	4	4	5	5	5	1
教員 6	4	4	4	4	4	0
教員 7	4	4	4	4	4	0
教員 8	4	4	4	4	4	0
教員 9	4	4	4	4	4	0
教員10	4	4	4	4	4	0
教員11	4	4	4	4	4	0
教員12 センター長	2	2	2	2	2	1
教員13 学科長	1	1	1	1	1	0
合計	50	50	50	50	50	10

別表第7の2 子ども教育実践総合センター規程(案)

子ども教育実践総合センター規程(案)

子ども教育実践総合センター(以下、実践総合センターという)は本学の幼稚園教育実習、保育実習、及び小学校教育実習などが円滑に実施されるよう幼稚園、保育所、小学校などとの連携を密にし、実習に関する一切の教育的業務を行う。また実習の問題点を調査・研究し、新しい実習のあり方や方策を検討することを目的とする。

そのために実践総合センターは本学学生の多様なインターンシップを推進するとともに、本学が地域への貢献に積極的に取り組めるよう行政、幼児教育研究機関、保育・教育現場、さらに保護者との連携・協力関係を開拓し、幼児教育のあり方を探求することも目的とする。

(事業)

- 1 実習の企画実施の管理に関すること
 - ・実習計画を立案して実習委員会に提案すること。
 - ・実習計画に基づいて関係教員の役割・分担を調整すること。
 - ・関係教員の協力を得ながら実習の事前・事後指導を実施すること。
 - ・実習の進行状況に絶えず留意し、問題があれば関係教員とともに解決を図ること。
 - ・年度及び個別のプログラムの計画書及び報告資料を作成すること。
- 2 実習の内容・水準に関すること
 - ・実習のカリキュラム・教材の開発を推進する母体となること。
 - ・実習に関わるすべての教員に対し、実習を指導する教員としての自覚と指導力向上のためのFDを推進すること。
- 3 学内外の関係者から成る実習評価協議会の開催
 - ・年に1回、実習評価協議会を開催する。
 - ・同協議会は、実習園(校)の実習指導担当教職員を招聘して行う。子ども教育学科の全教員が参加する。
 - ・同協議会では評価・検討・改善項目を自ら設定し、具体的な改善方策を明らかにする。
- 4 子育て支援事業に関すること
 - ・本学独自の取組みである「親子サロン」を運営し、学生に実践の機会を与えること。

(実践総合センター構成員)

実践総合センターは以下の教員によって構成される。

- ・実践総合センター長 (本学教員) 1名
 - ・実践総合センター所員 (本学教員) 3名
 - ・実践総合センター所員 (本学助手及び嘱託・非常勤(注)) 4名
- (注)幼稚園教諭又は保育士の資格を有し、かつ、5年以上の現場経験を有する者を学長が委嘱。

(任期)

- 1 2年とする。
- 2 本学の職員規程に抵触しない限り、再任を妨げない。
その他、必要な事項は別に定める。

別表資料第7の3 教育実習評価表

実習評価表（観察・参加実習平成〇〇年度）

学籍番号		実習指導教諭	
実習生氏名		氏名	印

評価項目	評価の観点	評価	所見
実習態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 礼儀、言葉づかい、服装、挨拶などが保育の場にふさわしかったか。 ・ 笑顔や声の大きさに活発さが見られたか。責任感、協調性をもって実習できたか。 	A B C D	
幼児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児との信頼関係を作ろうと積極的に関わっていたか ・ 一人一人の幼児の気持ちを理解することや年齢による発達の違いを理解しようとしていたか。 ・ クラス全体を把握しようとしたか。 	A B C D	
研究的態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の指導を素直に受け入れ、実習に活かそうと努力したか。 ・ 事前学習、実習の準備、質問をする、課題発見など意欲的であったか。 	A B C D	
仕事の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習日誌を毎日書き、提出したか。 ・ 実習の着眼点に沿った記録、考察、反省をしていたか。 ・ 清掃、保育準備を積極的に行ったか。 ・ 部分実習の立案、導入・展開・まとめは、幼児の実態を捉えて行われたか。 	A B C D	
保育者の適性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤務態度、研究態度、保育への意欲、仕事の処理能力は、保育者としての適性を感じさせるものがあつたか。 ・ 自分の立場をわきまえ、現場のチームワークを乱すことなく、実習が行えたか。 	A B C D	

(注) A-優れている B-普通 C-やや劣る D-特に劣る
各評価欄および総合評価欄の該当するものを○で囲んでください。

総合評価 A B C D					
総合所見					
実習期間		出席すべき日数	出席日数	欠席日数	
月 日 ~ 月 日	日	日	病 欠	日	遅刻
			事故欠	日	早退
園名			園長名		
					印

※ 恐れ入りますが、実習評価表は必ず同封の返信用封筒にてお送りください。

有明教育芸術短期大学

教育実習評価表（本実習平成〇〇年度）

学籍番号		実習指導教諭	
実習生氏名		氏名	印

評価項目	評価の観点	評価	所見
実習態度	<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀、言葉づかい、服装、挨拶などが保育の場にふさわしいものであったか ・積極的に行動や質問をしたり、責任感、協調性をもって実習していたか 	A B C D	
幼児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との信頼関係を作ろうと積極的に関わっていたか ・一人一人の幼児の気持ちを理解することや年齢による発達の違いを理解しようとしていたか ・クラス全体を把握しようとしていたか 	A B C D	
研究的態度	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の指導を素直に受け入れ、実習に活かそうと努めていたか ・事前学習、実習の準備、質問をする、課題をもつ、などを積極的に行っていたか 	A B C D	
仕事の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌を毎日記録し、提出していたか ・実習日誌において、誤字・脱字のない丁寧な記述をし、実習の着眼点に沿った記録、考察、反省をしていたか ・清掃、保育準備を積極的に行っていたか ・部分実習・責任実習の立案、導入・展開・まとめは、幼児の発達・実態を捉えて行われたか 	A B C D	
保育者の適性	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務態度、研究態度、保育への意欲、仕事の処理能力は、保育者としての適性を感じさせるものであったか ・自分の立場をわきまえ、現場のチームプレイを乱すことなく、実習を行っていたか 	A B C D	
<p>(注) A-優れている B-普通 C-やや劣る D-特に劣る 各評価欄および総合評価欄の該当するものを○で囲んでください。</p>			

総合評価 A B C D					
総合所見					
実習期間		出席すべき日数	出席日数	欠席日数	
月 日 ~ 月 日	日	日	病 欠	日	遅刻
			事故欠	日	早退
園名			園長名		
					印

※ 恐れ入りますが、実習評価表は必ず同封の返信用封筒にてお送りください。 有明教育芸術短期大学

保 育 実 習 I (保育所) 評 価 表

学籍番号		指導者氏名	印
実習生氏名			

評価項目	評価の観点	評価	所見
実習態度	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、服装、礼儀、言葉づかいが適切であったか ・健康管理に留意して実習を行うことができたか ・保育に必要な環境整備を心がけていたか ・保育士・職員と協力しながら実習に取り組むことができたか ・責任をもって行動することができたか 	A B C	
乳幼児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・各発達段階をふまえた対応を心がけていたか ・全体を考慮した適切な声のかけ方や援助に取り組んでいたか ・乳幼児の理解に努め、自ら積極的な態度で臨んでいたか 	A B C	
仕事の能力 実習への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌を毎日記録し、指定日に提出していたか ・実習日誌の内容については、指導者からの助言を的確にとらえ、記述できたか ・疑問な点は質問するなど、問題意識をもっていたか ・必要な知識・準備・見通しなどをもって臨む努力がみられたか ・実習生が設定した目的に対して、達成しようとする意欲がみられたか 	A B C	

(注) A-達成できた B-ほぼ達成できた C-充分達成できなかった D-達成できなかった
各項目の評価の観点について評価し、評価および総合評価の該当するものを○で囲んでください。

総合評価	A	B	C	D
総合所見				

実習期間	出席すべき日数	出席日数	欠席日数	遅刻・早退								
月 日 ~ 月 日	日	日	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">病 欠</td> <td style="width: 50%;">日</td> </tr> <tr> <td>事故欠</td> <td>日</td> </tr> </table>	病 欠	日	事故欠	日	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">遅刻</td> <td style="width: 50%;">日</td> </tr> <tr> <td>早退</td> <td>日</td> </tr> </table>	遅刻	日	早退	日
病 欠	日											
事故欠	日											
遅刻	日											
早退	日											

園名	園長名
印	

保 育 実 習 II (保育所) 評 価 表

学籍番号		指導者氏名	印
実習生氏名			

評価項目	評価の観点	評価	所見
実習態度	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、服装、礼儀、言葉づかいが適切であったか ・自己の健康管理に留意し、実習を行うことができたか ・保育に必要な環境整備を心がけ、整理整頓や環境美化に取り組んでいたか ・保育士・職員と協力・協調して実習に取り組むことができたか ・責任をもって行動し、主体的に実習に取り組んでいたか 	A B C	
乳幼児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・各発達段階をふまえた対応ができたか ・乳幼児の理解に努め、自ら積極的な態度で臨んでいたか ・乳幼児の個人、また集団への理解を深めた対応ができていたか 	A B C	
研究的態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定が適切で、課題達成を意識して実習を行っていたか ・必要な知識・準備・計画立案・見通しなどをもって取り組むことができたか 	A B C	
実習への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌の内容については、指導者からの助言を的確にとらえて記述できたか ・疑問な点は質問するなど、問題意識をもち、取り組んでいたか ・保育士の補助を通して保護者・家庭・地域との関わりへの理解に努めていたか 	A B C	

(注) A-達成できた B-ほぼ達成できた C-充分達成できなかった D-達成できなかった
各項目の観点を参考に、評価および総合評価の該当するものを○で囲んでください。

総合評価	A B C D
総合所見	

実習期間	出席すべき日数	出席日数	欠席日数	遅刻・早退
月 日 ~ 月 日	日	日	病 欠 日	遅刻 日
			事故欠 日	早退 日

園名	園長名
	印

保 育 実 習 I (施設) 評 価 表

学籍番号		指導者氏名	印
実習生氏名			

評価項目	評価の観点	評価	所見
実習態度	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、服装、礼儀、言葉づかいが適切であったか ・健康管理に留意して実習を行うことができたか ・保育に必要な環境整備を心がけ、整理整頓・環境美化に努めていたか ・職員と協力・協調して実習に取り組むことができたか ・責任をもって行動することができたか 	A B C	
利用者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を考慮した適切な声のかけ方や援助に取り組んでいたか ・利用者の理解に努め、自ら積極的な態度で臨んでいたか 	A B C	
研究的態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定が適切で、課題達成を意識して実習を行っていたか ・必要な知識・準備・計画立案・見通しなどをもって取り組むことができたか 	A B C	
実習への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌を毎日記録し、指定日に提出していたか ・実習日誌の内容については、指導者からの助言を的確にとらえ、記述できたか ・疑問な点は質問するなど、問題意識をもっていたか ・実習生が設定した目的に対して、達成しようとする意欲がみられたか 	A B C	

(注) Aー達成できた Bーほぼ達成できた Cー充分達成できなかった Dー達成できなかった
各項目の評価の観点について評価し、評価および総合評価の該当するものを○で囲んでください。

総合評価 A B C D

総合所見

実習期間	出席すべき日数	出席日数	欠席日数	遅刻・早退
月 日 ~ 月 日	日	日	病 欠 日	遅刻 日
			事故欠 日	早退 日

施設名

施設長名

印

保 育 実 習 Ⅲ(施設) 評 価 表

学籍番号		指導者氏名	印
実習生氏名			

評価項目	評価の観点	評価	所見
実習生としての姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、服装、礼儀、言葉づかい、立ち居振る舞いなどが適切であったか ・課題やねらいを意識し、達成しようとする姿勢がみられたか ・他の職員と協力しながら、主体的に仕事に取り組むことができたか 	A B C	
研究的態度	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問な点は質問するなど、問題意識をもち、取り組んでいたか ・職員の補助を通して利用者や施設、その社会的な問題について関心をもち学ぼうとしたか 	A B C	
利用者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の理解に努め、受容的な態度で接することができたか ・利用者と親密な関係を築き、信頼を得て個人や集団に働きかけられたか ・利用者に応じた対応を心がけ、全体を考慮して、自ら積極的な態度で臨んでいたか 	A B C	
実習への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌を適切に記録し、助言を的確にとらえ、指定日に提出していたか ・保育士の職務を十分に理解し、迅速かつ的確に責任を持って最後まで行えたか ・事務処理や環境整備などに前向きに取り組んでいたか ・勤務態度に創意や熱意が感じられ、保育士として必要な資質等の習得に努めていたか 	A B C	

(注) A-達成できた B-ほぼ達成できた C-充分達成できなかった D-達成できなかった
各項目の評価の観点について評価し、評価および総合評価の該当するものを○で囲んでください。

総合評価	A	B	C	D
総合所見				

実習期間	出席すべき日数	出席日数	欠席日数	遅刻・早退
月 日 ~ 月 日	日	日	病 欠 日	遅刻 日
			事故欠 日	早退 日

施設名	施設長名
印	

教 育 実 習（小学校） 評 価 表

学籍番号		指導者氏名	印
実習生氏名			

評価項目	評価の観点 (優れたものに○、劣るものに△、評価しなかったものには/)	評定	所見 (評定が5または1の場合に記入)
教材研究	<input type="checkbox"/> 教科書等の分析・活用 <input type="checkbox"/> 学習指導要領及び学校指導計画の検討 <input type="checkbox"/> 興味・関心に応じた教材の開発・工夫 <input type="checkbox"/> 単元設定理由の明確化 <input type="checkbox"/> 教科内容に関する専門性 <input type="checkbox"/> ()	5 4 3 2 1	
指導計画の立案	<input type="checkbox"/> 本時の目標と評価の明確化 <input type="checkbox"/> 目標に応じた学習指導過程の構想 <input type="checkbox"/> 発問・助言等と反応予測の明確化 <input type="checkbox"/> 資料・教具・機器等の準備、板書計画等の立案 <input type="checkbox"/> ()	5 4 3 2 1	
学習指導と評価	<input type="checkbox"/> 音声・言語・文字等の明確さ、正確さ <input type="checkbox"/> 児童の反応への適切な対応 <input type="checkbox"/> 資料・教具・機器等の活用、効果的な板書 <input type="checkbox"/> 授業中および授業後の適切な評価活動 <input type="checkbox"/> ()	5 4 3 2 1	
生活指導と児童・生徒理解	<input type="checkbox"/> 生活場面での児童との関わり <input type="checkbox"/> 学級指導および教室環境への配慮 <input type="checkbox"/> 観察に基づく個と集団の課題把握 <input type="checkbox"/> 道徳・特別活動への参加 <input type="checkbox"/> ()	5 4 3 2 1	
勤務態度と実習への意欲	<input type="checkbox"/> 出勤の状況（無断欠勤、遅刻等） <input type="checkbox"/> 指導案・日誌等提出物の提出状況 <input type="checkbox"/> 教職免の校務についての理解 <input type="checkbox"/> 協同的な姿勢・コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 人権などへの配慮と規範意識 <input type="checkbox"/> ()	5 4 3 2 1	
合計()点	評価の基準→A:25-21、B:20-15、C:14-12、D:11-10、F:9-5 (Fは不合格)		
総合評価	A ・ B ・ C ・ D ・ F (Fは不合格)		
所見			

実習期間	出席すべき日数	出席日数	欠席日数		遅刻・早退	
月 日 ~ 月 日	日	日	病 欠	日	遅刻	日
			事故欠	日	早退	日
学校名	公印		指導教諭氏名 (学級)			
校長名			印			
			指導教諭氏名 (教科)			
			印			

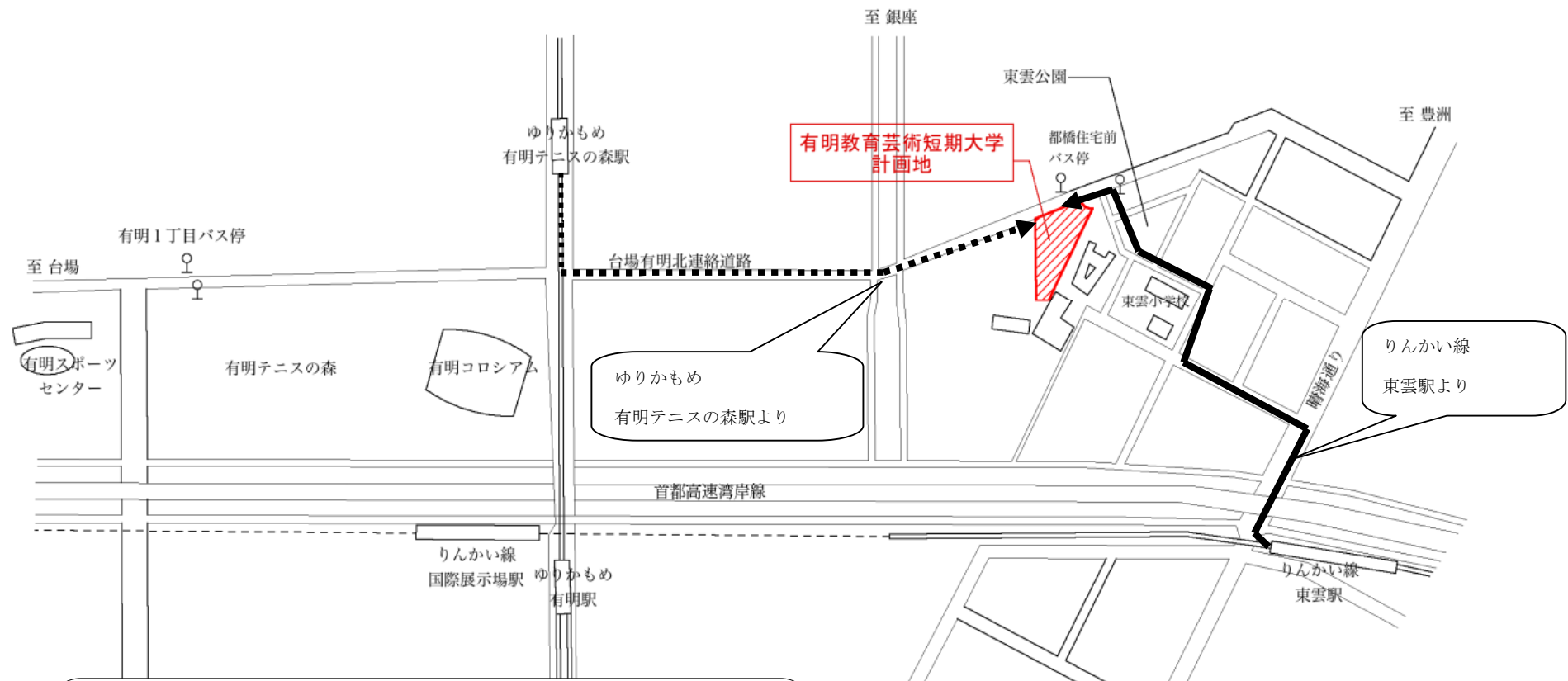
有明教育芸術短期大学

東京都における位置図

有明教育芸術短期大学

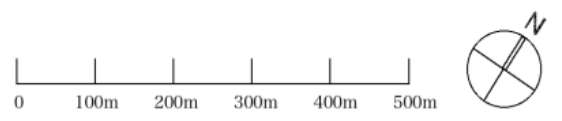


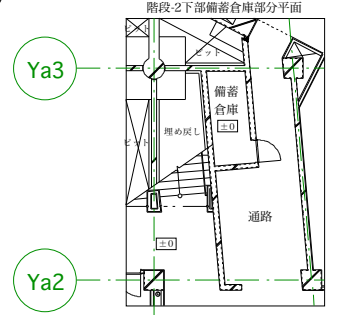
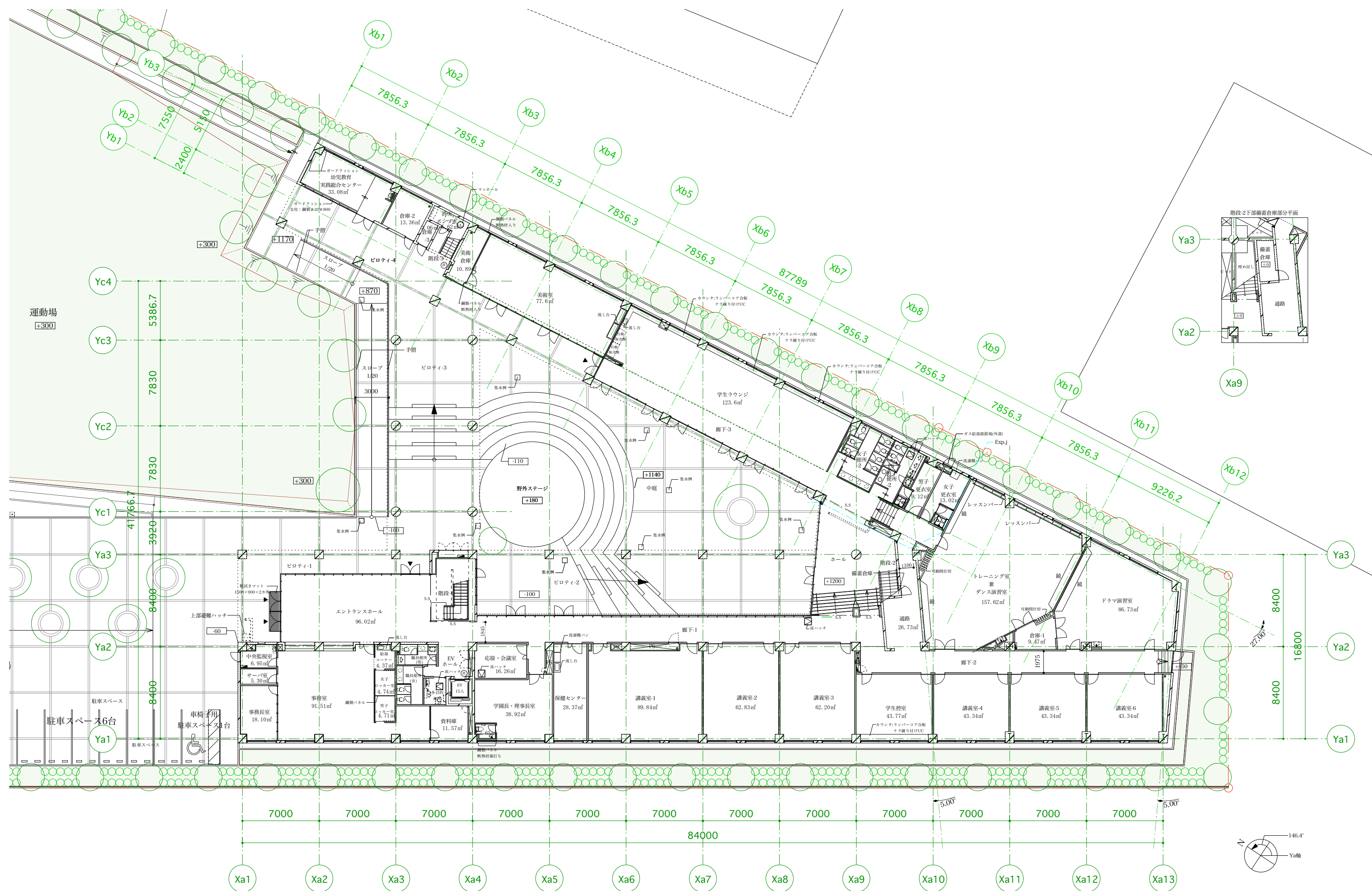
有明教育芸術短期大学アクセスマップ



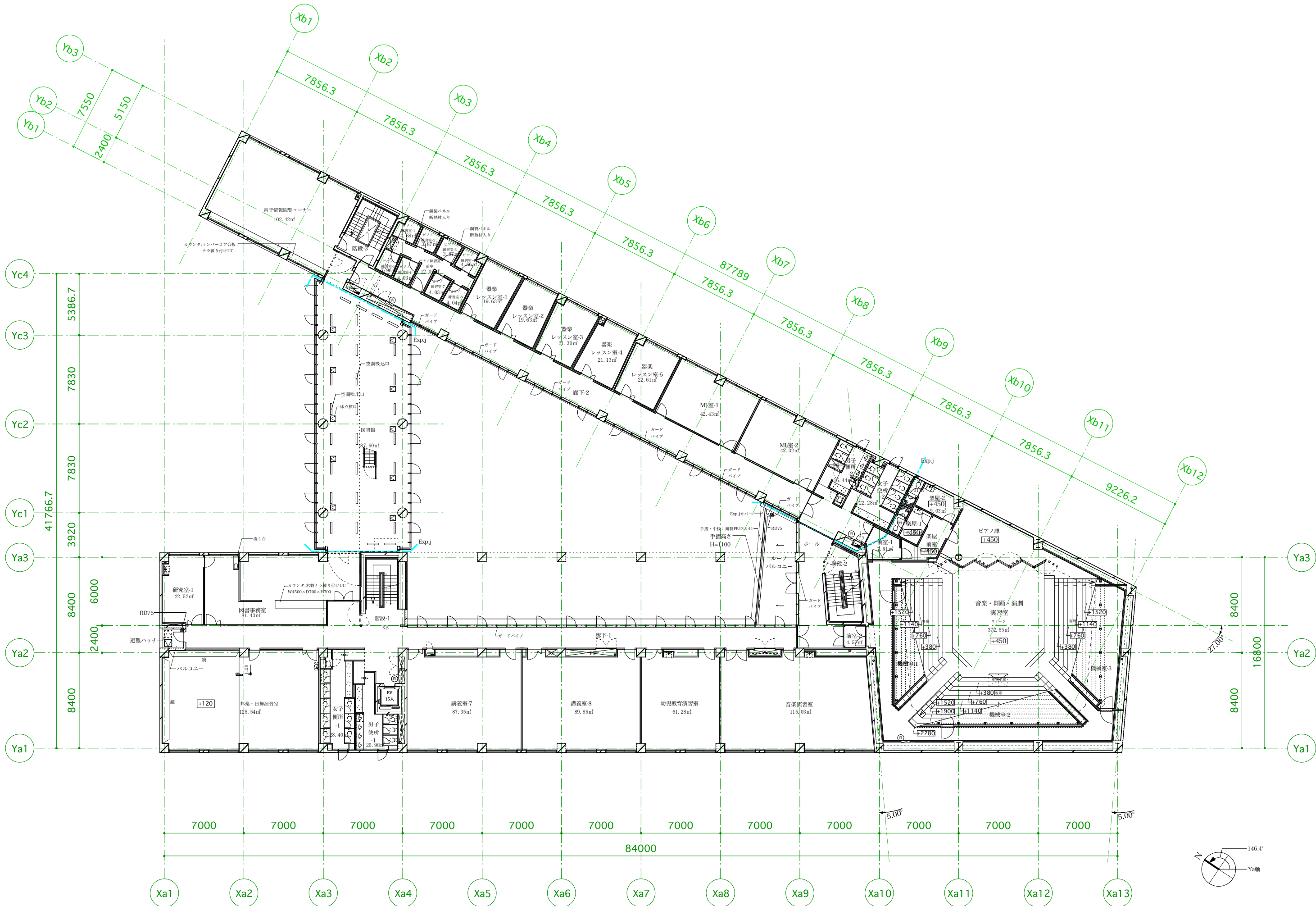
[バス路線]

(東 16)	(海 01)
東京駅	国際展示場正門行き
↓	↓
(八重洲中央口)	(ゆりかもめ)
	門前仲町
	↓
	(東西線・大江戸線)
	国際展示場正門行き 又は
	↓
	(ゆりかもめ)
	東京テレポート行き

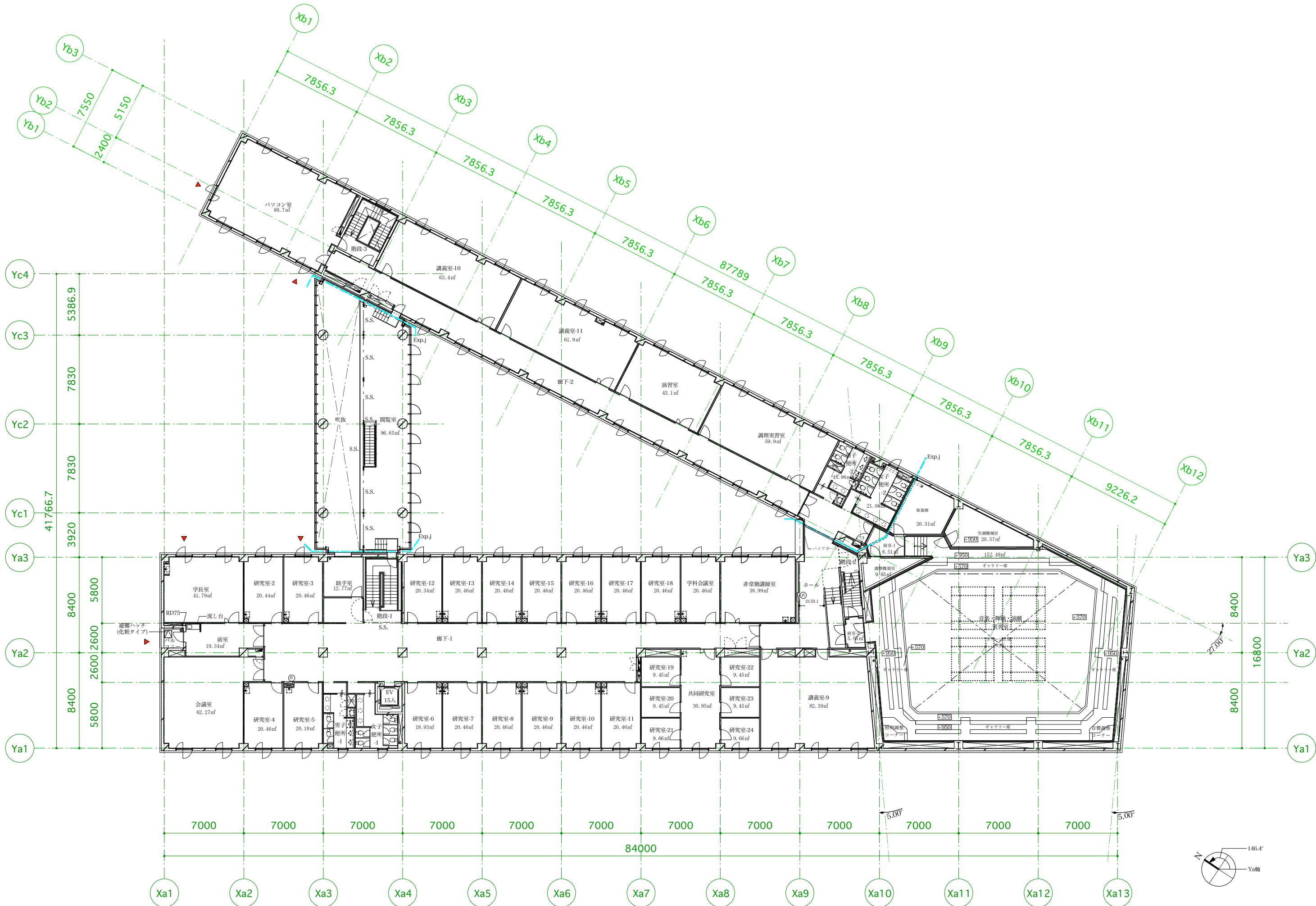




製図 校間	消化器ボックス20カ所 (1-3F計)	工事名 学校法人 三浦学園 有明教育芸術短期大学(仮称) 新築工事	図面名 1階平面図	縮尺 1:300	図面番号 -	意匠



製図 校関	注) 特記なき床レベルは2n±0とする。 □内の数字は2n±0を基準とする。	消火器ボックス20カ所 (1-3F計)	工事名 学校法人 三浦学園 有明教育芸術短期大学(仮称) 新築工事	図面名 2階平面図	縮尺 1 : 300	図面番号 -	意匠



製図 校閲	校関	注) 特記なき球レベルはZn±0とする。 □内の数字はZn±0を基準とする。 ▼:非常用進入口に代わる開口部	工事名 学校法人 三浦学園 有明教育芸術短期大学(仮称) 新築工事	図面名 3階平面図	縮尺 1:300	図面番号 -	意匠